

工卜7K-24

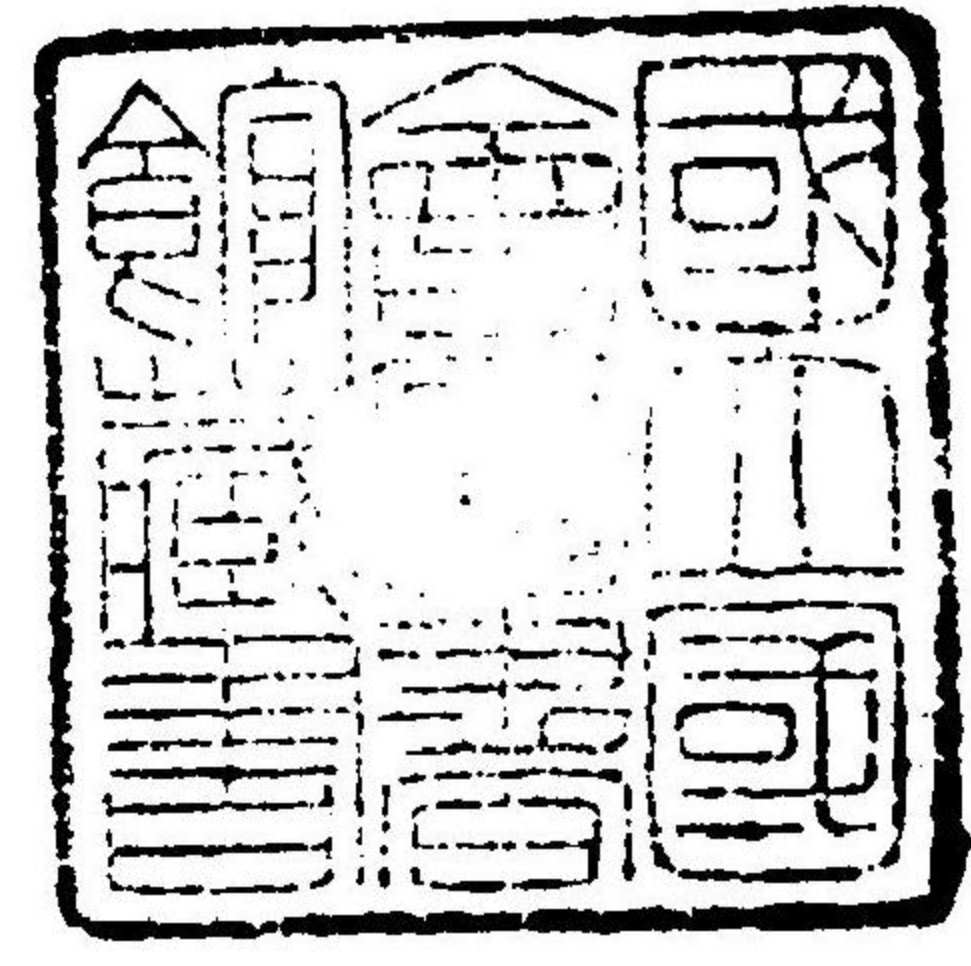
有賀長雄編述

日本古代法釋義

東京牧野書房刊



322.1A748m



390160

自序

古代ノ法制ハ父祖ノ敬愛スヘキ遺物ニシテ後世ノ一字隻句ヲ保有セ
 ンコトヲカムヘキ所ナリ、又永ク民衆ノ遵奉スル所ナリシ典章ハ世變
 ノ一大要因ニシテ歴史ト親密關係アリ、大寶令律ノ如キ、五百年 政治
 ノ規模ト爲リ、朝憲此ヲ以テ振ヒ又此ニ因リテ破ル、其ノ蘊奧ヲ究ムル
 ニ非サレハ誰レカ中古世變ノ真相ヲ觀ルコトヲ得ンヤ、貞永式目ノ北
 條氏ニ於ケル、公武法制ノ徳川氏ニ於ケル、皆一時ノ世態ト相表裏シテ
 離ツ可カラズ、唯其ノ文章一種特異ノ古格ニ出ツルヲ以テ專修ノ士ニ
 非サルヨリハ會得シ易カラス、普通ノ識見アル者ニシテ未其ノ一斑ヲ
 知ラサルハ恐クハ父祖ノ遺業ヲ敬愛シテ斯ノ國體ヲ尊重スル所以ニ
 非ス、余固ヨリ淺學寡聞自其器ニ非サルヲ知ルト雖茲ニ獨修シテ得タ
 ル所ヲ以テ世ニ公ニスルモノ或ハ幸ニシテ同志學生諸氏ノ間ニ講究

(一)

(二)

ノ念ヲ勝起スルニ足ランコトヲ望メハナリ、亦他意アルニ非ス、時下公務繁劇學事ニ潜心スルコトヲ得ス、又文字ヲ潤修スルニ違ナシ、謬妄誤錯固ヨリ其ノ處ノミ、讀者之ヲ諒セヨ

明治廿六年三月下旬

於內閣總理大臣秘書官々舍 長雄識

日本古代法釋義凡例

凡 一 曩ニ帝國史略ヲ編述スルニ當リ古代法制ノ國家變遷ニ關係アルモノヲ擧ケテ本文ニ挿入セントセシモ條章繁多爲ニ書冊ヲシテ過大ナラシムルノ恐アリ故ニ茲ニ之ヲ別冊トシテ刊行ス、讀者兩書ヲ對讀セハ便ナラン。

一 大寶律令貞永式目等ノ文ハ專修者ニ非サレハ讀下シ難キモノ多シ、因テ轉倒ヲ更メ假名ヲ加ヘテ成ル可ク近時ノ文體ニ近カラシメンコトヲ勉メマリ。

例 一 律令式目及百箇條ノ條項ハ敘列錯綜セルヲ以テ之ヲ分類シ、且要ヲ擧ケテ繁ヲ省キマリ、其ノ他織田氏豐臣氏ノ法制ニ至リテハ大抵全文ヲ掲載セリ。

(一) 一 編者ノ注釋ハ或ハ行頭ヲ低クシ或ハ〔〕ノ内ニ收メ以テ本文ト分知

シ易カラシメタリ。
一式目元注及式目未練抄ノ中間、意義分明ナラサル處アリ、是レ或ハ謄
寫ノ誤脱ニ基キ或ハ當時慣用ノ言句ノ今日ニ傳ラサルモノアルニ
因ル即姑ク本文ノマ、ヲ抄出シテ他日ノ研究ニ讓レリ。

日本古代法釋義目次

第一章 聖德太子十七憲法

- 一節 十七憲法ノ來歴
- 二節 十七憲法ノ本條
- 三節 十七憲法ノ批評

第二章 大寶令

- 一節 大寶令ノ來歴
- 二節 律令格式
- 三節 大寶令ノ組織
- 四節 大寶令ノ法理
- 六節 令義解、令集解、令抄等

第三章 二官八省一臺

- 一節 神祇官
- 二節 太政官
- 三節 中務省
- 四節 式部省
- 五節 治部省
- 六節 民部省
- 七節 兵部省
- 八節 刑部省

次目義釋法代古

(二)

次目義釋法代古

九節 大藏省
十一節 彈正臺

十節 宮内省

第四章 地方官廳及軍制

六一

一節 左京職 右京職
三節 大宰府
五節 郡司
七節 軍制

二節 攝津職
四節 國司
六節 國守職制

第五章 位階官職及門閥主義

六九

一節 官位相當ノ制
三節 食封位田職田功田
五節 位階官ノ制

二節 位田位祿ノ制
四節 學生科試
六節 選叙考課ノ制

第六章 人民及土地

八三

一節 里坊
三節 戶籍

二節 一戶
四節 五保

五節 斑田
七節 園地

六節 宅地

第七章 財政及兵役

九三

一節 人民土地ニ關スル義務
三節 調
五節 租
二節 計帳及課口
四節 庸
六節 徵兵

第八章 私法

一〇一

一節 大實令中私法條項
三節 賣買條項
五節 氏長權ノ順末
七節 家督相續條項
九節 婚姻法條項
十一節 遺產分當法
二節 質入條項
四節 損害條項
六節 家長權
八節 養子法條項
十節 離婚法條項
十二節 親族相助

次目義釋法代古

(三)

第九章 治罪

一一九

(四)

次 目 義 釋 法 代 古

| | | | |
|------------------------------------|--------|-----|-------------------|
| 一節 | 告訴告發 | 二節 | 逮捕 |
| 三節 | 裁判管轄 | 四節 | 裁判手續 |
| 第十章 大寶令總說 ……………一二七 | | | |
| 一節 | 大寶律ノ來歴 | 二節 | 法曹至要抄、金玉掌中抄、裁判至要抄 |
| 三節 | 大寶律ノ組織 | 四節 | 大寶律ノ法理 |
| 第十一章 五刑、八虐、六議、及名例律 ……………一三五 | | | |
| 一節 | 刑名 | 二節 | 八虐 |
| 三節 | 六議 | 四節 | 總廢 |
| 五節 | 官當 | 六節 | 附加刑 |
| 七節 | 老疾應特 | 八節 | 再犯加重 |
| 九節 | 老幼收贖 | 十節 | 財物沒官 |
| 十一節 | 自首代首 | 十二節 | 囚禁特例 |
| 十三節 | 赦免 | | |
| 第十二章 衛禁律 ……………一五六 | | | |

(五)

次 目 義 釋 法 代 古

| | | |
|-------|---------|-----|
| 第十三章 | 職制律 | 一六四 |
| 第十四章 | 戶婚律 | 一八七 |
| 第十五章 | 賊盜律 | 一九七 |
| 第十六章 | 厩庫律 | 二二二 |
| 第十七章 | 擅興律 | 二二八 |
| 第十八章 | 鬪爭律 | 二三〇 |
| 第十九章 | 詐僞律 | 二四〇 |
| 第二十章 | 雜律 | 二四三 |
| 第二十一章 | 捕亡律 | 二五一 |
| 第二十二章 | 斷獄律 | 二五六 |
| 第二十三章 | 貞永式目總說 | 二五九 |
| 一節 | 貞永式目ノ來歴 | |
| 二節 | 貞永式目ノ組織 | |

(六)

次目義釋法代古

| | | | |
|-----------------------------|---------|----|-----------|
| 三節 | 貞永式目ノ法理 | 四節 | 貞永式目ノ範圍 |
| 五節 | 貞永式目ノ用語 | 六節 | 貞永式目ノ本條 |
| 第廿四章 貞永式目條條二八九 | | | |
| 一節 | 寺社條々 | 二節 | 諸國地頭守護人條々 |
| 三節 | 安堵ノ條々 | 四節 | 身分ノ條々 |
| 五節 | 論訴檢斷ノ條々 | | |
| 第廿五章 南朝ノ法制三三九 | | | |
| 一節 | 復古ノ形勢 | 二節 | 建武ノ法制 |
| 第廿六章 織田氏法制三四八 | | | |
| 一節 | 京中制度 | 二節 | 關東制度 |
| 第廿七章 豐臣氏法制三五六 | | | |
| 一節 | 田尺整理 | 二節 | 太閤式目 |
| 第廿八章 德川氏法制三六四 | | | |

(七)

次目義釋法代古

| | | | |
|----------------------------|-----------|-----|-----------|
| 一節 | 慶長十年法度 | 二節 | 朝臣法制 |
| 三節 | 三法度 | 四節 | 武家法度 |
| 五節 | 公家諸法度 | 六節 | 僧家諸法度 |
| 第廿九章 公武法制三七八 | | | |
| 一節 | 公武法制 | 二節 | 公武法制ノ法理 |
| 第三十章 家康百箇條三八八 | | | |
| 一節 | 家康百箇條ノ由來 | 二節 | 仁教ニ關ル條々 |
| 三節 | 權力編制ニ係ル條々 | 四節 | 將軍訓戒ノ條々 |
| 五節 | 士分訓戒ノ條々 | 六節 | 臣下待遇ノ條々 |
| 七節 | 舊格保守ノ條々 | 八節 | 地方行政ノ條々 |
| 九節 | 司法裁判ノ條々 | 十節 | 財政外交風紀ノ條々 |
| 十一節 | 信教條々 | 十二節 | 官吏職制ノ條々 |
| 十三節 | 相續及懲戒條々 | 十四節 | 朝廷尊敬條々 |
| 十五節 | 百箇條批評 | 十六節 | 百箇條別書 |

日本古代法釋義

從六位 有賀長雄 編

第一章 聖德太子十七憲法

○節一 十七憲法ノ來歴 茲ニ卷頭ニ於テ聖德太子ノ十七憲法ヲ載ルハ是レ本邦最古ノ法律タルコトヲ示サンカ爲ニ非ス、却テ其ノ眞ノ法律ニ非ルコトヲ證センカ爲ナリ。世ノ歴史家多クハ十七憲法ヲ以テ日本成文法ノ最モ古キモノナリト爲ス、其ノ初ハ弘仁格式ノ序ニ「上宮太子親作憲法十七箇條國家法制自茲始焉」トアルヨリ起リタルモノナレド、是レ誤謬ナリ、十七憲法ハ其ノ形式并實體ニ於テ法律ト稱ス可キモノニ非ス。形式上ヨリ之ヲ論スレハ十七憲法ハ攝政マリシ

第一聖德太子七十憲法

(一)

皇子ノ制定シ給ヒシ所ニシテ、時ノ天皇ノ命令シ給ヒシ所ニ非ス、皇子ハ皇太子トシテ天皇ノ政務ヲ攝政シ給ヒタルモ總ヘテ重要ノ國事ハ必ス詔勅ヲ以テ發セラレタリ、況ヤ法律ヲヤ、然ルニ十七憲法ハ日本書紀推古天皇十二年ノ段ニ「皇太子親筆作憲法十七條」トアルノミ、更ニ詔勅ノ「ナシ」因リテ唯皇太子カ諸官ノ上ニ立チテ之ヲ訓戒シ給フノ條文タルニ過キササルヲ知ルヘキナリ。次ニ實體ノ上ヨリ論スレバ、十七憲法ハ道德ノ準則ニシテ、法律ノ規程ニ非ス、道德ト法律トノ差別ハ彼レハ人ノ良心ニ訴ヘテ自ラ制セシメ、此レハ外ヨリ人ノ行爲ヲ拘束セテ一定ノ準率ニ合セシムルニ在リ、是ヲ以テ法律ハ不順ヲ待ツノ制裁ヲ要シ、道德ハ良心ヲ動カスノ理義ヲ要ス、今十七憲法ノ各項ヲ案スルニ、或ハ理義ヲ佛法ニ籍リ、儒學ニ取り、人ノ良心ニ入り内ヨリ其ノ言行ヲ慎マシメシコトヲカメタリ、故ニ之ヲ法律ト謂フ可カラサルナリ。

日本書紀ニ載セタル十七憲法ハ漢文ニシテ流暢ナラス、或ハ云フ是レ元ハ和文ナリシヲ後ニ漢文ニ改メタルモノナリト、今先ツ近時ノ文體ニ翻譯シテ其ノ全文ヲ掲ケ而シテ後歴史上ヨリ批評ヲ試ミントス。

○二 第十七憲法ノ本條 一ニ曰「和ヲ以テ貴ト爲シ、忤ル無キヲ宗

ト爲セヨ、人皆黨アリ、亦達スル者少ナシ、是ヲ以テ或ハ君父ニ順ハス、乍チ鄰里ニ違フ、然レトモ上和下睦、事ヲ論スルニ諧フトキハ、則チ事理自ラ通シ、何事カ成ラサラン」。

此ノ條ハ治國安民ノ大本和睦ニ在ルコトヲ述ヘタリ。和ヲ以テ貴ト爲シ、忤ル無キヲ宗ト爲ス「トハ忤ハ逆ト同シ、和ハ事ノ成ル所以ニシテ、忤ハ其ノ敗ル、所以ナリ、故ニ之ヲ第一條ニ置テ教誡ノ本ト爲シタリ、○「人皆黨アリ」トハ、朋黨比周トテ衆力ヲ恃ミテ己カ心ニ任セ、惡ニ與ミスルヲ黨ト云フ、凡ソ人ハ利慾ニ引レテ此ノ心アリ、○亦達

(四)

日 本 古 代 法 釋 義

スル者少ナシトハ利慾ト私意トニ引レス、理ニ順シ道ニ達スル者尤モ少シトナリ、○或ハ君父ニ順ハス、乍チ鄰里ニ違フトハ、人皆黨チ好ミ、明達ノモノ少ケレハ、君公ノ命令ニ順ハス、父母ニ孝心ナク、隣家里人ニ於テモ違フ心ノミ多クシテ、和睦ノ行無シトナリ、○然レトモ上和下睦シ事ヲ論スルニ諧フトキハ、則チ事理自ラ通シ、何事カ成ラサラントハ、事理難澁スルハ皆上下ノ意和合セス、黨心ニ引ル、故ナリ、上和キ下睦シキトキハ、則チ其ノ事理分明ニシテ難澁スルコトナシ、何事カ成ラサルヘケンヤト云フノ意ナリ、

二ニ曰、篤ク三寶ヲ敬セヨ、三寶ハ則チ四生ノ終歸、萬國ノ極宗ナリ、何ノ世誰レ人カ是ノ法ヲ貴ハサル、人尤惡鮮ナシ、能ク教フレハ之ニ從フ、其レ三寶ニ歸セサレハ何チ以テカ枉チ直フセン。

此ノ一條ハ佛法ノ尊信スヘキヲ説ク、篤ク三寶ヲ敬セヨ、トハ佛法僧

第一 聖 德 太子 七十 七 法

(五)

ノ三者ハ世ノ珍奇ノ如シ、故ニ寶ト名クト佛書ニ見エタリ、○三寶ハ四生ノ終歸、萬國ノ極宗ナリトハ、四生ハ胎生、卵生、濕生、化生ニテ有ラユル動物ノ總稱ナリ、極宗ハ極致ノ義ナリ、論者曰、天竺ニモ佛法ノ外ニ種々ノ教門アリ、支那ニハ儒老百家ノ教アリ、本朝ニモ神道王道アリ、然レトモ或ハ現世色身ノ上ニ於テ且ク推理シテ之ヲ論シ、或ハ後世幽冥ノ説ヲ爲スト雖、僅ニ三界ノ内ニ於テ之ヲ云ヘリ、佛教ヨリ之ヲ見ルトキハ未ダ生死流轉ノ境界ヲ脱セス、乃チ道ノ極宗ニ非サル所以ナリ、佛教ハ如來既ニ過去現在未來ニ通達シ、推理シテ之ヲ説クニ非ス、眼前ニ三世ノ因果ヲ見透シテ之ヲ演ヘタマヘリ、亦如來特リ知見シタマフノミニ非ス、他ノ智愚男女ノ輩ヲシテ見セシメタマヘリ云云、太子傳。唇補注。「人尤惡鮮ナシ」ハ教ヘテ化シ難キホトノ惡人ハ少ナシトナリ。

(六)

三ニ曰、詔ヲ承ケテハ必ス謹メヨ、君ハ則チ天、臣ハ則チ地、天覆ヒ地載ス、四時順行シ、万氣通スルコトヲ得、地天ヲ覆サント欲スレハ則チ壞チ致スノミ、是ヲ以テ君言ヘハ臣承リ、上行ヘハ下靡ク、故ニ詔ヲ承テハ必慎メ謹マサレハ自ラ敗ル」。

此ノ條ハ特ニ群臣百僚ノ君ニ對スル道ヲ言ヘリ。君臣上下ノ比喩ヲ天覆地載ニ取リタルハ甚ダ周易乾坤二卦ノ論法ニ近ク、文字モ多少相似タリ。第二條ニ於テハ三寶ノ尊ムヘキヲ説キナカラ、直ニ第三條ニ至リテ、三寶ノ外尙人君ノ尊ムヘキアルヲ説キタルハ論法ニ違ヘリ、況ヤ人君ヲ尊ムヘキ所以ヲ佛説ニ求メヌメテ易經ニ求メタルヲヤ、然リト雖、是レ必ス止ムヲ得サル所ナリ、何トナレハ、佛法ハ君父ノ道ヲ説クコト甚ダ疎ナレハナリ、此ノ事ハ佛法ノ以テ日本國民團結ノ基本トシ難キヲ証スヘシ。

日 本 古 代 法 釋 義

第一 聖 德 太 子 十 七 憲 法

(七)

四ニ曰、群卿百僚禮ヲ以テ本ト爲セヨ、其レ民ヲ治ルノ本ハ禮ニ在リ、上禮セサレハ下齊ハス、下禮ナケレハ必罪アリ、是ヲ以テ君臣禮アレハ位次亂レス、百姓禮アレハ國家自ラ治ル」。

此ノ條ハ、群卿百僚ヨリ下民ニ對スル道ヲ説ケリ、而シテ其ノ據ル所ハ孝經禮記等ニ在ルモノ、如シ、是レ又佛法ノ言ハサル所ナリ。

五ニ曰、養ヲ絶チ欲チ棄テ、明ニ訴訟ヲ辯セヨ、其レ百姓ノ訟ハ一日千事、一日尙爾リ、況ヤ累歳ヲヤ、頃口訟ヲ治ムル者、利ヲ得ルヲ常ト爲ス、賄ヲ見テ讞ヲ聽ク、便チ有財ノ訟ハ石ヲ水ニ投スルカ如ク、乏者ノ訴ハ水ヲ石ニ投スルニ似タリ、是ヲ以テ貧民ハ則チ由ル所ヲ知ラス、臣道モ亦焉ニ於テ闕ク」。

此ノ條ハ群卿百僚ヨリ下民ニ對スル所爲ノ格段ナル一種、即チ裁判ノ事ニ付キ、訓戒トモ云フ可キモノヲ擧ケタリ、而シテ其ノ據ル所ハ

(八) 文選ニ在リ。「發ヲ絶テ欲テ棄テ訴訟ヲ明辨ス」トハ、文選ノ註ニ食ヲ貪ルヲ發ト曰フ、即チ訴訟ヲ裁斷スル輩賄ヲ受ケテ之ヲ腹心ニ納ムルコト、食ヲ臟腑ニ吞ムニ似タリ、故ニ發ト云ヘリ、○「一日千事」トハ、訴ノ多キヲ云フ、○「賄ヲ見テ讞ヲ聽ク」トハ、讞ハ評議ナリ、人ノ賄賂ヲ受ケテ評定スルトキハ是非ヲ辨シ難キヲ戒メタリ、○「有財ノ訟ハ石ヲ水ニ投スルカ如ク、乏者ノ訴ハ水ヲ石ニ投スルニ似タリ」ト云フモ文選ノ語ナリ、文選ニ曰「似以水投石莫之受、如以石投水莫之逆」ト、之レ有財好縁ノ人ハ奸訴ナレトモ利ヲ得ルニ反シ貧乏無縁ノ輩ハ理訴ナレトモ敗テ取ルヲ云フ、○「臣道モ亦焉ニ於テ闕ク」トハ此ノ如ク最負ノ沙汰アルトキハ其ノ誤リ上ニ歸シ天恚リ、人恨ミ、其ノ罪累ナルトキハ國亂レ君亡フ、一人ノ私欲ニ耽リテ君ヲ亡ホス、實ニ人臣ノ道ニ背クトナリ。

六ニ曰「惡ヲ懲シ善ヲ勸ルハ古ノ良典ナリ、是ヲ以テ人ノ善ヲ匿スナク、惡ヲ見テハ必ス匡セヨ、其レ諂詐ハ則チ國家ヲ覆スノ利器タリ、人民ヲ絶ツノ鋒刃タリ、亦佞媚ノ者上ニ對シテハ則チ好テ下ノ過ヲ説キ、下ニ逢ヘハ則チ上ノ失ヲ誹謗ス、其レ此ノ如キノ人ハ皆君ニ忠ナク民ニ仁ナシ、是レ大亂ノ本ナリ」。

此ノ條ハ一般ニ勸善懲惡ノ要ヲ説キ、特ニ諂詐佞媚ハ國家ヲ覆スノ利器ニシテ、大亂ノ本ナル事ヲ述フ、或ハ論語ニ依リ文案ヲ建テタルモノカ。

七ニ曰「人各任アリ、掌ルコト宜シク濫レサルヘシ、其レ賢哲官ニ任スレハ、頌音則チ起リ、姦者官ニ在レハ、禍亂則チ繁シ、世ニ生レナカヲ知ル少ナシ、克ク念テ聖ト作ル、事大小トナク人ヲ得レハ必ス治リ、時緩急トナク賢ニ遇ヘハ自ラ寛ナリ、此レニ因テ國家永久ニシテ、社稷危キコトナ

シ、故ニ古ノ聖王ハ官ノ爲ニ以テ人ヲ求メ、人ノ爲ニ官ヲ求メス。此ノ條ハ官職ニ適當ノ人ヲ得ルノ必要ヲ説ク、世ニ生レナカラ知ル少ナシ、克ク念テ聖ト作ルトハ、尙書ニ「惟聖罔念作狂、克念作聖」トアルニ依レリ。

八ニ曰「群卿百僚早ク朝シ晏ク退ケ、王事^{モロキ}盥ナク、終日盡キ難シ、是ヲ以テ遇朝ハ急ナルニ遇ハス、早退ハ必ス事盡キス」。

此ノ條ハ朝政ノ軌ヲ舉ク「王事盥ナシ」トハ詩經ノ語ナリ、盥ハ池中ノ盥ヲ云フ、池中ノ盥ハ極メテモロク、シテ、如何ホト燒キテモ固クナラヌモノナリト云フ、モロキ靡シニテ堅固ト云フ意ニ解スルナリ、公務ハ孰レモ堅固嚴重ヲ要シ終日勞スルモ盡キストナリ。

九ニ曰「信ハ是レ義ノ本、每事信アレ、其レ善惡成敗信ニ在ルヲ要ス、群臣共ニ信アレハ何事カ成ラサラン、群臣共ニ信ナケレハ萬事悉ク敗レン」。

此ノ條ハ信ノ重ス可キヲ説ク、日本書紀ニ群臣ヲ君臣ニ作レリ、今太子傳曆ニ群臣トシタルニ依ル、君臣ノ間ナレハ忠ト謂フヘシ。

十ニ曰「怨ヲ絶チ瞋ヲ棄テ、人ノ違フヲ怒ラサレ、人皆心アリ、心各執アリ、彼レ是ナラハ則チ我レ非ナリ、我レ是ナラハ則チ彼レ非ナリ、我レ必ス聖ニ非ス、彼レ必ス愚ニ非ス、共ニ是レ凡夫ノミ、是非ノ理詎ソ能ク定ム可ケン、相共ニ賢ニシテ愚ナルコト環ノ端ナキカ如シ、是ヲ以テ彼レ人ハ瞋ルト雖還テ我カ失ヲ恐レ、我レ獨リ得ト雖衆ニ從ヒ同ク^{オコナ}擧ヘヨ」。此ノ條ハ瞋怒ヲ戒メタリ、凡ソ怒ハ我レチ是トシ人ヲ非トスルニ起ルモノナリ、サレト人モ亦其ノ己レチ是トシ他ヲ非トセリ、サレハ相共ニ賢ニシテ愚ナルコト環ノ如ク端ナシトハ、互ニ賢愚ノ間ニ往來シテ歸決スルニ由シナキヲ云フ。

十一ニ曰「功過ヲ明察シ、賞罰必ス當テヨ日者^{コソコロ}ハ賞ハ功ニ在テセス、罰ハ

罪ニ在テセス、執事群卿宜シク賞罰ヲ明ニスヘシ。

此ノ條ハ賞罰ノ正フスヘキヲ説ク、此ノ文ニ依テ見テモ當時門族ノ弊甚シク、最負偏頗ノ盛ニ行ハレタルヲ知ルヘシ。

十二ニ曰「國司國造百姓ニ斂スル勿レ、國ニ二君靡ク、民ニ兩主無シ、率土ノ兆民王ヲ以テ主トナス、任スル所ノ官司ハ皆是レ王臣ナリ、何ソ敢テ公ト與ニ百姓ニ賦斂センヤ」。

此ノ條ハ地方牧民ノ官ノ私曲ヲ戒メタリ、國司ハ此ノ時ヨリハ後ニ置カレタル官ニシテ大化改新ノ時始メテ之ヲ一般ノ制トシタルモノナリ。又國造ニ至リテハ前ニモ述フルカ如ク是レ其ノ地方地方ニ於テ曲部トモヘノ私民ト田園トヲ領有シタル氏族ノ氏上ナレハ、固ヨリ其ノ氏ニ屬スル人民ノ財產ヲ悉ク左右スルノ權ヲ有シタルヲ以テ其ノ部下タル百姓ヲ賦斂スルハ敢テ咎ム可キニ非ス。今案スルニ

十七憲法ニ謂フ所ノ國司ハ大化改新以後ノ國司ト同物ニ非ス、古代ノ地方巡察使ノ如キモノナルヘキコト前ニ述ヘタリ、又國造ニ於テモ己カ部下ニ非サル百姓ヲ賦斂スルノ權アルヘキニ非サレド、勢ニ任セテ權外ノ收斂ヲ爲ス者アリシト見エテ、太子之ヲ制止セシモノナリ。

十三ニ曰「諸ノ官ニ任スル者、同シク職掌ヲ知レヨ、或ハ病ミ、或ハ使シ、事ニ關クル有リ、然レトモ知ルヲ得ルノ日ハ、和シテ曾テ譴ル如クシ、其ノ與リ聞カサルヲ以テ公務ヲ妨クル勿レ」。

此ノ條ハ官吏ノ責任ヲ明ニシタルモノニシテ疾病ニ罹リ、或ハ外ニ使スルカ爲ニ關勤スルノ日アリトモ、其ノ日ニ起リタル事件ハ悉ク心得オクヘシ、後ニ至リ當日不在ノ廉ヲ以テ知ラスト辨スルコトヲ得ストナリ。

十四ニ曰「群卿百僚嫉妬アル勿レ、我レ既ニ人ヲ嫉メハ人モ亦我レヲ嫉ム、嫉妬ノ患ハ其ノ極ヲ知ラス、所以ニ智己レニ勝レハ悦ヒス、才己レニ優レハ則チ嫉妬ス、是ヲ以テ今五百歳ノ後乃チ賢ニ遇フトモ千載ヲ以テ一聖ヲ待チ難シ、其レ聖賢ヲ得サレハ何ヲ以テカ國ヲ治メン」。

此ノ條ハ人ノ才智ヲ妬ムコトヲ戒ム、蓋國家ハ賢人聖者ニ依ラサレハ治マラス、然レトモ賢人ハ五百年ニ一タヒ世ニ出ルコトアリトモ聖人ニ至リテハ一千年ニ一タヒモ得難キモノナリ、故ニ苟モ己レニ勝レル才智アル者ヲ見テ妬ムトキハ治道ニ害アリトナリ。

十五ニ曰「私ニ背キ公ニ向フハ是レ臣ノ道ナリ、凡ソ人私有レハ必ス恨有リ、恨有レハ必ス同セヌ同セサレハ則チ私ヲ以テ公ヲ妨ク、恨起レハ則チ制ニ違ヒ、法ヲ害ス、故ニ初章ニ云フ上和下睦トハ其レ亦是ノ情ナリ」。

此ノ條ハ國家ノ公事ト親族ノ私事トヲ混同スルヲ戒メタリ、同セヌトハ協和セサルヲ云フ。左傳ニ「以私害公、非忠矣」トアリ、公羊傳ニ「不以家事辭王事、以王事辭家事」トナリ。熟當時ノ情勢ヲ考フルニ第三期以前ニ於テハ未ダ公即チ國家ト私即チ氏族トノ別アラヌ、族制上ニ於テ氏上タル者ハ其ノ然ルノ故ヲ以テ己カ氏ノ男女ヲ管領スルノ權ヲ有シタリ。此ノ如キハ純然タル血族國家ノ編制ナリ。然ルニ此ノ制ニシテ其ノ末運ニ至ルトキハ、獨リ中央ノ一大氏上タル天皇ノミナラス、之ニ接近スル他ノ氏上モ漸ク權勢ヲ得テ終ニ夫ノ物部氏ノ如キ蘇我氏ノ如キ強族ヲ出タシ、其ノ間ニ爭權ヲ生シテ、國家亂レントス、故ニ爰ニ一新制度ヲ立テ、國家ノ公事ト血族ノ私事トヲ分別シ、血族ノ事ハ血統ノ尊卑ニ依テ之ヲ序理スト雖、國家ノ事ハ一人才ヲ以テ之ヲ經營シ、私交上ニ於テハ高貴ナル者タリト雖、才能

ナケレハ則チ國家ノ公事ニ於テ要地ニ置カス、門地上ニ於テハ卑賤ナル者ヲリトモ才能アレハ則チ國家ノ重職ニ任シ、全ク國家ト社交トチ分離スルノ必要ヲ生ス。是ノ如キハ各國ノ必ス有ル所ニシテ、日本モ亦物部氏蘇我氏ノ爭權以後此ノ狀態ニ陥リタリ、而シテ太子ハ十七憲法ヲ以テ公私チ分離セントシ、又別ニ十二階ノ冠色ヲ設ケテ朝廷即チ公事ニ於ケル上下ノ別ヲ表示セント企テタリ、只々策ノ疎ニシテ事ノ就ラサリシチ惜ムノミ。

十六ニ曰「民ヲ使フニ時ヲ以テスルハ古ノ良典ナリ、故ニ冬月間、アレハ以テ民ヲ使フ可シ、春ヨリ秋ニ至リ、農桑ノ節、民ヲ使フ可カラス、其レ農セス桑セサレハ何チ食シ何チ服セン」。

此ノ條ハ民役ノ事ヲ制ス。此ノ時代ニ於テモ前期ニ於テノ如ク時々百姓チシテ其ノ勞力ノ一部ヲ朝廷ニ獻セシメ、或ハ宮殿ノ建築道

橋ノ修理等ニ使役シタルモノナルヘシ。「使民以時」ハ論語ニ在リ。十七ニ曰「大事ハ獨斷ス可カラス、必ス衆ト論スヘシ、小事ハ是レ輕シ、必スシモ衆トス可カラス、唯々大事ヲ論スルニ迷テハ若失アラシク疑フ、故ニ衆ト相辯ス、辯ハ則チ理ヲ得ル」。

此ノ條ハ尙書ニ「弗詢之謀勿庸」ト云ヘルニ從ル、事件ノ重大ナラサル者ハ必スシモ人ニ諮詢セス却テ獨斷專行ヲ便利トス。又文選ニ曰「千金之裘非一狐腋、大厦之材非一丘之木、大平之功非一人之略焉」ト。

○三十七憲法ノ批評 聖德太子十七憲法ハ斯ク簡古ニシテ之ヲ法律ト謂ハンヨリハ寧ロ道德格言ト謂フノ適當ナルニ如カサルモノトス、何トナレハ逐條人ノ良心ニ訴ヘテ自ラ發心セシムルノ法ニ出ツレハナリ。然レ而シテ其ノ言フ所チ以テ推考スルトキハ當時ノ情勢ニ關シ甚々重大ナル事實ヲ發見シ難キニ非ス、左ニ其ノ二三ヲ擧ケン。

(二) 十七條ノ中、崇神敬祭ノ條一モ無シ、萬神ノ胸臆見ル可シトハ舊來ノ歴史家モ既ニ論シタル所ナリ。

(三) 抑、神武建國以來日本天皇カ庶民ニ君臨スルハ祖宗ノ遺訓ヲ續テ此ノ權ヲ代々ニ傳ヘ給フニ因レリ我カ君權ノ源ハ祖宗ニ發ス、然ルテ何ソヤ聖德太子ハ其ノ憲法第三ニ於テ詔ヲ承クレハ謹テ必ス之ヲ奉スヘキヲ説キナカラ一言祖宗ニ及ハス(第六ニ國家永久社稷勿危トアルハ漢文ノ常言ニテ特ニ日本ノ祖宗ヲ重スルノ言トモ見エス)却テ支那古代ノ哲學ニ見エタル天覆地載ノ理ニ依テ君主ノ尊戴スヘキヲ説カントス、是レ最モ奇異ナル一點ニシテ又一方ヨリ見レハ祖宗ヨリ傳フル所ノ君權ニ關スル理論ニ於テ早晚變動ノ起ラントスルヲ證スルニ足レリ。其ノ義他ナシ、夫ノ大伴、物部、蘇我ノ諸氏カ相繼テ權勢ヲ得テ終ニ制ス可カラサルニ至リシハ全ク族制ノ上ヨリ多クノ土地人民

ヲ私有シタルニ因ナルナリ、故ニ族制ヲ重スルハ大臣大連カ過分ノ權勢ヲ得ルニ至リタル原因ヲ重スルニ外ナラサレハ是レ固ヨリ得策ニ非ス。是ニ於テ太子ハ易理ヲ援引シテ君權ヲ説カントシタルモノナリ、其ノ意ノ在ル所ハ明ナリトイヘトモ、亦日本ニ於テ一時ニ族制ノ關係ヲ全廢スルハ國民團結ノ根本ヲ抜クニ等シカリシナリ。

(三) 次ニ最モ著シキハ國中ノ土地人民ヲ擧ケテ一ノ團體ヲ結成スルモノトナシ、此ノ團體ノ利益ノ爲ニハ一氏一家ノ利益ヲ犧牲ニスルノ義務アルコトヲ明示セルニ在リ。從來ハ天皇所領ノ人民ト云ヘハ御名代ノ民、歸化ノ民、沒收ノ民、等アルノミ、其ノ他ハ諸氏ノ私民ニシテ之ヲ國家ノ公民ト看做スコト無カリシヲ、十七憲法ニ至リ始メテ頻リニ百姓ノ字ヲ用井、諸氏ノ私民ニ至ルマテモ國家ノ公民ノ如ク論シタルハ甚ダ注目スヘキ一點ナリ。此ノ點ハ當時ノ社會ノ組織ト大ニ趣キ

異ニスル所アルヲ以テ、若日本書紀ニ十七憲法ヲ載セサリツランニハ、後世ノ歴史家ハ殆ト其ノ實物タルヲ疑フニ至ルヘキカ。例ヘハ第四ニ「百姓禮アレハ國家自ラ治ル」ト云ヒ、第五ニ「百姓ノ訟」ト云ヒ、第六ニ「國家永家ヲ覆スノ利器ト爲シ、人民ヲ絶ツノ鋒刃ト爲ス」ト云ヒ、第七ニ「國家永久」ト云フハ皆一族ヨリモ國家全体人民一般ノ重スヘキヲ言フモノナリ。第十二ニ「國ニ二君靡ク、民ニ兩主無シ率土民王ヲ以テ主トナス、住スル所ノ官司ハ皆是レ王臣ナリ」ト云フニ至リテハ斷然當時ノ事實ニ相違セルノ文ナリト謂ハサルヲ得ス、何トナレハ土地モ屯田ヲ除ク外ハ天皇ノ外ニ領主(即チ國造縣主等)アリ、人民モ御名代ノ民、歸化ノ民等ヲ除ク外ハ天皇ノ外ニ主長(即チ伴造、首直等)アルヲ上古一般ノ制トシタル事前ニ述ヘタルカ如クナレハナリ。蘇我氏ノ物部氏ヲ滅スルヤ、物部守屋ノ土地ヲ寺領ト爲シ、其ノ子孫從類凡二百七十三人ヲ寺

ノ奴婢トシタリ、是レ物部氏ノ私領地タリ私有民タリシヲ以テナリ、國家ノ公領公民タリツランニハ必ス他ノ策アラン。法令ヲ以テ私民ヲ廢シタルハ明ニ大化二年ノ大詔ニ在リ、然レトモ實際ハ推古天皇ノ時ニ於テ既ニ之ヲ廢シ、或ハ廢シ得可キノ勢ヲ存シタルモノナリヤ、未ダ詳ナラス、又案スルニ應神仁德ノ時ヨリ本朝ニ入リテ、佛教傳來ト共ニ益、隆盛ニ赴キタル漢土天下國家ノ論ハ大ニ新主義ノ進步ヲ助ケテ大化改新ノ豫因ヲ爲シタルモノカ。

第二章 大寶令

○節一 大寶令ノ來歴 大化改新ハ古ノ氏族政治ヲ廢シテ二千年間

繼續シタル帝政ノ型儀ヲ定マリタルノ時ナリ、大化ノ新政ハ文政ナリ

故ニ成文ノ法章ナカルヘカラス、即チ此ノ改新ノ大計畫者タリシ中臣

鎌子立法ノ企圖アリシコトハ其ノ傳ニ詳ナリ、天智天皇七年九月ノ段

ニ曰「是ヨリ先キ帝大臣ヲシテ禮義ヲ撰ミ、律令ヲ判定シ朝廷ノ訓ヲ作

ラシム大臣時ノ賢人ト舊章ヲ損シ略、條例ヲ爲ス」ト。即チ此ノ編纂ハ

天智天皇ノ十年ニ至リ成功シタリシモノト見ユ日本書紀同年ノ段ニ

「甲辰東宮大皇弟冠位法度ノ事ヲ奉宣施行シ大ニ天下ニ敎ス」トアリ其

ノ注ニ「法度位冠ノ石具ニ新律令ニ載ス」トセラレタリ。此ノ時都ハ近

江ノ滋賀ニ在リシヲ以テ天智天皇ノ律令ヲ稱シテ近江令ト云フ、二十

二卷ト傳ヘタリ、然レトモ朝廷ニ保存スルノミ普ク天下ニ刊行シタル

第二章 大寶令

ニ非ス。降テ天武天皇ノ九年ニ至リ更ニ律令編纂ノ舉アリ、萬機ヲ皇太子ニ委ネ天皇ハ專ラ此ノ事ニ潛心シ、明年令凡二十二卷ヲ造リ了ル、持統天皇ノ三年ニ諸司ニ頒布スル所即チ是レナリ。文武天皇四年刑部親王、藤原不比等ニ勅シテ更ニ律令ヲ撰定セシメ、明年即チ大寶元年ニ至リ始メテ成ル、天武編纂ノ律令ヲ以テ準據トシ、令十一卷律六卷トナス之ヲ大寶令律ト云フ、同年天下ニ頒布シ明法博士ヲ諸道ニ遣シテ講述セシメタリ。是ノ後元正天皇ノ養老二年ニ至リ更ニ大政大臣藤原不比等ニ勅シテ令律ヲ修定セシメ各々十卷トナス、然レトモ大寶令律ノ錯誤ヲ改正シ衍闕ヲ削補シタルノミナリ、之ヲ新令又ハ養老令律ト云フ今世ニ大寶令トシテ傳フル所是レナリ

○**律令格式** 大寶令ハ律ト格及式ト相待テ行ハレントシタルモノナリキ。大學衍義補ニ言唐ノ刑書四有リ、曰律、令、格、式、ナリ令ト

ハ尊卑貴賤ノ等數、國家ノ制度ナリ、格トハ百官有司ノ常ニ行フ所ノ事ナリ、式トハ其ノ常ニ守ル所ノ法ナリ、凡ソ邦國ノ政ハ必事コトニ此ノ三者ニ從フ其ノ違フ所アリ及人ノ惡ヲ爲シテ而シテ罪戾ニ入ル者ハ一ニ斷スルニ律ヲ以テス、律ノ書タル隋ノ舊ニ因テ十有二篇ヲ爲スト。サレハ今日ノ語ヲ以テ之ヲ言ハハ律ハ刑法、ナリ、令ハ皇室、政府、官吏、信教、紀律、財政、軍防、教育、内治等ニ關スル重大ナル法律ナリ、格ハ代々ノ天皇カ律令ノ範圍内ニ於テ之ヲ補充シ或ハ執行スル爲ニ發シ給ヘル命令ナリ、式ハ政府部内ノ事務章程ナリ。

令ト律トハ大寶以來大体ニ於テ變更スルコトナク行ハレ、格ト式トハ弘仁年間ニ大納言藤原冬嗣等ノ勅ヲ奉シテ撰集シタルヲ弘仁格、弘仁式ト云ヒ、次ニ貞觀年間ニ藤原氏宗等ノ勅ヲ奉シテ撰集シタルヲ貞觀格、貞觀式ト云ヒ、延喜年間ニ藤原忠平等ノ勅ヲ奉シテ撰集シタルヲ延

喜格、延喜式ト云フ、世ニ三代格三代式ト云フ是レナリ。
○三節 大寶令ノ組織 先ツ大寶令ノ事ヲ述ヘンニ、同令ハ左ノ十篇ヨリ成レリ。

第一、官位(凡ソ十九條) 此ノ一篇ハ前ニモ述ヘタル如ク大化ノ改制以後身分ト官等ト別離シ、身分ハ卑キ者ニテモ官ハ高キアリ、官ハ卑キ者ニテモ身分ハ高キアルヨリ身分ノ高下ヲ表スル制ノ外ニ別ニ官職ノ上ニ就テ上下ノ別ヲ表スルモノヲ要スルニ至リタルヨリ制定セシ所ニシテ何ノ官ハ何ノ位ニ相當スト云フ事ヲ規定シタルモノナリ、聖德太子以後往々變改シタル位階ノ制此ニ至リテ一定セリ。
第二、職員令(凡ソ八十條) 此ノ一篇ハ各官省寮司等ニ於ケル長官以下雜任ニ至ルマテノ吏員ノ職司及員數ヲ列記セリ。

第三、後宮職員令(凡ソ十條) 此ノ一篇ニハ後宮ニ於ケル妃、夫人、嬪、宮、人、尙侍、典侍以下ノ職司員數ヲ規定ス。

第四、東宮職員令(凡ソ十一條) 東宮ハ太子ノ處ナリ、此ノ一篇ハ太子ノ坐マヌ宮中ノ一部ノ職員ヲ明ニスルモノナリ。

第五、家令職員令(凡ソ十條) 此ノ一篇ハ親王家ノ職員ヲ示ス。

第二即チ職員令ハ全ク今日ノ所謂國家ニ關シ、第三、第四、第五ハ國家政治ニ關係ナク、全ク宮中ニ屬ス、サレハ政府ト宮中トノ區別ハ既ニ令ニ於テ之レアルナリ。

第六、神祇令(凡ソ二十條) 此ノ一篇ヲ普通ニハ天神ヲ祀リ地祇ヲ祭ルノ令ト解スレト國家ニ關シテモ尙甚々深キ義理アル事ハ後ニ述フ。

第七、僧尼令(凡ソ二十七條) 此ノ一篇ニハ出家ノ奉スヘキ制令ヲ載セマリ。

第八、戶令(凡ソ四十五條) 是レヨリ以下ハ國家ノ政務ニ關ス、此ノ一篇

ニハ今日ノ管民事務ノ法規ヲ載セタリ。
第九、田令(凡ソ三十七條) 此ノ一篇ニハ日本上世ニ於ケル土地分配ノ制ヲ載セタリ、即チ班田收授ノ法ナリ。

第十、賦役令(凡ソ三十九條) 此ノ一篇ハ調庸義倉貢獻等總ヘテ臣民ノ國家ニ對スル諸ノ義務ヲ規定スルモノニシテ税法ノ起源ナリ。

第十一、學令(凡ソ二十二條) 此ノ一篇ハ日本中古ノ文官育成法ナリ。

第十二、選叙令(凡ソ三十九條) 此ノ一篇ハ官吏ニ登用スル爲ニ人才ヲ選テ位ニ敘スルノ規定ナリ。

第十三、繼嗣令(凡ソ四條) 是レ皇族及五位以上ノ人ノ相續法ニシテ令中條項ノ數最モ少ナキモノナリ。

第十四、考課令(凡ソ七十五條) 是レ官吏ノ功過ヲ考校シテ功アル者ハ賞シ進メ、過アル者ハ懲戒スルノ法ナリ、今ノ官吏懲戒規則ノ源トス。

第十五、錄令(凡ソ十五條) 是レ官吏俸給及諸錄ノ法ナリ。

第十六、宮衛令(凡ソ二十八條) 宮ハ王宮ナリ、衛ハ禁衛ナリ、此ノ一篇ハ宮中官省寮司等ノ規律ヲ載ス。

第十七、軍防令(凡ソ七十六條) 是レ軍團ノ編制及軍人ノ規律ナリ。

第十八、儀制令(凡ソ二十六條) 是レ禮節儀式ノ最モ國家ニ關係アルモノヲ載セタリ、瑞祥ノ法及等身ノ法并ニ其中ニ在リ。

第十九、衣服令(凡ソ十四條) 是レ皇族百官以下無爲ノ庶人ニ至ルマテノ服制ナリ。

第二十、營繕令(凡ソ十七條) 是レ公私ノ家屋津橋道路船舶堤防ニ關ル行政規則ナリ。

第二十一、公式令(凡ソ八十九條) 是レ詔勅ノ式ヨリ、公文ノ往復、訴訟、官門ノ開閉、印璽ノ寸法等ニ至ルマテ公務ノ式ヲ規定スルモノナリ。

第二十二、倉庫令(凡ソ二十二條) 今傳ハラヌ。

第二十三、厩牧令(凡ソ二十八條) 是レ公私ノ牛馬ニ關ル行政規則ナリ。

第二十四、醫疾令(凡ソ二十七條) 今傳ハラヌ。

第二十五、假寧令(凡ソ十三條) 是レ官吏ノ休暇歸寧ニ係ル規則ナリ。

第二十六、喪葬令(凡ソ十七條) 是レ葬式ニ關スル規則ナリ。

第二十七、關市令(凡ソ二十條) 是レ關塞交市ノ規則ナリ。

第二十八、捕亡令(凡ソ十五條) 是レ罪人追捕ノ規則ナリ。

第二十九、獄令(凡ソ六十三條) 是レ斷獄ノ法ニシテ捕亡令ト共ニ刑事

訴訟法ノ一部ヲナセリ。

第三十、雜令(凡ソ四十一條) 以上諸篇ニ漏レタルモノヲ此ニ集ム、其ノ

重ナルハ度量衡ノ法、曆法、灌田津渡ノ法、家人奴婢ノ法ナリ。

以上通計九百四十九條ナリ、之ヲ大寶令ノ内包トス。

○ 節 大 寶 令 ノ 法 理 大化ノ改新ハ氏族政治ノ舊体ヲ改メテ道

徳政治ノ新制ニ移ラントシタルノ時ナリ、道德政治ノ模範ハ支那ニ於テ存シタリ、故ニ大寶令ニ於テハ專ラ唐令ヲ模範トシ本朝ノ形勢ニ照シテ斟酌シタリ。唐令ハ唐ノ高宗ノ世ニ制定シタル永徽令ヲ本トスレト其ノ書今ハ亡ヒテ和漢トモニ存セス、故ニ文献通考、杜氏通典、唐朝六典、新舊唐書ニ引キタル文字ト比較シテ見ルノ外ナシ。古來學者ノ研究セシ所ヲ以テ見ルニ大寶律ハ唐律ヲ殆ト其ノマ、採リテ唯々刑ノ輕重ヲ斟酌シタルノミナルモ大寶令ニ至リテハ各事目ニ就キ本邦ノ國情ニ應シテ更修シタル所多ク、且名稱ノ如キモ和漢必スシモ相同シカラス、例ヘハ彼レノ三師三公、尙書省、中書省、門下省、ヲ合シテ我カ太政官ト爲シ、彼レノ大府寺ヲ我レニ於テ大藏省ト稱スル類ナリ。前述ノ如ク令ハ一度ニ編纂シタルニ非スシテ追時修正シタルモノナレハ

其ノ、都度ニ元ハ唐令ハ儘ナリ、シテ我レニ適スル様改メタル場合モ多カリシナラシ。

抑、大寶令大体ノ組織ハ道德ヲ以テ國家制度ノ基本トシ、賢才ヲ擢テ、官吏ト爲シ、人民ハ門戚ニ依ラス一様公平ニ國家ニ對スルノ義務ヲ負擔シ、唯々仁愛ノ上ヨリ特ニ免猶スヘキ者ノミ或ハ納稅ヲ免シ或ハ却テ之ヲ扶持スルノ主義ナリキ。大体ノ原理ハ此ノ如クナリシト雖之ヲ實地ニ施ス上ニ於テハ尙ホ門閥主義ノ多ク混入スルアリタリ。大化以前ニ於テハ氏族血統ヲ基トシテ國家ヲ組織シタリ而シテ大化以後ハ其ノ表面ヲ改メタリト雖尙ホ裏面ニハ門閥主義ノ形跡出沒シ公平ナル條文ノ間ニ貴族聚權ノ痕ヲ止メタルハ大法令ヲ講究スル者ノ深ク注目スヘキ所ナリ。例ヘハ繼嗣令ノ如キハ貴族ノ家督相續ヲ規定シタルモノニシテ全ク本邦ノ特色ヲ爲シ唐令ニ於テハ見サル所ナ

リ。又才學ヲ以テ官吏ヲ選叙スルヲ以テ一般ノ原則トシナ、カラ才學ヲ養フ所以ノモノタル學校ノ教育ニ至リテハ之ヲ一般ニセズ、五位以上ノ子ニ限り大學ニ入ラシメ、八位以上ノ子ハ請願シテ始メテ許サレ國學ニハ郡司以上ノ子ヲ入學セシメタリ、是ヲ以テ實際官途ニ登用セラル、モノハ皆貴族ノ子弟ナリキ。又彼ノ蔭位ノ制ノ如キ、位有ル者ノ嫡子ハ其ノ父ノ位ニ準シテ位階ニ列セラレ隨テ官職ニ就キタルモノニシテ門閥主義ノ顯著ナルモノナリ。此等ノ例規ハ或ハ支那ニ於テモ存セシ所ナラン、然レトモ之ヲ我レニ取リタルハ我レニ於テモ門閥ノ勢力尙盛ナリシニ因ルモノニシテ、令ノ制定ニ因リ始メテ此ノ勢力ヲ致シタルニ非ス。又家人及雜戶ト稱スル半奴隸民アリ、奴婢ト稱スル純粹ノ奴隸モアリテ良民ト血統ヲ混スルコトヲ禁シタリ。之ヲ要スルニ表面ハ道德國家ノ主義ニシテ裏面ニ血族國家ノ形跡ヲ雜ヘ

タルヲ以テ大寶令ノ法理トス。

○節五 大寶令ノ範圍 大寶令ハ日本全國ニ向テ有効ナラシメ

コトヲ期シタルモノナリ、故ニ中央政府ハ言フニ及ハス、凡ソ國司ヲ置
キテ政治ヲ行ハシメタル所ノ地方ニハ普ク行ハレシコトヲ目的トシ
タリ。然レトモ其ノ各條ハ必スシモ同時ニ同様ノ實効ヲ見タルニ非
ス、中ニハ本邦ノ國情ニ適セスシテ全ク行ハレ難カリシモアツン。彼
ノ班田收授ノ法ノ如キハ終ニ全國一樣ノ實施ニ至ラスシテ止ミタリ。
軍防ノ制ハ最モ早ク變更セラレタリ。選叙及考課ノ令モ門閥ノ宿弊
再發シタルカ爲ニ殆ト空文ト成リタリ。然レトモ大體ニ於テハ大寶
養老ノ時ヨリ保元平治ノ世ニ至ルマテ日本ノ國法ト云ヘハ大寶令律
及之ニ隨伴スル格式ノ外ニ存セサリシナリ、而シテ鎌倉幕府ノ後ニ至
リ武家ハ式目ニ依リ支配セラル、コト、ナリ行キタレト、尙朝廷、公家

并ニ公家ノ所領ハ依然律令ノ管理ヲ被リタルコト下篇ニ述ルカ如シ、
故ニ武門ノ政權王室ニ復歸セルノ後ハ又大寶令ノ天下ト成リタルモ
ノト謂フコトヲ得ヘシ、是レ維新ノ始ニ於テ朝廷ノ政多ク令ノ舊制ニ
依リシ所以ナリ。

○節六 令義解、令集解、令抄等 大寶律令ノ選定アリシヨリ大學

ニハ明法ノ一科ヲ設ケラレ世代ヲ經ルニ從ヒ自ラ律令ヲ専門トスル
家モ出來テ其ノ解釋常ニ一途ナラサルニ至レリ、因テ淳和天皇天長年
中左大臣清原夏野ヲ總宰トシテ數名ノ學者ニ命シ官選ノ註釋ヲ作ラ
シメラレキ、之ヲ令義解^{レハ、キ、ケ}十卷トス、幕府ノ慶安三年ニ至リ始メテ刊行シ
タリシモ誤脱多キヲ以テ寛政十二年稿保巳一之ヲ校正翻刻セリ。

令集解ハ延喜時代ノ書ニシテ義解ノ註釋ノ外ニ古書ニ見エタル注解
及諸家ノ說ヲ多ク集メタルモノナリ、其ノ文ハ正シキ漢文ニ非サルカ

故ニ通讀難澁ナリ、惟宗直本ト云フ人ノ私撰ニテ元ハ三十卷アリシカ
今ノ傳本ハ軍防、倉庫、醫疾、關市、捕亡、獄雜ノ諸篇ヲ缺ケリ、明治ノ初年ニ
活字本ヲ發行シタルト校正粗漏ナリ。

此ノ外足利ノ末ニ一條禪閣兼良ノ著セル令抄二卷ハ神祇令ヨリ倉庫
令マテアリ、令聞書ハ兼良ノ子冬良カ父ノ講義ヲ筆記シタルモノニシ
テ僧尼令マテアリ、共ニ群書類從ニ收メタリ。

近代ノ注解ニテハ近藤芳樹ノ著セル標注令義解ニ如クモノナシ明治
二年戶令マテ三卷六本トシテ刊行セラレ以下未タ世ニ出テス惜ムヘ
キナリ。

第三章 二官八省一臺

○節一 神祇官 神祇官ハ神詔ヲ垂レテ建國ノ基本ヲ開キタル天照

大神ヲ始トシテ日本國民ノ遠源タル天地神祇ノ祭祀ヲ司リ以テ皇緒
ノ由來ヲ明ニスルモノナリ、故ニ國家組織ノ最上ニ位ス。其ノ長官ヲ
伯ト云フ、一人ナリ。官事ヲ總判ス大副、小副各一人アリテ伯ヲ補ケ、大
祐小祐各一人アリテ官内ヲ糾判シ、文案ヲ審署シ、誓失ヲ考ヘ、宿直ヲ知
ルコトヲ司ル。書記ヲ大史小史ト云ヒ各一人アリ、其ノ下ニ神部三十
人、卜部二十人、使部三十人直丁二人アリ。神祇令ニ依リ神祇官ノ掌ル
所左ノ如シ。

- (一) 天神地祇ノ祭祀
 - (二) 祝部神戶ノ名籍
 - (三) 大嘗
 - (四) 鎮魂
 - (五) 御巫
- ト兆

今神祇官ノ關スル所ハ神祇ニ在リ、然ルニ之ヲ官ト稱シテ國家政府ノ頂上ニ置キタルハ如何ナル理ニ由ルヤヲ考フルニ、是レ帝國史略第三卷第六卷參照本邦特殊ノ國體ヨリ來タルコトナリ。世界ニ多ク存スル世襲君主政ハ天祐ヲ稱スト雖、皆祖先ノ武功ニ依リ其ノ國ヲ得タルモノナリ、而シテ武功ハ尙人力ノ及フ所ニ在ルカ故ニ此ノ如キ國家ノ基本ハ人力ノ得テ動カス可キ限リニ在リ。苟モ人力ヲ以テ動カス可カラサル所タル真正ノ世襲國家マランニハ其ノ君位ハ祖先ノ武功ヨリモ一層高尙ナル原則ヲ以テ基本トセサルヘカラス、而シテ人力ノ上ニ在ルモノハ神意ニ外ナラス。今日元首タル人ノ祖先ヲシテ偉業ヲ立テシテメ以此ノ天下ヲ其ノ後裔ノ統治ニ歸シタルハ是レ神意ナリトスルニ於テ始メテ君位ハ天壤ト俱ニ窮リナキコトヲ得ルナリ、是レ果シテ我國ノ由來ニシテ亦神祇官ノ百官ノ上ニ在ル所ナリ、即チ神祇官ハ國家ノ中

心タル君位ノ繼承ヲ明ニスル所ノモノナリ、故ニ神祇令ニ曰

「凡ソ天神地祇ハ神祇官皆常典ニヨリ之ヲ祭ル」

「凡ソ天皇ノ即位ニハ天神地祇ヲ祭ル、散齋一月、致齋三日、其ノ大幣ハ三月ノ内修理セシメ訖ル」

「凡ソ踐祚ノ日、ナカトミ中臣天神ノ壽詞ヲ奏シ、忌部神璽ノ鏡劔ヲ上ル」

是レ正シク天皇ノ御位ハ天神ノ授クル所タル旨ヲ表スルモノナリ。之ニ反シテ僧尼令ニ於テハ全ク此ノ如キコトヲ言ハス、却テ「皆祥ヲ假說シ、語國家ニ及フモノハ法律ニ依リ官司ニ付シテ科罪ス」トアルニテ神祇ハ國家ノ大典タルモ、佛法ハ只マ之ヲ許容スルノミ奉職スルニ非サル事ヲ知ルヘシ。今上ノ憲法ノ發布ニ際シ祖宗ニ誓ヒ玉フコトアリシモ畢竟神祇令ノ古ヲ追ヒ玉ヘルニ外ナラス。

○二 節 太 政 官 太政官ハ八省ヲ統理スルノ中府ニシテ、別ニ寮司ヲ

置カス、太政大臣一人、左大臣一人、右大臣一人、大納言四人、少納言三人アリテ他ハ屬官ナリ。太政大臣ノ職ハ一人ニ師範トシテ四海ヲ儀刑シ、邦ヲ經シ、道ヲ論シ、陰陽ヲ變^{ヤウヤク}ケ理ムルニ在リ、而シテ堪フルノ人無キトキハ則チ之ヲ闕クトアリ。

左右大臣ハ(一)衆務ヲ統理シ、(二)綱目ヲ舉持シ、(三)庶事ヲ總判スルコトヲ掌トル、又(四)彈正ノ糾當ヲサルモノハ兼テ之ヲ彈スコトヲ得、右大臣ハ掌左大臣ニ同シ

大納言ハ四人アリテ(一)庶事ヲ參議シ、(二)敷奏(三)宣旨(四)侍從(五)獻替スル事ヲ掌ル、敷奏ハ敷ハ陳ナリ、獻替トハ君ノ可ト謂フ所否ナレハ其ノ否ヲ替ヘ君ノ否ト謂フ所否ナレハ其ノ可ヲ獻スルヲ云フ。

少納言ハ三人アリテ(一)小事ヲ奏宣シ(二)鈴印傳符ヲ請進シ(三)飛驒ノ函鈴ヲ進付シ、官印ヲ兼監スル事ヲ掌ル、又少納言ハ侍從ノ員内ニ在リ。

左大辨一人、中務、式部、治部、民部ヲ管シ、庶事ヲ受付シ、官内ヲ糾判シ、文案ニ署シ、警失ヲ勾シ、諸司ノ宿直、諸國ノ朝集ヲ知ル事ヲ掌ル、若右辨官有ラサルトキハ則チ併セテ其ノ掌ル所ヲ行フ。

右大辨ハ兵部、刑部、大藏、宮内ヲ管ス、其ノ他左大辨ニ同シ。左中辨左少辨ハ各左大辨ヲ助ケ、右中辨右少辨ハ各右大辨ヲ助ケ。

辨官ノ外更ニ大外記少外記各二人アリテ專ラ詔書奏文ヲ勘正シ、公文ヲ讀申シ、警失ヲ檢出スルコトヲ司ル、之ヲ外記ト云フハ中務省ニ屬シテ眞ニ敕語ニ依リ文案ヲ立ツルコトヲ司ルノ内記ニ對スルモノナリ、而シテ其ノ與カル所ノ文案ニハ自己ノ位名ヲ署スルノ義務アリ。此ノ下ニ史生十人アリテ公文ヲ繕寫スル事ヲ司ル、例ヘハ今日ノ書記生ノ如キモノナリ、而シテ其ノ繕寫シタル所ノ敕旨ニハ名ヲ署スルノ義務アリ。其ノ外ニ左官掌二人右官掌二人アリテ使部直丁ヲ使役シ以

テ訴人ヲ通傳シ、官府ヲ至當スル等ノ庶務ヲ司レリ。又權ニ内外官ノ正清灼然タル者ヲ取テ巡察使トシ以テ諸國ヲ巡察セシメタリ、然レトモ是レハ常置官ニ非ス。

○三 中務省 中務省ハ省ノ一ナリト雖實ハ行政官廳ニ非ス、天皇

ト大政官(即チ今日ノ内閣ト)ノ中間ニ立テ詔敕ヲ傳ヘ、論奏覆奏ヲ取續クノ所ナリ、其ノ事務ノ主ナルモノ左ノ如シ

(一)侍從 天皇ノ側ニ侍スルナリ

(二)獻替 前ニ注スル如ク君意ノ是非ヲ正シ諫ムルナリ

(三)詔敕文案ノ審署 天皇ヨリ詔書下ルトキハ之ヲ中務省ニ止メ置キ

別ニ一本ヲ作り印署シテ大政官ニ下スコトナリ(公式令ニ依ル)

(四)受事覆奏 勅旨ノ出ツルトキ勅ヲ受ケタル人之ヲ中務省ニ宣送シ

中務省ヨリ覆奏シ、託テ式ニ依リ署ヲ取り、中務省ニ止メ置キ、別ニ

一本ヲ作り、大政官ニ送ルナリ(同上)

(五)宣旨 侍從ノ宣命ナリ、例ヘハ征討スル所アリテ發スルノ日ニ侍從

ヲ以テ使ニ充テ慰勞ヲ宣勅スルノ類ヲ云フ(軍防令ニ依ル)。

(六)勞問 勞ハ郊勞ナリ、凱旋ノ日使ヲ送遣シ郊勞スルナリ、問ハ存問ナ

リ、五位以上ノ人仕ノ爲ニ畿内ニ在ルトキハ内舍人ヲシテ一タヒ

巡問シテ安否ヲ奏聞セシムルナリ。

(七)上表ヲ納ム 上表ハ今日ノ意見書建白書ノ類ナリ、是レ大政大臣ノ

政略ヲ是非スル者ナレハ、大政官ニ由ラス直ニ中務省ヘ差出シ、中

務省之ヲ受取リテ直ニ奏進スルナリ。

(八)國史監修 圖書寮ヲシテ修セシムル所ヲ押監スルナリ。

(九)女王、内外命婦、宮人等ノ名帳、考叙、位記、諸國戶籍、租調帳、僧尼名籍ノ事。

但シ戶籍租調ハ他省ノ司ル所ナリト雖、此ノ省ニモ御覽ニ擬スル

爲其ノ複本ヲ備フルモノナリ、即チ今日ノ内閣記録局ノ事務ナリ。卿ノ下ニ大輔一人少輔一人アリテ、卿ヲ補テ、規諫スルモ、獻替セストアリ、即チ恩ヲ以テ君ヲ正スヲ規ト曰ヒ、義ヲ以テ君ヲ匡スヲ諫ト曰フ、其ノ關スル所ハ、獻替ヨリモ、輕少ナルカ、故ニ區別スルナリ。其ノ下ニ大丞一人少丞二人アリテ、大錄少錄及史生ヲ監シ、庶務ヲ司レリ。侍從ハ八人アリテ、君側ニ常侍シ、規諫スルコト大輔ニ同シク、又君ノ遺忘ヲ拾綴シ、欠失ヲ輔益スルコトヲ務ム。内舍人ハ九十人アリ、帶刀シテ宿衛供奉シ、雜使ニ當リ、駕行ニハ前後ニ分衛セリ。内記ハ大政官ノ外記ニ對シ、大中少各二人アリテ、詔敕ノ文ヲ造ルコト及御所ノ記録ヲ掌レリ。監物ハ大二人中四人少四人出納ヲ監察シ、管鑰ヲ請進ス。其ノ外中務省ノ部内ニ一職大寮三司アリ、左ノ如シ

圖書寮

陰陽寮

内藥司

中宮職

大舍人寮左右

内禮司

内藏寮

書工司

内匠寮

縫殿寮

中宮職ハ皇后皇太后ノ用度ニ與リ、圖書寮ハ圖書收集保存國史修撰及宮中ノ佛事ニ與ル等大抵其ノ職名ヨリ推シテ知ルヘシ。

○四式部省 式部省ハ官吏ノ能不能德不德ニ依リ、其ノ進退ヲ定

ムルノ所ニシテ、今日ノ賞勳局及文官試験局ノ掌ル所ト、文部省ノ事務トヲ合シタルカ、如キモノナリ、其ノ掌ル所左ノ如シ。

(一)内外文官ノ名帳 内外ハ在京官ト地方官トヲ云フ、任授簿外ニ更ニ名帳ヲ作りテ考課進級等ノ用ニ供スルナリ。

- (二)考課 考ハ校考ナリ課ハ課試ナリ即チ官吏ノ勞功及其ノ分擔事務ノ修不ヲ試ミテ進級ノ順ヲ定ムルナリ(考課令ニ依ル)。
- (三)選叙 選官叙位ナリ、選敘令ノ規程ニ依ル。
- (五)版位 朝賀及祭祀ニ於テ群臣并百官ノ例位ヲ定ムルナリ(儀制令等ニ依ル)。
- (六)位記 公武令及選敘令ニ依リ位記ヲ作ルナリ。
- (七)校勳績論功定封賞 是レ今ノ賞勳事務ナリ。
- (八)朝集 考選及郡司ニ補任スル爲ニ諸國ノ朝集使ヲ京ニ集ムル事務ナリ。
- (九)學校 大學ヲ監督スルナリ、學令ノ定ムル所ニ依ル。
- (十)貢人ノ策試・大學ヲ卒業シテ位ニ叙シ官ニ任セラレントスル秀才明經ノ輩ヲ試験スルナリ(選敘令ニ依ル)。

- (十一)祿賜 位祿、季祿及臨時ノ給賜ニ關スル事務ナリ。
右ノ外假使トテ假寧令ニ依リ官吏ニ休暇ヲ賜ヒ及巡察使覆囚使ヲ選定スルノ事務ナリ。
- (十二)家令補任 皇族ノ家令ヲ詮擬シテ大政官ニ申シ補任スル事務ナリ。
- (十三)功臣家傳 有功ノ家ヲシテ家傳ヲ進メシメ之ヲ撰修スル事務ナリ。
卿ノ下ニ大輔一人少輔一人大丞二人考課ヲ勘問スルコトヲ掌ル、少丞二人大丞ニ同シ、大録一人少録三人史生廿人アリ。
○大學寮ハ學生ノ簡試及先聖ノ釋奠ヲ司ル、頭助允屬アリ。博士一人經業ヲ教授シ學生ヲ課試ス、助教二人、律學博士二人、音博士二人、書博士二人、算博士二人アリ、學生四百人經業ヲ修メ、明法生十人法律ヲ修メ、文

章生十人文章ヲ修メ、又得業生十人アリ。

○散位寮ハ文官ノ散位位アリテ官ナキヲ散位ト云フキヲ總掌シ、諸國朝集使ノ上日ヲ判ス。

○五治部省 治部省ハ主トシテ貴族及僧尼ノ家系及身分ヲ管ス

ル所ニシテ雅樂寮、玄蕃寮、諸陵司、喪儀司之ニ隸ス、其ノ事務ノ要領左ノ如シ。

(一)本姓 是レ姓氏家系ヲ正スノ事務ナリ。

(二)繼嗣 五位以上ノ人ノ相續ノコトハ特ニ重キモノナレハ之ヲ管スルノ事務ナリ。

(三)婚姻 五位以上ノ人ノ娶嫁ヲ知ルノ事務ナリ。

(四)祥瑞 國ニ祥瑞アルトキ之ヲ知ルノ事務ナリ。

(五)喪葬 朝廷及貴人ノ葬儀ニ關スル事務ナリ。

(六)贈賻 贈ハ死後位ヲ贈ルヲ謂フ、中務省ニ於テ位記ヲ作り、此ノ省之

ヲ受ケテ死者ノ家ニ下付スルナリ、賻ハ貨財ヲ贈ルヲ云フニテ死者ノ本司ヨリ太政官ニ上申シ、太政官更ニ此ノ省ヲシテ勘申セシメ、適

當ト認ムルトキハ則チ大藏省ヨリ其ノ物ヲ下給スルナリ。

(七)國忌 先皇ノ崩日ニ關スル事務ナリ。

(八)諱 人民ヲシテ皇祖以下ノ名號ヲ忌憚ラシムルノ事務ナリ。

(九)諸蕃朝聘 外國使節ノ應接ニ關スル事務ナリ。

卿ノ下ニ大輔一人、少輔一人、大丞一人、少丞二人、大錄一人、少錄三人、史生十人アリ。別ニ大解部四人アリ、譜第即チ相續ノ爭訟ヲ鞫問スルコトヲ掌

ル、少解部六人、大解部ニ同シ。

○雅樂寮ハ文武ノ雅曲、正儼、雜樂ヲ作り、男女樂人及音聲人ノ名帳ヲ製シ之ヲ試練スルコトヲ司レリ、蓋治部省ニ於テ音樂聲曲ノ事ヲ司ルハ

樂人中ニハ外蕃出身ノ者多ク、然ラサルモ樂人ハ通常人民ト異ナリテ、恰モ僧尼ノ如ク一種特別ノ社會ヲ成シタルヲ以テ身分上ヨリ之ヲ管理スルコト必要アリシニ因ル。

○玄蕃寮ハ佛寺僧尼ノ名籍、蕃客ノ辭見、饗饗送迎、及在京夷狄外人ノ館舍ヲ監當スルコトヲ司レリ、蓋僧尼ト外國人ト取扱ノ役所チ一ニシルモノハ大ニ當時ノ佛法ニ對スル主義ヲ見ルニ足ルモノナリ、即チ僧尼ハ僧尼ノ戒律アリテ國家ノ法度ノ及ハサル所ナルカ故ニ外國人ト同一ニ看做シタルナリ。

○諸陵司ハ陵靈ヲ祭り、御陵ニ於テ行フ喪葬ノ凶禮、諸陵及其ノ番人即チ陵戸ヲ管ス。

○喪儀司ハ凶事ノ儀式及喪葬ノ具ヲ掌ル。

○六民部省 古ノ民部省ハ財政上ヨリ國中ノ土地人民ヲ管理スル

所ナリ、故ニ今日ノ内務ト大藏トノ事務ヲ合併セリ、主計寮、主稅寮之ニ隸ス其ノ職務ノ要領左ノ如シ

(一)諸國ノ戸口名籍 即チ戸令ニ依リ行フ所ノ戸籍事務ナリ。

(二)賦役

(三)孝義優復 賦役令ニ依リ孝子義夫ノ課役ヲ免スルナリ、優ハ同令ニ依リ精誠通感ナル者ニハ別ニ優賞ヲ與フルヲ云ヒ、復ハ東夷ナドヲ征伐スルトキ官軍ニ從ヒテ出軍ノ際ニ虜ト成リテ外蕃ニ没落セシ者後ニ還ルヲ得タルトキ自活ノ道ヲ得ルマテ特典ヲ與フルヲ云フ、即チ此等ノ者ヲ調査スル事務ナリ。何レモ本省ヨリ蠲符ヲ下シテ免役ノ證トスルナリ、

(四)蠲免 賦役令ニ依リ課役ヲ免スヘキ者ハ蠲符ノ至ルヲ待チテ之ニ免ト注スル事ナリ。

(五)家人奴婢 賤民ノ身分及貫屬ニ關スル事務ナリ。

(六)道橋津濟、渠池、山川、藪澤、諸國ノ田地ノ事ヲ掌ル。
卿ノ下ニ大輔一人、少輔一人、大丞一人、少丞二人、大録一人、少録三人、史生十八アリ。

○主計寮ハ諸國ヨリ納ムル調席ヲ計リ國用ヲ支度シ用度ヲ勘勾ス。

○主税寮ハ諸國ノ田租ノ出納及倉庫ノ事ヲ司ル。

○七節兵部省 兵部省ハ天武ノ朝ニ之ヲ兵政官ト稱セシモ後ニ八省ノ一ニ列シ兵馬司、造兵司、鼓吹司、主船司、主鷹司之ニ屬シ兵戰ノ事務ヲ

掌ル、其ノ大要左ノ如シ。

(一)内外武官ノ名帳、考課、選叙、位記 即チ大將以下軍團長以上ノ進退。

(二)兵士以上ノ名帳。即チ校尉以下兵士以上ノ名帳ナリ。

(三)祿賜 兵士ニ祿ヲ賜フノ事務ナリ。

(四)假使 兵士ノ休暇服役ニ關スル事務ナリ。

(五)兵士差發 勅ヲ受ケテ契ヲ諸國ニ發シ兵士ヲ徵集スル事務ナリ。

(六)兵器儀仗 征伐ニハ兵器ト云ヒ、禮容ニハ儀仗ト云フ、其ノ事務ナリ。

(七)城隍烽火

卿ノ下ニ大輔一人、少輔一人、大丞一人、少丞二人、大録一人、少録三人、史生十八アリ。

○主船司ハ公私ノ船楫及船具ノ事ヲ掌ル、今ノ海軍省及管船局ナリ。

○兵馬司ハ牧及兵馬、郵驛、公私馬牛ノ事ヲ掌ル。

○造兵司ハ雜ノ兵器ヲ造リ、及工戸ノ戸口名籍ノ事ヲ掌ル。

○鼓吹司ハ鼓吹戸ノ口ニ鼓吹軍用音樂ヲ調習セシムル事ヲ掌ル。

○主鷹司ハ鷹犬ヲ調習スル事ヲ掌ル、即チ今ノ狩獵局ナリ。

○八節刑部省 刑部省ハ當時ノ中央裁判所ニシテ、刑事ノミナラス、民

事ヲモ裁判シタレト古代ニ於テハ民事刑事ヲ區別セズ、民事上ノ非曲
モ一ノ犯罪ト看做シタル故、刑ノ一字ヲ以テ兩者ヲ兼ネタリ、贖司、囚
獄司之ニ兼ス、其ノ職掌左ノ如シ

(一)獄ヲ鞠シ刑名ヲ定ム 但シ獄令ニ依ルニ諸司ノ管轄内ニテ徒以上
ノ罪ヲ犯シタル者アルトキハ刑部省ニ送ルナリ、其ノ管杖ニ當ルモ
ノハ各省ノ自ラ判決スル所ニ任ス、而シテ流罪以上ハ刑部省ト雖之
ヲ獨斷スルコトヲ得ス、必ス太政官ニ上申セシメタリ、但シ太政官ヲ
以テ司法ノ最上府トスルカ故ニ非ス、罪狀ハ死又ハ流ニ該ルモ身分
上又ハ恩典上ヨリ斟酌ヲ要スレハナリ、然レトモ刑名ハ既ニ刑部省
ニ於テ之ヲ決定スルナリ。

(二)疑獄ヲ決ス 但シ獄ハ請ニテ地方ニテ決シ難キ疑獄アレハ刑部省
ノ判決ヲ請フナリ。

第三章 大寶令

(三)良賤ノ名籍 昔ハ賤民即チ家人奴婢ハ大抵良民ノ所有ニ屬シタル
ヲ以テ其ノ所有權ニ付キ良民ノ間及良民ト賤民トノ間ニ争訟多カ
リシハ大化改新後直ニ男女ノ法ヲ發セラレタルニテモ知ルヘシ、即
チ刑部省ハ其ノ争訟ヲ裁判スルノ材料トシテ常ニ良賤ノ名籍ヲ備
ヘタルモノナリ。

(四)囚禁 徒刑ノ執行ニ關スル事務ナリ。

(五)償負 貸借事件ノ裁判ヲ謂フ。

○贖司ハ罪人ヨリ贖罪ノ品又ハ沒收ノ品ヲ取立テ、諸司ニ分配シ又
所有主ナキ遺物ヲ官ニ沒スルコトヲ司ル。

卿ノ下ニ大輔一人少輔一人大丞二人少丞二人大録一人少録二人史生
十人アリ、別ニ大判事二人中判事四人少判事四人アリテ、物狀ヲ案覆シ
刑名ヲ斷定シ、諸ノ争訟ヲ判スルコトヲ掌ル、又大屬二人少屬二人アリ

判文ヲ抄寫スルコトヲ掌ル、又大解部十人中解部二十人少解部三十人アリ、爭訟ヲ窮問スルコトヲ掌ル、今日ノ豫審判事ナリ。

○囚獄司ハ罪人ヲ禁囚シ及徒役功程ノ事ヲ司ル。

○九、大藏省 國ノ財政ハ民部省主トシテ之ヲ整理スルモ、調ノ現物ヲ出納スルハ大藏省之ヲ掌レリ、其ノ事務左ノ如シ。

(一) 諸國ノ調及金銀珠玉銅鐵骨角羽毛帳幕。

(二) 權衡度量

(三) 賣買估價 官用物品賣買ノ價ヲ定ムル事務ナリ。

(四) 諸方貢獻雜物 貢獻雜物ノ出納事務ナリ。

卿ノ下ニ大輔一人少輔一人大丞一人少丞二人大丞一人少錄二人史生六人大主簿二人少主簿二人藏部六十人價長二人アリ。典履二人靴履鞍具ヲ縫作シ、百濟ノ手部ヲ檢校ス。百濟使部十人雜ノ縫作ヲ掌ル。

典革一人雜革ヲ染作シ狛部ヲ檢校ス、狛部ハ革工ナリ。

○典鑄司ハ金銀銅鉄ヲ鑄造シ其ノ他寶物ノ細工ヲ司ル。

○掃部司ハ薦席牀簀等ヲ鉾設酒掃ス。○漆部司。○縫部司。○織部司ハ其ノ稱號ノ如シ。サレハ大藏省ハ宮中及各省ノ調度ノ主宰ナリ。

○十、宮内省 宮内省ハ專ラ宮中ノ庶務及皇族宮人ノユトヲ司ル所ニシテ其ノ職掌大抵左ノ如シ。

(一) 諸國ノ雜物春米ノ出納

(二) 官田及御食産ノ奏宣 官田園地當年田種スル所ノ色目并ニ收穫ノ多少等ヲ申奏シ勅語アレハ宣告スルナリ。

(三) 諸方ノ口味 諸方ノ調以外ニ獻スル珍味ノ事務ナリ。

卿ノ下ニ大輔一人少輔一人大丞一人少丞二人大錄一人少錄二人史生十八人アリ。

宮内省ニ隸スルモノ一職四寮十三司アリ、左ノ如シ。

○大膳職 膳部ヲ卒并テ食料ノ供給調理ヲ司ル役所ナリ。

○木工寮ホクミ、大炊寮ホクホク、主殿寮ホクホク、典藥寮ホクホク

○正親司皇親ノ事務ノ名、内膳司天皇御膳ヲ惣知ス、造酒司、鍛冶司、官奴司、園地司、

土工司、采女司、主水司、主油司、管陶司、内染司、

○十一 彈正臺 彈正臺ハ人民ノ風俗ヲ匡正シ官人ヲ懲戒スル爲ニ特ニ設クル所ナリ、其ノ職制ニ曰

(一)風俗ヲ肅清ニスル事

(二)内外ノ非違ヲ彈奏スル事、内ハ左右兩京ニシテ外ハ五畿七道ナリ

公式令ニ依リ官人ノ害政ヲ告言シ、抑屈アル者ハ受推理シテ理ニ當

レハ奏問シ理ニ當ラサレハ彈スルナリ。

長官ヲ尹カミト云ヒ次官ヲ弼カミト云フ各、一人ナリ下ニ大忠一人少忠二人ア

リ内外ヲ巡察シ、非違ヲ糾彈スルコトヲ掌ル、大疏一人少疏一人巡察十人史生六人アリ。

第四章 地方官廳及軍制

第四 章 大 寶 令

(一六)

○節一左京職右京職 帝都ヲ東西ニ二分シテ左右ノ兩京職ヲ置ク、大夫一人戸籍及百姓ヲ字養シ、所部ヲ糾察シ、孝義ヲ孝舉スルコト、田宅雜徭良賤ノ訴訟、市廛度量、倉廩租調、兵士ノ器仗、道橋過所、關遺ノ雜物、僧尼ノ名籍ノ事ヲ掌ル。大夫ノ下ニ亮一人、大進一人、少進二人、大屬一人、少屬二人、坊令十二人等アリ。

左京職東市司ヲ管シ、右京職西市司ヲ管ス、即チ市司ハ財貨ノ交易、器物ノ真偽、度量ノ輕重、賣買ノ估價、及非違ヲ禁察スルコトヲ掌ル所ナリ、正一人、佐一人、令史一人、價長五人、物部二十人等アリ。

○節二攝津職 攝津ハ古來輻湊ノ地ニシテ繁華他國ノ類ニ非ズ、故ニ別ニ攝津職ヲ置キ、祠社祠社ハ祭事ニテ社ヲ云フ簿帳、及百姓ヲ字養シ、農桑

ヲ勸課シ、孝義ヲ貢舉シ、田宅良賤ノ訴訟、市廛、度量ノ輕重、倉廩、租調、雜徭、兵士ノ器仗、橋道、津濟、過所、上下ノ公使、郵驛、傳馬、關遺ノ雜物、舟具ヲ檢校シ、及僧尼ノ名籍ノ事ヲ掌ル。大夫一人、亮一人、大進一人、少進二人、大屬一人、少屬二人、史生三人等アリ。

○三 大宰府 筑前ノ國ハ外國船舶ノ直達スル所ニシテ國防ノ爲ニ重要ノ地ナリ、故ニ全國ヲ以テ大宰府ノ管轄ニ屬セシム。主神一人、諸ノ祭祠ノ事ヲ掌ル、帥一人、神社、戶口、簿帳、百姓ヲ字養シ、農桑ヲ勸課シ、所部ヲ統察シ、孝義ヲ貢舉シ、田宅良賤ノ訴訟、租調、倉廩、徭役、兵士、器仗、鼓吹、郵驛、傳馬、烽候、城牧、過所、公私ノ馬牛、關遺ノ雜物、及僧尼ノ名籍、蕃客ノ歸化、饗饌ノ事ヲ掌ル。大貳一人、少貳二人ヲ補ケ、大監二人、少監二人、府内ヲ糾判シ、文案ヲ審署シ、稽失ヲ勾ヘ、非違ヲ察スルコトヲ掌ル、大典二人、少典二人、事ヲ受ケテ上抄シ、文案ヲ勸署シ、稽失ヲ檢出シ、公文ヲ讀申

スル事ヲ掌リ、大判事一人、少判事一人、犯狀ヲ案覆シ、刑名ヲ斷定シ、諸ノ爭訟ヲ判スルコトヲ掌ル、大令史一人、少令史一人、判文ヲ抄寫シ、大工一人、少工二人、城隍、舟楫、戎器、諸ノ營作ノ事ヲ掌リ、博士一人、經業ヲ教授シ、學生ヲ課試シ、陰陽師一人、占筮相地ヲ掌リ、醫師二人、診候シテ治療シ、師一人、計物ノ教ヲ勸ス、又防人、主船主厨ノ官アリ

○四 國司 國ヲ分ケテ大國、上國、中國、下國、ノ四等トス、其ノ大國ハ守一人、介一人、大掾一人、少掾一人、大目一人、少目一人、史生三人等アリ、上國ハ守一人、介一人、掾一人、目一人、史生三人アリ、中國ハ守一人、掾一人、目一人、史生三人アリ、下國ハ守一人、目一人、史生三人ノミ。國守ハ社祠、戶口、簿帳、百姓ヲ字養シ、農桑ヲ勸課シ、所部ヲ統察シ、孝義ヲ貢舉シ、田宅良賤ノ訴訟、倉廩、徭役、兵士ノ器仗、鼓吹、郵驛、傳馬、烽候、城牧、過所、公私ノ馬牛、關遺ノ雜物、及寺僧ノ名籍ノ事ヲ掌リ、介之ヲ補ク。又陸奥、出羽、越後等ノ國

ハ饗食、給祿、征討、斥候ヲ兼知シ、壹岐、對馬、日向、薩摩、大隅等ノ國ハ鎮押賊
チ云衛 防守及蕃客ノ歸化ヲ惣知シ、三關國破鈴鹿不ハ又關割柵ノ及關
 契ノ事ヲ掌ル。大椽小椽ハ國內ヲ糾判シ、文案ヲ審署シ、替失ヲ句ヘ、非
 違ヲ察ス。大目少目ハ事ヲ受ケテ上抄シ、文案ヲ勘署シ、替失ヲ檢出シ、
 公文ヲ讀申ス。

○五郡司 郡ヲ分ケテ大郡、上郡、中郡、下郡、小郡ノ五等トス、即チ二里戸
 以上ヲ小郡トシ、四里以上ヲ下郡トシ、八里以上ヲ中郡トシ、十二里以上
 ヲ上郡トシ、十六里以上ヲ大郡トス。一郡ノ戸數ハ千戸即チ二十里ニ
 過クルコトヲ得ス、若五十戸以上ヲ餘サハ比郡ニ隸入ス、地勢隸入スル
 ニ便ナラス、或ハ己ムヲ得ス、分ツヘクンハ、別ニ錄シテ官ニ申ス。郡ニ
 ハ郡司ヲ置キテ、所部ヲ撫養シ、郡事ヲ檢察ス、大領、少領、主政、主帳等アリ
 郡ノ大小ニ隨ヒテ員數各差アリ、大少領ニハ性識清廉ニシテ時務ニ堪

ユル者ヲ取り、主政主帳ニハ強幹聰敏ニシテ書計ニ工ナル者ヲ取ル、皆
 當郡比郡ヨリ國司銓議シ、官ニ申シテ之ニ任補ス。大少領ヲ銓議スル
 ニ、才用同シキ者アレハ、先ツ國造ヲ取ル、國造トハ、前ニモ言フ如ク上古
 其ノ地ノ國造マリシ者ノ子孫國造ヲ姓ニ負ヒテ、見ニ其ノ國ノ神事ヲ
 掌ルナリ。

○六節 國守職制 戶令中亦國守ノ職制ヲ掲ケタリ、曰、凡ソ國守ハ毎年
 一タヒ屬部ヲ巡行シ、風俗ヲ觀、百年ヲ問ヒ百年以上ノ者囚徒ヲ錄シ、冤
 枉ヲ理シ不當ノ裁判ナリ詳ニ刑故ノ得失ヲ察シ、百姓ノ患苦スル處ヲ知
 リ、數ク五教ヲ諭シ父慈、母慈、兄友、弟恭、子孝、五教ト云フ農功ヲ勸務シ、部内ニ好學、篤道、孝
 悌、忠信、清白、異行アリテ鄉里ニ發聞スル者ハ擧テ之ヲ進メ、孝悌ナラス、
 禮ニ悖リ、常チ亂シ、法令ニ率ハサル者アレハ糾シテ之ヲ繩セ、其ノ郡境
 ノ内、田疇關ケ、產業脩マリ、禮教施シ、禁令行ハル、モノハ郡領ノ能ト爲

ス、其ノ境ニ入ルニ人窮匿シ、農事荒レ、奸盜起リ、獄訴繁キハ郡領ノ否ト爲ス、若郡司官ニ在リ、公廉ニシテ私計ニ及ハス、色ヲ正シ、節ヲ直クシ、名譽ヲ飭ラサレハ必ス謹テ之ヲ察セヨ、士ノ清貧穢ニ在リ、諂諛シテ名ヲ求メ、公節聞フルコトナクシテ私門日ニ益ス者モ亦謹テ之ヲ察セヨ、其ノ政績ノ能不及、景迹ノ善惡ハ皆錄シテ考狀ニ入レ以テ褒貶ヲ爲セ、即チ事侵害アリテ考ニ至ルヲ待ツ可カラルモノハ隨事糾推セヨト。

○七節軍制 軍制ハ京師ニ五衛府ヲ置ク、衛門府、左右衛士府、左右兵衛府トス、又左右馬寮、左右兵庫寮アリ、以テ京師ノ軍防ニ備フ。地方ハ諸國ニ軍團アリ、大抵五六郡内ニ一ヲ設ク。五人ヲ伍ト爲シ、十人ヲ火ト爲シ、五十人毎ニ隊正一人アリ、一百人毎ニ旅帥一人アリ、二百人毎ニ校尉一人アリ、五百人以下ニ軍毅一人アリ、六百人以上ニ大毅少毅各一人アリ、千人ニ及ヘハ大毅一人少毅二人アリテ之ヲ領シ、主帥全團ヲ統括

シテ錯雜アラシメズ、每火ニ軍器ヲ備ヘ及馬六疋ヲ養フ、兵士一人毎ニ胡籛、大刀、刀子、糧等ヲ備ヘシム、常ハ庫中ニ貯ヘ、弓馬ノ外、槍、弩、等ノ用ヲ調習セシム。征伐アルトキ軍隊ヲ編成ス、軍ニ三等アリ、一萬人以上ニハ將軍一人、副將軍二人、軍監二人、軍曹四人、錄事四人アリ、五千人以上ハ副將軍軍監各一人、錄事二人ヲ減ス、三千人以上ハ軍曹二人ヲ減ス、每三軍ニ大將軍一人アリ。凡ソ大將軍出征シ、軍ニ臨ミ、寇ニ對スルトキハ大毅以下軍令ニ從ハス、及軍事警違闕乏スルコトアレハ死罪以下並ニ大將以下酌酌シテ專決スルコトヲ聽ス。

第五章 位階官職及門閥主義

第五節 官位相當ノ制

○一節 官位相當ノ制 太賚令ノ制ハ先ツ一定ノ資格ニ應シテ位階ヲ授ケ而シテ後ニ此ノ位ニ相當セル官職ニ欠員アルトキ之ニ任スルニ在リ即チ令文ノ疏ニ「位貴賤アリ官高下アリ階貴ケレハ即チ職高ク位賤ケレハ則チ任下ル官位相當各等級アリト云ヘル是レナリ。位アリテ官ナキチ散位ト云フ而シテ官アリ位ナキハ有ラサルナリ。親王ノ位ヲ品ト云ヒ一品ヨリ四品マテ四階アリ諸王諸臣ニ正一位ヨリ少初位下マテ三十階アリ一位ヨリ三位ニ至ルマテ正從アルノミ、四位ヨリ八位ニ至ルマテ正從上下アリ其ノ下ニ大初位少初位亦各上下アリ。○勳位ハ十二等アリ六等以上ヲ勅授トシ以下ヲ奏授トス武文功アル者并德行アル者ニ賜ル一等ハ正三位ニ準シ二等ハ從三位ニ準シ位階

三轉シテ一等ヲ加フ、三等ヨリ六等マテハ正四位上ヨリ從四位下ニ準シ、二轉シテ一等ヲ加フ、七等ヨリ十二等マテハ正六位上ヨリ從九位下ニ準シ一轉シテ一等ヲ加フ。

諸王諸臣ヨリ出テ、太政大臣タル者ハ從一位ヨリ正一位ニ至リ、左右大臣タル者ハ從二位ヨリ正二位ニ至リ、大納言ハ正三位ニ相當シ、太宰帥、中納言、彈尹、左右近衛ノ大將ハ從三位ニ相當シ、皇太子傳、中務卿ハ正四位上ニ相當シ、七省ノ卿ハ正四位下ニ相當シ、左右大辨ハ從四位上ニ相當スル等一々官位ニ於テ之ヲ指定セリ。位高ク官相當ヨリモ卑キトキハ名ノ位ニ行ト署シ位卑ク官相當ヨリモ高キトキハ守ト署ス。一位ヨリ五位マテヲ勅授トシ、六位七位ヲ奏授トシ、八位初位ハ太政官ノ判授ナリ、諸王ハ必ス五位以上ニ叙シタリ。待遇ノ上ヨリハ三位以上ヲ一括シテ貴ト稱シ、最モ鄭重ナル特典ヲ授

ケ、正四位上以下從五位下以上ヲ一括シテ通貴ト稱シ、貴ニ亞ク特典ヲ付シ、七位八位之ニ次キタリ、故ニ四位ヨリ三位ニ登ルコト頗ル難ク、六位ヨリ五位ニ登ル亦同シ。

親王以下三位以上ニハ官ヨリ家令及資人ヲ給ス、階ニ依リ差アリ、又致任シテ身畿内ニ在ラハ毎季ニ一度内舍人ヲシテ巡問セシメ安否ヲ奏問ス。一位ノ喪ニハ天子朝ヲ罷ムルコト三日、二位三位ハ一日ナリ。内官三位以上身亡シ又ハ祖父母、父母、及妻ノ喪ニ際セハ太政官ヨリ奏聞シテ使ヲ遣シ吊セシメ、葬送ノ時治部省ノ官人監護シ、轎車樂器ヲ賜ヒ、墓ヲ營ミ碑ヲ立ツルコトヲ許ス。

四位以上ハ家令ヲ給セズ唯々資人ヲ給ス、四位父母ノ喪ニ際シ及四位五位身亡セハ太政官ヨリ奏聞シテ使ヲ遣シ吊セシム。五位以上ノ叙位ハ其ノ人名ヲ國史ニ記載シ以上ハ省ク。

○節二 位田位祿ノ制 斯ク位階ヲ以テ基本トシタルニヨリ、俸祿モ職務ノ繁閑ニハ依ラズ主トシテ位階ノ高下ニ從ヒ等級ヲ立テタリ。其ノ制親王以下三位以上ハ食封及位田アリ四位五位ハ位田及位祿アリ、六位ヨリ初位マテハ位田モ位祿モナク、唯々在官ノ人ハ祿令ニ依リ春秋ニ祿ヲ賜フ、之ヲ季祿ト云フ皆官ノ尊卑ニ拘ラズ、位ノ高下ニ依ルナリ。唯々太政大臣、左右大臣、大納言ニハ職封ヲ賜ヒ、及大宰府官國郡ニハ職田ヲ賜フ、是レ一ニ官職ニ依ルモノナリ。

一位ヨリ八位マテ通シテ課役ヲ免サル、即チ官ナキモ亦免ルサルレド初位ハ長上官トテ日勤ノ官ノミニ限リ免サレタリ。

又何ノ官ナルヲ問ハス特別ノ功勞アレハ功田ヲ賜ヘリ。

斯ク六位以下ノ官人ハ薄給ナリシカトモ、劇務ノ者ハ月斷要劇ナト稱シテ時々米錢ヲ賜ヒ、又、公廩料、厨料、時服、馬料等ノ所給アリタリ。

○節三 食封位田職田功田 食封ハ親王及三位以上ニ賜フ所ニシテ又封戸ト云フ、皆課戸ヲ以テ之ニ充テ、關庸ハ全給セ、其ノ田租ハ二分シテ、一分ハ官ニ入レ、一分ハ主ニ給ス、仕丁モ亦其ノ主ニ給ス、封戸ノ課丁ハ兵士仕丁ニ點スルコトヲ得ス、天平十一年ニ詔アリテ田租モ亦其ノ主ニ全給スルコト、ナレリ。其ノ數ハ、一品ニ八百戸、二品ニ六百戸、三品ニ四百戸、四品ニ三百戸、内親王ハ半ヲ減ス、太政大臣ニ三千戸、左右大臣ニ二千戸、大納言ニ八百戸ナリ、理ヲ以テ解官シ及致仕スル者ハ半ヲ減ス、延喜ノ式ニ、中納言ニ四百戸、參議ニ八十戸トアリ、正一位ニ三百戸、從一位ニ二百六十戸、正二位ニ二百戸、從二位ニ一百七十戸、正三位ニ一百三十戸、從三位ニ一百戸ナリ。

位田ハ親王ノ品階及王臣五位以上ノ位階ニ隨ヒテ賜フ所ナリ、輪租田トス、身亡スレハ公收ス、一品ニ八十町、二品ニ六十町、三品ニ五十町、四品

ニ四十町、正一位ニ八十町、從一位ニ七十四町、正二位ニ六十町、從二位ニ五十四町、正三位ニ四十町、從三位ニ三十四町、正四位ニ二十四町、從四位ニ二十町、正五位ニ十二町、從五位ニ八町ナリ、女ハ男ノ三分ノ一ヲ減ス、但シ減スルコトハ町ニ止リテ段歩ニ至ラス。

職田ハ在職中賜フ所ニシテ又職分田ト云フ、不輸租田ナリ、太政大臣ニ四十町、左右大臣ニ三十町、大納言ニ廿町ナリ、畿内ニ於テ二分ヲ給シ、外國ニ於テ一分ヲ給ス、畿内ニ於テ多ク給スルハ其ノ職重キカ故ナリ。

大宰帥ハ十町、大貳ハ六町、大國ノ守ハ二町六段、上國ノ守大國ノ介ハ二町二段、中國ノ守上國ノ介ハ二町、下國ノ守大上國ノ椽ハ一町六段、中國ノ椽大上國ノ目ハ一町二段、中下國ノ目ハ一町ナリ。郡ノ大領ハ六町、少領ハ四町、主典主帳ハ各二町ナリ、狹郡ハ必スシモ此ノ數ニ滿ヌス。

功田ハ國家ニ功勳アル人ニ賜フ所ニシテ、輸租田ナリ、大功ハ世々絶エ

ス、上功ハ三世ニ傳ヘ、中功ハ二世ニ傳ヘ、下功ハ子ニ傳フ、子ト云フハ男女同シ、嫡庶ヲ論ゼス、兄弟均分ス、兄弟死スル者アレハ、又其ノ子ニ傳フ、女子ノ子ハ分與ス可カラサルカ故ニ、女子亡スルトキハ、其ノ分ハ他ノ男子ニ傳與ス、子无キ者ハ傳フルコトヲ得ス、但シ兄弟ノ子ヲ以テ養子トスレハ傳フルコトヲ得。

○節 學生科試

叙位ノ資格ハ學藝才徳ヲ標準トシ、陽ハ公平ナリキ、即チ選叙令及學令ニ依ルニ大學卒業ノ者ハ博學高才ヲ秀才トシテ上上ハ正八位上ニ、上中ハ正八位下ニ、叙シ、二經以上ニ通スル者ヲ明經トシテ、上上ハ正八位下ニ、上中ハ從八位上ニ、叙シ、時務ニ関ヒ並ニ文選爾雅ヲ讀ム者ヲ進士トシテ、甲弟ハ從八位下ニ、乙弟ハ大初位下ニ、叙スルノ例ナリキ。

然ルニ天下ノ子弟タル者誰レ彼レノ差別ナク、大學國學ニ入ルヲ得

ルニ非ス、東西史部トテ、歸化人ヨリ出テ、代々文學ヲ業トシ、或ハ史官ト爲リ、或ハ博士ト爲レル者ノ子孫ヲ除ク外ハ悉ク門閥ニ取ルノ制ナリキ、即チ凡ソ大學生ハ五位以上ノ子孫ヲ取リ之ヲ爲ス、若八位以上ノ子、情願スル者ハ聽スト、又曰、國學生ハ郡司ノ子弟ヲ取リ之ヲ爲スト、アリテ、同シ選叙令ニ、凡ソ郡司ハ性識清廉、時務ニ堪フル者ヲ取リ、大領小領ト爲ス云云、其ノ大領小領才用同シキ者ハ先ツ國造ヲ取ルトアリテ、此ノ國造ハ大化以前ノ制ニ依リ土地ヲ領有シ、其ノ地方ニ於テ舊家ト尊マル、モノナリ、サレバ地方ノ學校ニ入ル者モ自然門閥ノ餘恩ニ依ル者多カリシヲ知ル可シ。蓋國學ノ制ハ令ニ於テ存シマレト實際ハ何如ホトマテ實行セラレタルカ今日ヨリ之ヲ知リ難シ。

○節 蔭位蔭官ノ制 又學業ニ依ラス唯々父祖ノ官位ヲ襲テ出身スルヲ蔭位蔭官ト云フ、是純レ然タル門閥主義ナリ、其ノ順ハ選叙令

ニ左ノ如ク見エヌリ。

親王ノ子

從四位下

諸王ノ子

從五位下

五世ノ王臣人

從五位下

但シ別勅ハ此限リニ在ラス。

五位以上ノ子出身スル者

| | | | |
|-------|------|----|------|
| 一位適子 | 從五位下 | 庶子 | 正六位上 |
| 二位適子 | 正六位下 | 庶子 | 從六位上 |
| 三位適子 | 從六位上 | 庶子 | 從六位下 |
| 正四位適子 | 正七位下 | 庶子 | 從七位上 |
| 從四位適子 | 從七位上 | 庶子 | 從七位下 |
| 正五位適子 | 正八位下 | 庶子 | 從八位上 |

又三位以上ノ蔭ハ孫ニ及フ子ヲ降ル一等ナリトス。斯ノ如ク父祖ニ位アレハ子孫ハ學識才用ニ拘ラス位ヲ得隨テ其ノ位ニ相當スル官ニ叙セラル、ノ機會ヲ得マリ。

從五位適子

從八位上

庶子

從八位下

又前ニ引ク所ノ秀才明經ノ出身ノ條ニ曰、其ノ秀才明經ハ上中以上ヲ得蔭及孝悌アリテ表顯セラル、者ハ本蔭ニ第一階ヲ加ヘテ叙ストアル故例ヘハ從七位下ノ適子ハ本蔭從七位上ナリ、然ルニ若其ノ者秀才ノ策ニ對ヘテ上下ノ第ヲ得マリトスルトキハ正八位上ニ當ルモ其ノ例ニ依ラス本蔭ノ從七位上ニ一階ヲ加ヘテ正七位下トスルナリ。

○節○選叙孝課ノ制 既ニ位階アル者ノ中ヨリ拔テ官職ニ補ス、之ヲ選叙ト云ヒ、選叙令ノ規程ニ依ラシム、又既ニ官職ニ在ル者ノ勤惰能否ヲ考ヘテ其ノ進退ヲ定ムル、之ヲ考課ト云フ、爲ニ考課令アリ、共ニ

公平ノ原則ヲ採レリ。選叙令ニ曰、凡ソ選ニ應スル者ハ皆狀述ヲ審ニシ銓擬ノ日先ツ德行ヲ盡クス、德行同シケレハ才用ノ高キ者ヲ取ル、才用同シケレハ勞効多キ者ヲ取ル。又曰、凡ソ考備ニ叙スヘキノ人、高行異才アルカ、或ハ尤モ治体ニ達セハ皆不次ヲ以テ聽擢ス、須ラク限ルニ當條ヲ以テスヘカラスト。又曰、凡ソ散位身才劣弱ニシテ務ヲ理ムルニ堪ヘサル者ハ式部制シテ諸司ノ使部ニ補スト。

又考課ハ毎年當司ノ長官ニ於テ其ノ屬官一年ノ功過行能ヲ錄シ、太政官ニ申送ス、其ノ優劣ヲ定ムルノ法ハ官ニ依リ或ハ六年或ハ七年八年九年等ヲ一段落トシ、此ノ年間ノ等次ヲ通算スルナリ。サテ各種ノ官職ニ通シテ特ニ賞ス可キモノ四ヲ擧ケテ善ト稱シ、又其ノ官職ニ依リ異ナルモノヲ定メテ之ヲ最ト稱シ、此ノ二者ノ有無多少ニ依リ一年ノ等次ヲ定メマリ。

四善ハ左ノ如シ

(一) 徳義聞フルアル者

(二) 清慎顯著ナル者

(三) 公平稱ス可キ者

(四) 恪勤懈ラサル者

最ノ數ハ官職ノ類ト共ニ多シ、今其ノ一二ヲ舉クレハ左ノ如シ。

獻替奏宜シ、務ヲ議スル理ニ合フヲ大納言ノ最ト爲ス。

旨ヲ承ケテ違フナク、吐納明敏ナルヲ小納言ノ最ト爲ス。

庶務ヲ受付シ、處分滞ラサルヲ辨官ノ最ト爲ス。

人物ヲ銓衡シ、才能ヲ擢テ盡スヲ式部ノ最ト爲ス。

戸口濫レズ、倉庫實アルヲ民部ノ最ト爲ス。

決斷滞ル事ナク、與奪理ニ合フヲ刑部ノ最ト爲ス。

一最四善ハ上ノ上ナリ、一最三善或ハ無最四善ハ上ノ中ナリ、一最二善或ハ無最三善ハ上ノ下ナリ、一最一善或ハ無最二善ハ中ノ上ナリ、一最無善或ハ無最一善ハ中ノ中ナリ。職事粗理ニシテ善最聞エサルハ中ノ下ナリ、愛憎情ニ任シ處斷理ニ乗クハ下ノ上ナリ、公ニ背キ私ニ向ヒ職務廢闕スルハ下ノ中ナリ、官ニ居テ諂詐シ及貪濁ノ狀アルハ下ノ下ナリ。

第六章 人民及土地

○節一里坊 大化以後ノ制度ノ其ノ以前ト異ナル所ハ主トシテ國家ト土地人民トノ關係ノ上ニ存スルコト帝國史略ニ之ヲ述マリ而シテ此等ノ制ハ大寶令ニ至リ完結セリ。人民ノ制ハ戶令ニ於テ存ス其ノ要點ハ里坊ノ制及戶籍ノ制ニ在リ、左ノ如キ。

第六章 人民及土地

京内ニ於テハ一戶ノ地ヲ長十丈廣五丈トス、八戶ヲ一行廣四十丈トシ四行州ニテ一町四方四十丈トシ四町八百二十テ一保方ニテ四保百六十戸ヲ一坊方四トシ四坊二千六百八十四戸ヲ一條トス長四十町是レ古ノ市制ナリ。一坊ニ長一人ヲ置キ四坊條ニ令一人ヲ置キ、戶口ヲ檢校シ、奸非ヲ督察シ、賦徭ヲ催駈セシム、坊令ニハ、正八位以下ノ明廉直ニシテ時務ニ堪ヘタル者ヲ取ル、坊長ハ之ヲ白丁ノ才幹アル者ニ取ル。

地方ニ於テハ郡ノ下ニ里アリ、以テ最下層ノ行政區劃トス、五十戸チ一里トシ、六十戸ニ滿ツレハ十戸チ割テ別ニ一里チ立ツ。里毎ニ里長一人ヲ置キ、戸口ヲ檢核シ、農桑ヲ課殖シ、非違ヲ禁察シ、賦役ヲ催駈セシム、里丁ハ白丁無位平民ノ清正強幹ナル者ニ取ル。

○節 一戸 一戸ハ即チ一家ニシテ親族ノ團結アリ、其ノ口數固ヨリ定限アルコトナシ、戸主ハ皆家長ヲ以テス、家長トハ正嫡相承クル者ヲ云フ、戸内ニ伯叔アリトモ傍親トシテ戸主タラシメズ。前戸主亡スレバ嫡子立ツ、嫡子ナケレバ嫡孫立ツ、即チ長子相續ナリ、兄弟同籍ニシテ兄死スレバ兄ノ子立ツ、然ルトキハ弟ハ則チ戸主ノ叔父ニシテ傍親ナリ。

戸内ノ口ヲ折出シテ別ニ戸ヲ爲スハ中男以上トス、成中男十七歲未滿ニ非ズ及寡妻妾ハ戸主タルニ堪フヘキ所有アルニ非サレハ、分ツコトヲ聽

サス戸内ノ男皆死ニテ自ラ女戸主ト爲レルハ格別ナリ。未タ戸籍ニ附カサレ者始メテ新ニ貫ニ附クニハ、必ス保證ヲ取リ其ノ元由ヲ問糺シ、逃亡詐冒ニ非サルコトヲ知り而シテ後ニ聽ス。狹郷ニ居ル者寬郷ニ就カント願フハ本郡ニ申牒シテ國司ノ處分ヲ請フ、國境ヲ出テ、他國ニ還ラント請フハ、官ニ申シテ報ヲ待チ、閑月十月一日ヨリ二月卅日ニ至ル間ヲ閑月トス、農事閑隙アニ於テ之ヲ領送シ、付領シ訖リテ兩所ノ國郡ヨリ各、官ニ申ス。外蕃ニ略セラレ或ハ風波ニ遭ヒテ流落セル者、還リ來ルコトヲ得タルトキハ、舊貫ニ復ス、舊貫ナケレハ其ノ欲スルニ任セテ近親中ノ貫ニ附ス。寬國ニ附カント欲スルモ亦之ヲ聽ス、外國人歸化スレバ其ノ所在ノ國郡ニ於テ先衣糧ヲ給シ、飛驒ヲ發シ、具狀進奏シテ寬國ニ配置シ、並ニ糧ヲ給シ、遞送シテ以テ其ノ居ルヘキ所ニ達セシム。

戸或ハ戸内ノ口ノ浮浪シ、或ハ逃亡シテ、三周、六年ノ限ヲ過キテ既ニ名

籍ヲ除キタル者及家人奴婢ノ放サレテ良ト成リ、若ハ良ナルヲ訴ヘテ免ル、コトヲ得タル者ハ、並ニ其ノ所在ニ於テ貫ニ附ス、保證ヲ取ルコトハ新附戸ノ方法ニ同シ、若本屬ニ還リ附カント欲セハ亦之ヲ聽ス。

○三節 戸籍 戸籍ハ六年ニ一タヒ之ヲ造ル、十月上旬ヨリ起メテ翌年五月三十日內ニ訖ル、里別ニ一卷トシ、其縫每ニ皆其レノ國其レノ郡其レノ里其レノ年籍ト注ス、惣テ三通ヲ寫シ二通ヲ官ニ申送シ、一通ハ京若ハ其ノ國ニ留ム、雜戸陵戸ノ籍ハ、更ニ一通ヲ寫メ、各其ノ本司ニ送ル。官ニ申送スルハ、各當國ノ貢調使ニ附シ、大宰府ハ貢綿使ニ附ス、若恩復水旱等ニ因リテ調使京ニ入ラサルトキハ專使ニテ之ヲ申送ス、未進ノ者ハ民部省ニ移送シ、調庸稅帳ノ返抄ヲ拘留ス。造籍ニ用井ル所ノ紙ハ黃藥ニ染メテ堅厚ナラシム、但シ西海道諸國ハ白紙ニ書ス、其ノ紙、筆、墨、軸、帙、帶等ノ費用ハ皆當戸ヨリ出ス當時ノ傳存セル大實二年以下ノ戸院ニ

籍ノ斷簡數種アリ以テ其ノ大略ヲ知ルニ足ルト云フ

戸籍ヲ造ル時ニ當リテ、丁ニ入り、老ニ入り、疾ニ入ル者アリ、之ニ因リテ課役ヲ徵シ、男ノ丁ニ入ル者、課役ヲ免シ、丁ノ老ニ入り、若ハ疾ニ入ル者、侍ヲ給フヘキ者ハ皆國司親シク其ノ形狀ヲ貌以テ簿ヲ定ム、之ヲ貌定ト云フ、一タヒ定メタル後ハ更ニ貌ル可カラズ、若ハ奸欺ノ疑アルトキハ事ニ從ヒテ臨時ニ之ヲ貌定シテ籍ニ附ス。

京師及諸國ヨリ戸籍ヲ太政官ニ申送スレハ、先ツ之ヲ中務民部ニ納メ、民部ニ於テ之ヲ勘檢ス、若年紀ヲ増減シ或ハ籍ヲ脱シテ上セス、或ハ生ヲ詐リテ死ト注セル類先籍ト同シカラサルコトアレハ狀ニ隨ヒテ本國ニ下推シ、國ノ失錯ナレハ、省及國ノ籍帳ニ具サニ失錯ノ事由ヲ注ス、五位以上ノ子孫ハ籍帳ニ各父祖ノ位名ヲ載ス、故ニ本貫ノ貢送ニ任セテ更ニ勘籍セス。

戸籍ハ恒ニ五比即チ三十年間ノ籍ヲ留メテ以テ勘檢ノ用ニ供シ、其ノ遠年ノ籍ハ次ニ隨テ之ヲ除ク、之ヲ五比籍ト云フ、但シ天智天皇ノ九年ニ作リタル庚午年籍ハ後世ニ對スル氏姓ノ標準トシテ永ク除ク例ニアラス。

○節五保 警保ノ爲ニ五戸相保ル之ヲ五保ト云フ、一人ヲ長トシ、相檢察シテ非違ヲ戒ム。遠客ノ止宿スルアルカ、保内ノ人ノ行誦スル所アレバ、同保ニ告ケテ之ヲ知ラセム。戸ノ賦役ヲ免レンカ爲ニ逃走セル等アレハ同保ノ者之ヲ追訪ス、三周即チ三年ナリ但シ日ヲ算セニシテ得ザレハ第四年ニ至リテ除名シ其ノ地ハ公ニ還ス、除名セサル前未ダ還ラサルノ間ハ、同保ノ戸主及同里ニ住スル三等以上ノ親ニ於テ其ノ地ヲ均分シテ佃食シ、租調ハ代輸ス、徭役ニ至リテハ其ノ身既ニアラサルヲ以テ代役ヲ要セズ。

○節五斑田 土地ニ關スル一般平等ノ原則ハ夫ノ斑田收受ノ法ナリ、斑田トハ、斑田使ヲ遣シ、口分田ヲ一般人民ニ斑授スルヲ云フ。是レヨリ先キ大化二年正月ニ初メテ戸籍計帳斑田收受ノ法ヲ作り、白雉三年ニ、斑田ノコト見エ、持統天皇ノ六年ニ、斑田ノ大夫ヲ四畿内ニ遣ハスコト見エタリ。大寶令ノ制、凡ソ田ハ六年ニ一ヌヒ斑受ス、六年一斑トハ、未ダ口分田ヲ給セサル人ニ就キテ云ヘルニテ、其ノ一旦給セラレタル者ハ更ニ收公シ授與スルニ非サルナリ。斑年ニ至ルマテハ、同戸内ノ人之ヲ佃食シ、租稻モ代リテ輸ス。人生レテ六歳ニ至レハ皆口分田ヲ得、死ヌレハ必ス六年内ニ收公セラル、斑田スヘキ年ヲ班年ト云フ、班年ニ至レハ正月卅日内ニ、兩京國ノ官司ヨリ太政官ニ申シ、十月一日ヨリ田地ト新給スヘキ人トヲ校勘シテ簿ヲ造リ、十一月一日ニ至リテ、田ヲ受クヘキ人ヲ總集シテ、之ニ給授シ、翌年二月卅日内ニ、其ノ事ヲ訖ヘシ

ム、班田ノ事或ハ兩年ニ涉ルトイヘトモ、前年ヲ稱シテ班年トスルナリ。其ノ翌年即チ田ヲ受ケテ耕種スルヲ得ル年ヲ初班トス、例ヘハ、班年ノ翌年ニ生レタル子アリ、次ノ班年ニ至リテ六歳ナリ、即チ口分田ヲ授ク、其ノ翌年ヲ以テ此ノ子ノ初班トス、即チ七歳ナリ、此ノ者若七歳ニシテ亡セリトモ、次ノ班年即チ十二歳ニ至ルマテハ其ノ田ヲ收公セス、戸内ノ人之ヲ佃食ス、又班年ノ翌々年ニ生レタル子ハ、次ノ班年ニ至リテ五歳、其ノ翌年ハ六歳ナリト雖之ニ口分田ヲ授ケス。若崩埋侵食ニ因リ、田レハ、班年ニ至リ改メ給ス、又侵食ノ爲ニ舊派ヲ變シテ新出シタル地ヲ地ノ損失ア佃ルニ堪フヘキトキハ班年ヲ待タスシテ之ヲ侵サレタル家ニ給ス、但シ郡界ヲ界ニスルハ、此ノ例ニアラス。又田地交錯セルアリテ、兩主換ヘンコトヲ求ムレハ本部判シテ之ヲ除附ス。朝廷官司ニ屬スル民戸及奴婢ノ口分田ハ其ノ數良人ニ同シ、而シテ不

輸租田トス、而シテ人民私有ノ家人奴婢ノ口分田ハ郷土ノ寛狭ニ隨ヒ、良人ノ三分一ヲ給ス、即チ男ハ二百四十步、女ハ百六十步ナリ、田數ニ准シテ租ヲ輸ルスコトハ良人ニ同シ、其ノ給田ノ得分、以テ食料トスルニ足ラサルハ本主ノ給養ヲ受クレハナリ。寺ノ奴婢ハ全ク給セサルハ寺家ニ於テ給養スレハナリ、但シ無田ノ寺ニ於テハ、臨時ニ量給ス、良人ノ三分一ナリ。

○六 宅 地 宅地ニ付キテハ大寶令中ニ正條ナシト雖、上古ヨリ居住シ來レルマ、ニ、子孫ニ傳來シ、各自其ノ便近ノ地ニ、田疇ヲ關キ園林ヲ占メテ所有セルニテ大化改新ノ制出シヨリ以後モ、尙宅地ハ舊ニ依リテ、戸々私有スルコトヲ聽許シタルモノ、如シ。歸化ノ蕃人ヲ、各處ニ安置シタル者并ニ他郷ヨリ貫ヲ移シ、或ハ新ニ戸ニ附ク者モ、皆適宜ニ空閑ノ地ヲ開墾シ又ハ買取シテ以テ宅地トスルコトヲ許セシナルハ

宅地ノ私有ナルコトハ、其ノ賣買ヲ自由ニセシテ以テ明ナリ、但シ賣買ハ所部官司ノ許可ヲ要シ、而シテ寺院ニ捨施シ、又ハ賣與スルコトヲ禁シタリ。

○七節 園地

園地ハ民戸ノ品第ニ由ラス男女ノ等差ヲ立テス、其ノ土地ノ廣狹ニ隨ヒ、各人ニ均分シテ之ヲ給シ、一給ノ後更ニ受授セス、大約一人ニ三四段ヲ給シタリ。其ノ戸絶ユレハ公ニ還ス、地主存日ニ既ニ賣リタルハ更ニ還ス可カラス、園地ニハ其ノ戸ノ品第ニ隨ヒ、課シテ桑漆ヲ種ヘシム、上戸ニ桑三百根漆一百根以上、中戸ニ桑二百根漆七十根以上、下戸ニ桑百根漆四十根以上ナリ、園地無キモノハ課スルノ限リニアラス、其ノ郷土ノ桑漆ニ宜シカラサルト、狹郷トニ於テハ必スシモ其ノ定數ニ滿テシメサルナリ。園地ハ賣買スルヲ得ルコト宅地ニ同シ、寺院ニ捨施シ賣與スルヲ得サルコトモ亦然リ。

第七章 財政及兵役

○一節 人民土地ニ關スル義務

戶令田令ノ原則ハ人民及土地ヲ帝室及豪族ノ私權ヨリ分離シテ國家ノモノトナシ、之ニ對シテ畫一ノ制ヲ布クニ在リ、是ニ於テ田家ノ爲ニ要スル資財及勞役モ亦畫一ノ制ニ依リ之ヲ一般人民ニ課スルノ必要起ル。其ノ人民ニ課スルモノヲ庸調トシ、其ノ土地ニ課スルモノヲ租トス、而シテ別ニ兵役ノ義務アリ、大体ノ原則ハ公平ニシテ間々特權ノ混入セルモノアリ。京師ノ諸官司ハ專ラ調庸ノ物ヲ以テ給支シ、大藏省之ヲ管理ス、而シテ地方國郡ノ經費ハ專ラ田租ヲ以テ之ニ充テタリ、然レトモ又租ノ幾分ハ年料ノ春米及別納ノ租穀トシテ年々之ヲ京庫ニ輸入シ、以テ宮中ノ用料及官人ノ俸祿ニ充テタリ。

○二計帳及課口

調庸ノ爲ニ課口ヲ檢知スルノ帳簿ヲ計帳又ハ

大帳ト云ヒ、又大計帳トモ云フ、毎年六月卅日以前ニ京國ノ官司、部内ノ

戸主ニ、其ノ家口年紀ヲ注セル手實ヲ出サシム、若全戸其ノ郷ニ在ラサ

ルモノ、如キハ、舊計帳ノマ、ニ轉寫シテ、其ノ不在ノ所由ヲ注ス、收メ

訖リテ帳ヲ造リ、連署シテ八月卅日以前ニ太政官ニ申奏セシム。

戸内ニ賦役ヲ課スヘキノ口アレテ課戸トシ、課口ナキヲ不課戸トス、課

口トハ十七歳以上、六十五歳以下ノ男ヲ云フ。皇親及八位以上ノ人、年

十六歳以下ノ男、三位以上ノ人ノ父、祖、兄弟、子孫、五位以上ノ人ノ子、耆癯

疾、篤疾、妻、妾、女、家人、奴婢ハ賦役ヲ課セサルヲ以テ不課口ト云フ。

男女ノ一生ヲ六段ニ分カテ、三歳以下ヲ黃トシ、十六歳以下ヲ少トシ、廿

歳以下ヲ中トシ、廿一ヲ丁トシ、六十一ヲ老トシ、六十六ヲ耆トス。其ノ

中ニ就キテ中丁老ノ男ヲ公役ニ服セシム、丁ハ丁壯ノ丁ニテ、ヨホロト

訓ス、ヨホロハ膈ニテ脚中ノ筋ヲ謂フ、壯男ノ力役ニ服スルニハ脚ノ強

ナルヲ要ス、故ニ之ヲヨホロト云ヘリ。女ノ嫁シテ夫亡シ、及出サレタ

ルヲ寡妻妾トス、一目盲シ、兩耳聾シ、手ニ二指ナキ、足ニ三指ナキ、手足ニ

大姆指ナキ、禿瘡ニテ髮ナキ、久漏、下重、大癭、腫アル類ヲ殘疾トシ、癡、瘖、侏

儒、腰脊折レ、一支癱セル類ヲ癱疾ト云、惡疾、癩狂、二支癱シ、兩目盲セル類

ヲ篤疾トス。丁男ヲ正丁ト云ヒ、老者ト殘疾者ト次丁ト云フ、次丁ハ

二人ヲ以テ正丁一人ニ准シ、中男ハ四人ヲ以テ正丁一人ニ准シタリ。

年八十以上、及篤疾ニハ侍一人、九十二ハ二人、百歳ニハ五人ヲ給シ、以テ

之ニ供侍セシム、之ヲ侍ヲ給フト云フ、侍ニハ有官無官ヲ論ゼズ、先ツ其

ノ子ヲ盡シ、子ナケレバ孫ニ及フ、子孫ナケレバ近親ヲ取り、近親ナケレ

バ白丁ヲ取ル、同家ノ中男ヲ取ラント欲スルモ亦聽ス、侍ニ充ル者ハ公

役ヲ免ス、十歳以下ノ篤疾者ニ二等以上ノ親アルハ侍ヲ給セス。

○三節調 賦役令ニ依ルニ絹絶絲綿布並ニ郷土ノ出ス所ニ從ヒ定率ヲ以テ計リ課口ヨリ出マサシムル之ヲ調ト云フ。即チ正丁一人ヨリ絹絶ハ八尺五寸、絲ハ八兩、綿ハ一斤、布ハ二丈六尺ヲ出マスヲ定率トシ、國土ニ依リ品質ノ異ナルニ隨ヒ度量ヲ異ニシタリ。又之ニ代ヘテ鐵、鐵、鹽、鰓、堅魚、烏賊等ノ雜物ヲ出スコトヲ許シタリ。此ノ外ニ調ノ副物トシテ京及畿内ハ正丁一人ニ調布一丈三尺、地方ハ正丁一人ニ紫三兩、紅三兩、茜二斤、又ハ其ノ他ノ產物ヲ出マサシメタリ、其ノ品目及分量ハ賦役令ノ指定スル所ニ依ル。調庸ノ物ハ隨近合成シ國郡里戶主ノ姓名年月日ヲ注シ之ニ國印ヲ印シ、毎年八月中旬ヨリ起輪シ、近國ハ十月三十日、中國ハ十一月三十日、遠國ハ十二月三十日ヨリ以前ニ納メ訖リ、其ノ絲ハ七月三十日以前ニ納メ訖ラシム、其ノ運脚ノ費ハ之ヲ庸調ノ家ニ均課ス。

○四節庸 凡ソ正丁一年ニ十日ツ、出テ、國家ノ工事ニ勞役セシム、若自ラ出役スルコトヲ欲セサル者ハ物品ヲ以テ代納セシム、之ヲ庸ト云フ、即チ正丁一人一日ノ役ニ代ルニ布二尺六寸ヲ以テス、十日ニ二丈六尺ナリ、次丁二人ヲ以テ正丁一人ト同フス。中男及京師畿内ノ人民ニハ庸ノ代納ヲ許サス、必ズ自ラ出役シ、又ハ代人ヲ以テ出役セシム、蓋京畿ニ於テハ常ニ朝廷及官司ノ工事多クレバナリ。代人ハ同國同郡又ハ家人ニ限ル。其ノ丁役ニ起ツノ日ハ長官親自ラ點檢シ、并ニ衣服ヲ閱シ、周備シテ然シテ後ニ發遣ス。凡ソ丁匠ハ皆功力ヲ樹量シ課ノ輕重ヲ均クシ、晝作リ、夜止ミ、六月七月ハ午ヨリ未ニ至リ休息ヲ聽ス。

○五節租 土地ヲ人民ニ分配シ、之ニ對シ課スル所ヲ租ト云フ。サテ口分田ノ稷稻輪租及當人ノ得分ニ關シテハ大寶令ノ束把斗升ト、和銅改制ノ束把斗升ト多少ノ差アリ、是レ斗升ノ大小ノ製ヲ異ニセルニ因

レルニテ、實ハ違フコトナシ、今和銅ノ製ヲ掲ケテ、大寶ノ製ヲ下ニ注ス。
 男ニ給スル所ハ二段、即チ七百二十歩ニシテ、其ノ穫稻百束令ノ百四十
 ニシテ、此ノ米五斛和銅大升〇減大升ナリ、此ノ内ヨリ租稻三束令ノ四
ニ同ヲ輸ス、此ノ米一斗五升和銅大升〇減大升ナリ、殘ル所ノ得分稻九
 十七束令ノ百三十九ニシテ、此ノ米四斛八斗五升減大升ノ六斛九ナリ、
 即チ日別一升三合四勺七撮餘和銅ニシテ、京升ノ七合八勺七撮餘ニ當
 レリ。女ハ男ノ三分ノ一ヲ減ス、即チ一段百廿歩ナレハ、其ノ穫稻六十
 六束六把六分餘令ノ九十六ニシテ、此ノ米三斛三斗三升三合餘減大升
八斗ニナリ、此ノ中ヨリ、租稻二束令ノ九束三ヲ輸ス、此ノ米一斗減大升
餘ニ同シナリ、殘ル所ノ得分稻六十四束六把六分餘令ノ九十二ニシテ
 此ノ米三斛二斗三升餘減大升ノ四石六ナリ、即チ日割八合九勺八撮餘
 大和銅ニシテ、京升ノ五合二勺四撮餘ニ當レリ。

○六徴兵

兵役ノ義務モ之ヲ人民ニ課シ、三丁ニ一丁ヲ取ル、即チ全
 國毎年課丁ノ三分ノ一ヲ以テ國兵トシ、其ノ一部分ヲ京師ニ召シテ衛
 士トシ、一部分ヲ大宰府ニ遣シテ防人ト爲シ、餘ヲ諸國ノ軍團ニ充ツ。
 武器ハ自辨トシ、馬アルハ騎兵トシ、馬ナキハ歩兵トシ、出役ノ間ハ課役
 ヲ免ス。然レトモ五位以上ノ人ノ子孫及八位以上ノ人ノ嫡子ハ兵役
 ノ義務ヲ免レタリ、即チ曰「凡五位以上ノ子孫年二十一年以上ニシテ現
 ニ役任ナキ者ハ毎年京國ノ官司勘檢シテ實ヲ知リ十二月一日ヲ限リ
 並ニ身ヲ式部ニ送り太政官ニ申シ性識聰敏ニシテ儀容取ルヘキヲ檢
 簡シテ内舍人ニ充テヨ、三位以上ノ子ハ簡スルノ限リニ非ス、以外ハ式
 部狀ニ隨テ大舍人及東宮舍人ニ充テヨ」。凡ソ内六位以下八位以上ノ
 嫡子年二十以上ニシテ見ニ役任無キ者ハ毎年京國ノ官司勘合シテ實
 ヲ知リ狀ヲ賣メ簡試シテ分ケテ三等ト爲シ、儀容端正ニシテ書字ニ工

ナルチ上等トナシ、身材強幹ニシテ弓馬ニ便ナルチ中等トナシ、身材孱弱ニシテ文簡ヲ識ラサルチ下等トナシ、十二月卅日以前ニ上等下等ハ式部ニ送テ簡試シ上等ハ大舍人ト爲リ下等ハ使部トナリ、中等ハ兵部ニ送リ試験シテ兵衛ト爲セヨ、如シ足ラサル者ハ庶子ヲ通取セヨト。

390160

第八章 私法

○節一 大寶令中私法條項 雜令ニ凡ソ訴訟ハ十月一日ヨリ起テ三月三十日ニ至リ檢校セヨ、以外ハスヘカラス、若相侵奪スル者ハ此ノ例ニ在ラストアリテ、義解ニ財物良賤譜第ノ類ハ、事侵害ニ非ス、時ヲ待テ申訴スヘキモノナリト云ヘルニテ、當時少クトモ左ノ三事ニ關シ私法ノ存セシチ知ルヘシ、

- (一) 財物、即チ財産法
- (二) 良賤、即チ身分法
- (三) 譜第、即チ親族法

此ノ中ニテ良賤即チ良人ト賤民トノ分限ニ係ルモノハ帝國史略ニ其ノ大要ヲ述ヘタリ、且近世ニ至ル前ニ不用ニ屬シタレド、他ノ二ハ後世

ノ私法ノ基本トナレリ。蓋大寶令ハ其ノ體裁ニ於テハ純然タル公法ニシテ、私法ニ非ス、即チ天皇ヨリ人民ニ命令スル所ナリ、然レトモ其ノ間ニ、政府ト人民トノ關係ヲ規定スルモノト、人民相互ノ關係ヲ規定スルモノトノ區別アリテ、後者モ始メハ、政府ノ意トシテ、之ヲ人民ニ命令シ後ニ人民相互ノ權利義務ノ基本ト成ルモノナリ。抑私法上ノ條項ハ元ト公法ノ中ヨリ出ツルコト、獨リ日本ノミナラズ、他國ニ於テモ必ス然リトス。例ヘハ今日ノ民法人事編ニ於テハ「男ハ十五以上、女ハ十三以上ニシテ、婚嫁スルコトヲ得」ト原則的ニ書ケルヲ、古ノ戶令ニハ「男ハ十五以上云云婚嫁ヲ聽ス、」ト准許的ニ書ケリ。

○節質入條項 財物、即チ所有權ニ係ル條項ノ中ニテ最モ完備セルハ、質入ニ關スルモノ是レナリ。質入ハ當時ノ語之ヲ出舉ト謂ヘリ。

雜令ニ曰「凡ソ公法ノ財物ヲ以テ、出舉スルモノハ、私契ニ依ルニ任シ、官

爲ニ理ヲ爲サス」

蓋法律ニ準リテ契約ヲ爲ス限リハ、政府ハ、其ノ事ヲ受理セス、全ク人民ノ私ニ任ストナリ而シテ、其ノ法律ハ、左ノ如シ

「每六十日ニ利ヲ取ル」

未タ六十日ニ滿マサルモノハ、利ヲ取ルノ法ナシ(義解)

「八分ノ一ヲ過クルヲ得ス、四百八十日ヲ過クト雖一倍ニ過クルヲ得ス」

是レ利割ノ法ナリ、今日ノ年七割餘ニ當レリ、然レトモ一倍ニ至ルマ

テ之ヲ取リ、其ノ餘ハ之ヲ取ラス、若請戻スコトヲ得サルトキハ、質入

ノ資財ヲ公賣ニ附スルナリ。

「家資盡ル者ハ身ヲ役シテ折酬セヨ」

利子ヲ拂フ能ハサル者ハ、勞力ニテ拂ハシムルナリ、義解ニ「當時、當郷

ノ庸作ノ價ニ據リ、以テ役折スルニ、テ、年ノ遠近ヲ限ラス、皆、債ヲ盡ス

チ以テ限リト爲ス「トアリ、是レ折債、庸作ノ法ニシテ各國ノ上古ニ行ハレタルモ、近世ニ至リテハ其ノ債主ニ不利ニシテ、人身ノ自由ヲ害シ、家族ノ活路ヲ閉ツルカ故ニ廢シ、代フルニ家資分散ノ法ヲ以テス、利ヲ廻シテ、本ト爲スコトヲ得ス」。

未酬ノ利ヲ以テ本ニ加ヘ、又ハ未償ノ舊本ヲ廻シテ新本トシ、又ハ不償ノ本利ヲ轉シテ、新本ト爲スヲ禁スルナリ。

「其ノ質ハ、物主ニ對フ、對フハ立合ハニ非ス、ハ、輒チ賣ルゴトヲ得ス若利ヲ計レニ本ヲ過クレトモ贖ハサレハ所司ニ告ケテ對賣スルコトヲ聽シ、即チ剩アルトキハ之ヲ還セ」。

四百八十日ヲ以テ、質入ノ期限トシ、仍、六十日以上ヲ經レドモ償ハサルトキハ、債人立合ニテ質入ノ財物ヲ公賣スルナリ。負債者逃避セハ、保人代ハリ償ヘ、

債人身亡スレハ保人代償セヨ、二人共保シテ、一人身亡スレハ、亦殘ル一人全償セヨトノ義ナリ。

「若、法ニ違ヒテ利ヲ責メ、契ノ外ニ掣キ奪ヒ、及出息ノ債ニ非サル者ハ、官爲メニ理ス」。

法律ニ違ヘル利害ヲ請求スル者、契約外ノ物品ヲ差押フル者、並ニ、利子ヲ取ラヌシテ貸附ケタル者ハ、之ヲ受理シテ、裁判スルナリ。

「凡ソ稻粟ヲ以テ出舉スル者ハ、私契ニ依ルニ任セ、官爲ニ理セス、仍ホ一年ヲ以テ斷ト爲ス、一倍ニ過クルコトヲ得ス、其ノ官ハ半倍トス、並ニ舊本ニ因リテ更ニ利ヲ生セシメ、及利ヲ廻シテ本ト爲スヲ得ズ、家資盡ルトキモ亦上條ニ準ス」。

凡ソ出舉シ、兩情和同シテ、私契ヲ以テ、利ヲ取ルモ、正條ニ過クルトキハ、人ノ糾告スルニ任シ、利物並ニ糾人ニ償フナリ。

是レ、往時ノ管掌主義ナリ、即チ示談ヲ以テ制限外ノ利ヲ收ムル者アルトキハ、第三者ニ於テ告廢スルヲ竣テ、告廢者ニ元利ヲ與フルナリ。後ニ弘仁十年五月二日格ヲ以テ、公私舉錢一年ヲ限リ、半倍ノ利ヲ取ルヘシ、年紀ヲ積ムトイヘト。モ、過責スルヲ得ス、犯ス者ハ違令ノ罪ニ科ストアルニテ、金錢ノ貸借ハ、後ノ事ナル知ルヘシ、令ノ時ハ、未ダ金錢アラサルナリ。

○三賣買條項 田令ニ云、凡ソ宅地ヲ賣買スルハ、皆、所部ノ官司ヲ經テ、申牒シテ、然シテ後之ヲ聽スト。

當時地所ハ、公有ニシテ、獨リ宅地ノミ私有ヲ許サレタルカ、政府ノ登錄ヲ乞ハザレバ、之ヲ賣買スル能ハサラシメタルモノナリ。

雜律ニ云、奴婢牛馬ヲ買ヒ、券ヲ立ツルノ後、舊病アル者、三日内ハ、悔ヲ聽ス、病ナク欺ク者ハ、市法ノ如クスト。

法曹至要鈔ニ云、奴婢牛馬ヲ除クノ外賣買、約諾ノ物、全ク改易ノ法ナシ、遂ニ前約ニ依ルヘキナリト、サレハ、此ノ四種ノ物ニ限リ、賣買約束ノ後、三日ニ至ルマテ、其ノ効力完結セサルナリ。

雜律ニ云、奴婢馬牛ヲ買ヒ、已ニ價ヲ過シテ、券ヲ立テサル三日ヲ過ゴセハ、答三十ト、

即チ奴婢馬牛モ、現所有主ノ誰レナルヤニ付、疑ヲ生シ易キモノナレハ、賣買ノ都度ニ官ニ登錄スルノ制タリシナリ。

○四損害條項 雜律ニ云、水火損敗スル所アリ、故サテ犯ス者ハ、償ヲ徵シ、誤テ失フ者ハ、坐セス償セスト。

至要抄ニ云、假令、人、宅ヲ借り居住シ、故犯ニ非ズシテ失火ヲ爲シ、燒失スルモノハ、其ノ代ヲ償スヘカラスト、是レ今日ニ至ルマテ本邦ノ慣例ヲ爲セリ。

又云、乘毀亡失シ、及誤テ官私ノ器物ヲ、毀リタル者ハ、各種ヲ備ヘヨト又云、若強盜セラレタル者ハ、各坐セス償セスト。

サレハ、借物ヲ強盜セラレタル時ハ、止ムヲ得サルニ出テタルモノナレハ、賠償ヲ要セストイヘト、モ、竊盜セラレタルハ、不注意ヨリ起ル亡失ノ類ナレハ、賠償ヲ要シタルナリ。

又法曹至要抄ノ説ニ質ニ置クノ物、燒失スルハ、所謂水火損敗ノ義ニシテ償ヲ備フルヲ要セス、亦負フヘキノ物ハ、辨補スルヲ要セス、則チ彼、是、損無ク、自ラ折中ノ法ニ叶フ、強盜セラレ、モ亦同ヰト。

○節五 氏長權ノ顛末 大化以前ノ社會組織ニ於テ、氏長ノ其ノ氏民ニ對シテ、重大ナル權力ヲ有シ、氏民ハ氏長ノ支配ヲ受ケテ、天皇ノ支配ヲ受ケサリシコト、前ニ屢述ヘタリ、氏上ノ資格ハ大臣、大連ヨリ國造、伴造ニ至ルマテ大化改制ノ結果トシテ大寶令以後ニ於テハ、唯々名譽

モノト成リ、私權上ノ區別タルニ止マリテ、公權上ノ制度タルコト止ミ、タリ、サレハ太寶令中氏上ノ事ヲ言ヘルハ左ノ二所ニ過キス。
繼嗣令ニ云、凡ソ三位以上ノ繼嗣ハ、皆嫡相承ク、若嫡子ナク、及罪疾アル者ハ、嫡孫ヲ立ツ云云、其ノ八位以上ノ嫡子、未タ叙セスシテ身亡シ、及罪疾アルハ、更ニ立替フルコトヲ聽ス、其ハ、氏宗ハ、勅定ヲ聽スト。
葬喪令ニ云、凡ソ三位以上、及別祖氏宗別族ノ宗始租ハ並ニ墓ヲ營ムコトヲ得、以外ハ令サスト

但シ氏上ノ事ハ此ノ後モ國史ニ往往ミエ、後世ニ至リテモ、氏ノ長者ニ於テ氏人ノ補任ヲ撰擧スルコトナドアリテ、之ヲ是定ト云ヒ、多少古風ヲ存シタリト雖モ、既ニ律令ノ上ニ於テハ、之ヲ公然ノ制度ト認メサルナリ。

○節六 家長權 雜令ニ云、凡ソ家長在シテ、而シテ子孫、弟姪等、輒チ奴婢

雜畜、田宅、及餘ノ財物ヲ以テ私ニ自ラ質擧シ、賣ルコトヲ得ス、若、相本間
ケスシテ輒ク與ヘ、及賣ル者ハ、律ニ依リ罪ヲ科ス」ト、

其ノ罪ハ、律ニ依レハ、違令罪ナリ、但シ五端ニ滿タサルモノハ無罪ト
ス、此ノ場合ニ云フ所ノ家長ハ、家中ノ年長者即チ、祖父伯兄ノ屬ニ
シテ、戶令ニ所謂戶主ト同シカラズ。

戶婚律ニ曰、「祖父母父母在シ、子孫籍ヲ別ケ、財ヲ異ニスル者ハ、徒二年」ト

○七 節 家督相續條項 當時ノ主義ハ、勿論長子相續ナリ、戶令ノ戶主
皆家長ヲ以テ、之ヲ爲スノ注ニ、家長トハ、嫡子ヲ謂フナリ、凡ソ繼嗣ノ道
正適相繼ク、伯叔アリト雖、是レ傍觀ト爲ス、故ニ、適子ヲ以テ戶主ト爲ス
トアリ。 戶令ノ戶主ヲ以テ、家長トスト云フハ、行政上ノ便宜ノ爲ナリ。
繼嗣令ニ云凡ソ三位以上ノ繼嗣ハ、皆嫡相承ケ、若嫡子無ク及罪疾アレ
ハ嫡孫ヲ立テ、嫡孫無ケレハ、次ヲ以テ嫡子ノ同母弟ヲ立テ、同母弟無ケ

レハ、庶子ヲ立テ、庶子ナケレハ、嫡孫ノ同母弟ヲ立テ、母弟ナケレハ庶孫
ヲ立ツ、四位以下ハ、唯、嫡子ヲ立ツ」ト。

即チ長子相續ハ、庶人以上ノ法ナリ、其ノ八位以上及氏宗ハ、特例アリ、
子ナケレハ養子ヲ許スコト、下文ニ云フカ如シ。

然ルニ雜令ニ家長在マシテ而シテ子孫ハ弟姪等云云トアルニ依リ、
前述ノ如ク家長ノ權ヲ握ルハ必スシモ嫡流ノ嫡子ノミニ限ラス、父
死シテ後尙父ノ兄弟アルトキハ、其ノ長子ニ代テ、暫、家長權ヲ行ヒマ
ルモノト知ラレタリ、是レ自然ノ變則ナリ。

○八 節 養子法條項 戶令ニ云、凡ソ子無キ者ハ、四等以上ノ親ノ昭穆
ニ於テ、合フ者ヲ養フコトヲ聽ス」ト。

サレハ、養子ハ實子ナキ、場合ニ限リ聽セシニテ、四等以上ノ親トイヘ
ハ兄弟ノ子、並ニ庶子庶孫其ノ内ニ在リ。 昭ハ明ニシテ父ヲ謂ヒ、穆

ハ敬ニシテ、子ヲ謂フ、義解ニハ、十五以上ヲ婚ヲ聽ス時トセハ、十五ノ子ヲ養ハシニハ、父ハ三十以上タルヘク、二十五ノ子ヲ養ハシニハ、父ハ四十以上タルヘキ類ヲ曰フトアレト、伊藤長胤ハ己ノ弟、又ハ父ノ弟ノ己ヨリ年少ナル者等ハ子タリ父タルノ關係ニ立テ難キモノナレハ、之ヲ避クヘシトノ義ナリト云ヘリ。

○九 婚姻法條項 戶令ニ云、凡ソ男ハ年十五、女ハ年十三以上ニシテ、婚姻ヲ聽スト。

凡ソ女ヲ嫁ス、皆先ツ祖父母、父母、伯叔父、姑姉妹ノ兄弟、外祖父母ニ由リ、次ニ舅、母ノ從母、從父兄弟ニ及フ、若、舅、從母、從父兄弟居テ同クシ財ヲ共ニセス、及此ノ親無キ者ハ、女ノ欲スル所ニ任シ、婚主ト爲スト。

是レ、女子ノ一方ニ於テ、自由結婚ノ主義ヲ取ラズ、尊族ヲ以テ卑族ノ婚姻ヲ制セシムルモノナリ、縱令悉ク由ラサルモ、唯々其ノ違令ヲ咎

ムノミ、更ニ之ヲ離ス可カラズ。

凡ソ妻ヲ棄ツルハ、先祖父母、父母ニ依ル、若、祖父母、父母ナクシハ、夫ハ自ラ由ルコトヲ得。

即チ男モ妻ヲ棄ルトキ、尊屬ニ由ルヲ要シタルナリ。

凡ソ女ヲ嫁シ、妻ヲ棄ツルコト、由ル所ニ由ラサレバ、皆婚ヲ成サズ、棄ツルコトヲ成サズ、由ル所、後ニ知り、滿三月理セザレバ、皆更ニ追論スルヲ得ズ。

凡ソ先ツ姦シ後ニ娶テ妻ト爲セバ、赦ニ會フトイヘトモ、尙之ヲ離ツ

○十 離婚法條項 戶令ニ云、凡ソ妻ヲ棄ツルコトハ七出ノ狀アル

ヘシ、一、無子女子アルモ、二、姪姪、三、舅姑ニ事ヘス、四、口舌多、五、盜竊、六、妬

忌色ヲ以テスルヲ忌ト曰フ、七、惡疾、皆棄ツ、夫之ヲ手書シテ、尊屬近親ト

同署シ共啓スルナリ、若書ヲ解セサレハ、指ヲ畫シテ記ト爲スト。

「妻去、狀アリト雖、三不去アリ、一ニ、舅姑姑ノ喪ヲ經持ス、二ニ、娶ル時賤ニシテ後ニ貴キ、三ニ、受クル所アリ、歸ヘス所ナキ是レナリ、即チ義絶、淫洗、惡疾ハ此ノ令ニ拘ハラヌ」中

「皆其ノ齋ス所ノ現在ノ財ヲ還シ、若婢ヲ將井、子アラハ、亦之ヲ還セ」

「凡ソ結婚既ニ定メテ、故無ク三月成ラズ、及逃亡シテ一月歸ラス、若外藩ニ没落シテ、一年歸ラズ、及徒罪以上ヲ犯シテ、女家離セント欲スル者ハ之ヲ聽ス、已ニ成ルトイヘトモ、其ノ夫外藩ニ没落シテ、子アレハ五年、子無ケレバ三年歸ラズ、及逃亡シテ、子アラハ三年、子無キハ二年出デザル者ハ、並ニ改メ嫁スルヲ聽ス」

○十一 遺産分當法 令ノ條項ヨリ推スニ、父死シテ、其ノ資財、悉ク長子ニ入ルノ制ハ、未ダ行ハレズ、是レ封建以後ノ制ナルヘシ、死者、遺言アルトキハ、則チ之ニ依リ分配シ、其ノ無キ場合ニ於テモ、母即チ未亡人、又

ハ、父ノ兄弟ノ存スル間ハ、子ハ姑ク其ノ遺財ヲ受クルヲ得ス、最近尊族ノ無キ場合ニ於テ始メテ左ノ條項ニ依リ、分取スルコトヲ得タルナリ。

戶令ニ曰「分ニ應スル者、家人、奴婢、田宅、資財總計シテ法ニ準スヘシ、嫡母、繼母及嫡子ハ、各二分、庶子ハ一分、女子ハ半分、」

「若財ヲ同フシ居テ共ニセント欲シ、及亡人ノ存セシ日、處分、證據、灼然タル者ハ、此ノ令ヲ用キス、」

「妾ハ女子ノ分ニ同シ」

「兄弟亡スルトキハ、子父ノ分ヲ受ク」

「義解ニ嫡子ノ子ハ適子ノ分ヲ受ケ、庶子ノ子ハ、庶子ノ分ヲ受クルヲ云フトアリ、養子モ亦同シ。」

「兄弟俱ニ亡スルトキハ則チ諸子均分ス」

「義解ニ、兄ノ子一人、弟ノ子十人ナレハ、總テ十一分ト爲シ、各一分ヲ得

其ノ姉妹ノ室ニ在ル者ハ各男子ノ半ヲ得ト云ヘリ。
「寡妻妻ノ男ナキ者ハ、夫ノ分ヲ承ク」

義解ニ云、問フ、假令嫡妻子アリ、共ニ分ヲ承クルノ後、其ノ母、改嫁セハ即チ己及子ノ財ヲ齎ラシ、後夫ノ家ニ適ク、其ノ後母亡セハ、有スル所ノ財物ハ、何人ニ入ルヘキ、答フ、妻夫ノ財ヲ受クルノ文アリ、而シテ夫妻ノ物ヲ得ルノ法ナシ、即チ其ノ子ニ與フヘシ、夫ニ入ル可カラズ、其ノ母ニ於テハ嫡庶ノ名分ナシ、其ノ財物ヲ分ツハ、均分ノ法ニ從フヘシト。

「其ノ妻家ノ得ル所ハ分ツ限ニ在ラス」。

是レ妻ノ獨立財産ヲ認ムルモノナリ。

嫡母繼母各二分ストアルモ、夫亡スルノ後未分ノ前ニ改嫁シテ、他ニ適ク者ハ財ヲ得可カラサルナリ。

鬪爭律ニ云、子孫教令ニ違反シ、及供養闕アル者ハ徒一年、說者云、不孝ノ子ハ財ニ預ル可カラズ、〔法曹至要抄〕

僧尼令ニ云、僧尼私ニ園宅財物ヲ蓄ヘ、及與販、出息スルヲ得ス」

戶令、應分ノ條ニ、說者云、僧尼遺財ニ預ル可カラズ、身ノ費用ニ緣アル者〔佛具衣鉢ノ類〕ハ、分與妨ゲナシ」

喪葬令ニ云、身喪シテ、戶絶エ、親ナキ者、有スル所ノ家人、奴婢、及宅資ハ四隣、五保共ニ爲ニ財物ヲ檢校シ、功德ヲ營盡シ、其ノ家人、奴婢ハ、放テ良人ト爲ス、若亡人存スルノ日、處分、證據分明ナル者ハ此ノ令ヲ用井ス」ト。

○十二節 親族相助 戶令ニ云、凡ソ鰥寡、孤獨、貧窮、老癯、自存スルコト能ハサル者ハ、近親ヲシテ收養セシメ、近親ナケレバ坊里ニ付シテ、安贖セシムヘシト。

是レ古ノ救貧法ナリ。

第九章 治罪

○第一節 告訴告發 治罪ノ手續ハ獄令及捕亡令ニ見エ、刑條ハ律ノ諸篇ニ載セタリ、而シテ告發、捕縛、豫審、公判、處罪等ノ名稱ハ固ヨリ當時ニ於テ之ヲ用井サリシト雖、其ノ物ニ至リテハ具サニ備ハレ、今順序ヲ整ヘテ關係ノ條項ヲ譯出セバ則チ左ノ如シ

告發ノ手續ハ罪ノ種類ニ依リテ異ナリ、捕亡令ニ曰、

「凡ソ賊及殺傷セラル、者アルトキ、即チ隨近ノ官司坊里ニ告ク、告ク聞クノ處ハ隨近ノ兵及夫ヲ率井、發處ニ從テ蹤ヲ尋ネ追捕セヨ、若轉シテ比界ニ入レハ比界ト共ニ追捕セヨ、更ニ他界ニ入レハ所部ノ内司ト蹤跡ヲ對量シ、付シ訖テ然ル後ニ比界ノ者ハ歸ルコトヲ聽ス、若賊、甲ノ界ニ在テ乙ノ界ニ於テ塲盜シ及屍兩界ノ上ニアルモノハ兩

界ノ官司共ニ追捕ス

又博戯シテ財ヲ賭スル者アリテ、他人之ヲ糺告スルトキハ其ノ席中ニ在ル財物并ニ勝負ニ依テ得タル財物ハ悉ク賞トシテ糺人ニ給フノ法ナリ、官司ノ職權外ニ糺告シタル者ハ半減シテ賞トス。

盜財殺人ノ如ク現跡アルノ所犯ハ事實ニ依リ之ヲ斷スヘシト雖、其ノ他ノ犯罪ヲ告發スル者ハ甚々責任ヲ重クシタリ、即チ獄令ニ「凡ソ人ノ罪ヲ告言シ謀叛以上ニ非サル者ハ皆三審セシム」トアリテ日ヲ異ニシテ同シ告發ヲ三回反覆セシメ、始メハ文章ヲ以テ差出シ、若虛ナレバ甘シテ反坐ノ罪ヲ受ケンコトヲ宣言シ、後ノ二回ハ口頭ヲ以テシ、受辭ノ官人審後即チ告發後署記シ推斷ニ供スルナリ。未ダ三回ニ至ラザル前ニ後悔スル者ハ反坐ノ罪ヲ受ケズ。謀叛以上ノ告發ハ之ヲ密ト云ヒ、告發ハ國司ニ對シ之ヲ爲シ、國司ナケレバ次官ニ爲シ、三審スルニ違ナ

キトキハ立即ニ三タヒ示語セシメ、サテ告發者ヲ禁監シオキテ掩捕スヘキ者ハ即チ掩捕スルナリ。

○節逮捕 當時ハ兵士ヲ逮捕ニ假用シタルナリ、即チ捕亡令ニ曰、

「凡ソ罪人ヲ追捕スルニ發スル所ノ人兵(人夫及兵士)ハ皆事ニ隨テ斟酌シ多少ヲシテ濟スニ堪ヘシメヨ、其ノ當界ニ軍團アラハ即チ與ニ相知テ隨即討撲セヨ、若力制スルコト能ハズンハ即チ比國比郡ニ告ケヨ、告ヲ得タルノ處ハ審ニ事實ヲ知り先ツ兵ヲ發シ、相知テ剪除シ、仍ホ馳驛シテ上奏セヨ」ト。

又囚人、征人、防人、衛士、仕丁、流移ノ人ノ逃亡ニ付キテハ別ノ規定アリ、但シ征人ハ征伐ニ出陣スル者、防人ハ邊境ヲ防ル者ナリ、此等ハ逃亡ヲ企テタル土地ノ隨近官司ニ申條シ、兵士人夫ヲ假ラス、逃亡者ノ家居所屬及比國比郡ニ告ケテ追捕セシムルナリ。

○三 裁判管轄 治罪ニ關係ノ官廳ハ太政官、刑部省、各省國郡ナリ、而シテ罪ノ輕重ト犯者ノ處在トニ依リ管轄ヲ異ニス、左ノ如シ。

太政官 流罪以上。

刑部省 官吏ノ徒罪并ニ京ニ貫屬セサル者ノ京ニテ犯シタル徒罪以下ハ直ニ決シ流罪以上ハ太政官ニ送ル。

諸司 所屬官吏ノ杖罪以下ハ直ニ決シ、徒罪以上ハ刑部省ニ送ル。

京職 京ニ貫屬スル者ノ杖罪以下ハ直ニ決シ、徒罪以上ハ刑部省ニ送ル。

國 杖罪ハ直ニ決シ、徒罪以上ハ太政官ニ申覆ス。

郡 答罪ハ直ニ決シ、杖罪以上ハ郡ニ於テ斷定シテ國ニ送ル。

即チ當時ノ制ニ於テハ司法ト行政トノ區分ヲ立テサリシナリ。

○四 裁判手續 (イ) 審問 當時ノ豫審法ニ於テハ五聽ト云フ事アリ

一ニ辭聽トハ其ノ言ノ出ツルヲ見ルヲ云フ不直ナレハ則チ煩ス、二ニ色聽トハ其ノ眼色ヲ觀ルヲ云フ不直ナレハ則チ蹙然タリ、三ニ氣聽トハ其ノ氣息ヲ觀ルヲ云フ不直ナレハ則チ喘ス、四ニ耳聽トハ其ノ聆聆ヲ觀ルヲ曰フ不直ナレハ則チ惑フ、五ニ目聽トハ其ノ眸子ヲ觀ルヲ云フ不直ナレハ則チ眩然タリ。又拷鞠ノ法ヲ用ユ獄令ニ曰「諸ノ証信ヲ檢シ、事狀疑似ニシテ猶實ヲ首ハサル者アリ、然ル後ニ拷掠セヨ」ト。然レトモ捕亡令ニ「若狀驗ヲ得サルハ即チ徵拷ヲ加フルコトヲ得ス」トアルニテ證據十分ナラサルヲ拷問ニ付スルコトヲ得サリシヲ知ル可シ。毎訊相去ルコト二十日三度ニ充テテ決ス、但シ重害(今ノ重罪)ノ如ク盜、殺、放火等ニ非ス及疑似ノ處少ナクハ必スシモ三ニ滿ツルヲ須マス。サテ囚ヲ問ヒ辭定マルトキハ訊司口ニ依テ寫シ訖テ囚ニ對テ讀示ストハ今ノ口供ヲ云フナリ。

未決犯罪人ノ拘留ヲ禁囚ト云ヒ以テ獄囚ト區別ス。凡ソ禁囚ハ死罪ハ拐拐ヲ付シ、婦女及流罪以下ハ杖ヲ去ル、其ノ杖罪ハ散禁トテ唯々出入ヲ禁スルノミニ止マル、年八十以上十歳以下、及廢疾懷孕侏儒ノ類ハ死罪ヲ犯スト雖亦散禁ス。

主典ノ事ヲ檢スルハ、唯々事狀ヲ檢出スルコトヲ得、輒ク與奪ヲ言フコトヲ得ス。トアルハ豫審ノ官ト判決ノ官ヲ異ニシタル所以ナリ。

(口)判決 凡ソ諸司事ヲ斷スルハ悉ク律令ノ正文ニ依ル、死罪ハ天皇ノ親判ニシテ太政官之ヲ奉行セマリ。流罪ハ太政官ニ於テ決シテ後ニ奏上ス。徒罪ハ專ラ刑部省ニ於テ之ヲ決ス。杖以下ハ京職又ハ地方官之ヲ決ス、皆律ノ規項ニ依ル。僧尼ハ僧尼令ニヨリ之ヲ處分シ律ヲ適用スルノ限ニ非ス、其ノ之ヲ適用スヘキ場合ハ先ツ還俗セシム。然ルニ格段ナル場合ニ於テハ太政官ニテ會議ヲ開キ判決セマリ、即チ

後ニ云フ議請ノ場合、流罪以上及除免官當ノ場合、處斷疑アル場合、斷チ經テ伏セサル場合是レナリ。衆議ニ與ル者ハ大納言以上及刑部卿、大輔、少輔、判事ナリ、其ノ他ノ官司ト雖別勅アレハ參議スルコトヲ得。意見異ナル者ハ人別ニ上申シ太政官簡斷シテ事情ヲ具シ奏聞ス、トアルニテ現今ノ合議裁判ノ多數決ノ法ハ當時ニ於テ未ダ行ハレサリシヲ知ルヘシ。

地方ノ刑事ニ就キテハ太政官ヨリ監督ヲ行フコトアリ、即チ盜殺及徒罪以上ハ朝集使ニ付シテ太政官ニ申ス、此ニ於テ太政官ハ強明ニシテ法律ヲ解スル者ヲ取り、道ヲ分ケテ現囚ヲ巡覆セシメ、事盡キテ未ダ斷ゼサル者ハ催促シテ判斷セシメテ後之ヲ覆シ、國司枉斷シ、使人推覆スルニ、罪無キコト灼然トシテ免スヘキ者ハ之ヲ免シテ後太政官ニ報告シ、使人ト國司ト見解ヲ異ニスルトキハ各上申シテ裁定ヲ乞フ、使人ニ

於テ斷スヘキヲ斷ゼス爲ニ滯滞ヲ來ス時ハ國司ヨリ其ノ旨太政官ニ上申セシム。使人ハ其ノ處ニ至ルノ日先ツ獄囚ノ枷紐席及疾病糧餉ノ事ヲ檢行シテ法ノ如クナラザルモノアラハ亦狀ヲ以テ申シテ考ニ付ス、即チ考課令ニ依リ國司ノ進退ヲ定ムルノ一點トスルナリ。凡ソ犯罪未タ發セス及既ニ發シテ未タ斷決セスシテ格ノ改ムルニ違フ者若格重ケレハ犯時ニ依ルヲ許シ、若格輕ケレハ輕法ニ從フコトヲ聽ス。

若國ニ疑獄アリテ決セサレハ刑部省ニ獻シ仍ホ疑ハシキハ太政官ニ申セ、數罪俱發ハ之ヲ更犯ト稱ス、名例律ニ凡ソ罪ヲ犯シ既ニ發シ及已ニ犯シテ更ニ罪ヲ爲セルモノ各其ノ事ヲ重ヌトアル是レナリ、而シテ其ノ重ヌルノ法モ一定セリ。

第十章 大寶律總說

○節一 大寶律ノ來歴 今世ニ傳フル所ノ大寶律ハ帝國史略ニ述ヘタル如ク天智天皇ノ時始メテ選定シタル所ヲ、天武、持統ニ朝ノ修正ヲ經テ、文武天皇ノ四年藤原不比等ニ勅シテ修定セシメ、翌大寶元年八月ヲ以テ、大寶令ト同時ニ成功シタル所ヲ、元正天皇ノ養老二年ニ至リ、更ニ不比等ニ勅シテ修定セシメタルモノナリ。大化改新ノ時ヨリ天智ノ初年ニ至ルマテ成文ノ刑律ナシト雖、大概ハ唐律ニ準スルノ主義ナリシコト、當時ノ形勢ヨリ推察スヘシ、而シテ大寶律ノ成文ニ至リテハ之ヲ唐律ト比較スルニ大同ニシテ小差アルノミ、即チ規模ヲ彼ニ取り傍我國情ヲ觀テ斟酌シタルモノナリ。

此ノ刑律ハ著シク變更ヲモ加ヘスシテ、殆ト五百年間實行セラレタリ、

唯々聖武ノ朝ニ於テ崇佛ノ爲ニ刑政弛ミタリト雖、刑律ノ成文ニ至リテハ曾テ之ヲ改メタルコトナシ、然ルニ保元平治以後文武懸隔シ、朝廷ノ威嚴文門ノ上ニ行レ難キニ至リテ、大寶律ノ行ハル、範圍漸ク減縮シ、鎌倉幕府ノ時ヨリ、唯々朝臣即チ所謂公家ノ上ニノミ行ハル、ニ至レリ。

且應仁京師兵亂ノ後ハ律本ノ完全ナルモノナク、一時ハ全ク佚亡シタルヲ徳川家康慶長十九年遺書ヲ天下ニ求ムルニ及ヒ名例賊盜ノ殘闕ニ篇ヲ得タリ、後又職制禁衛ノ二篇ヲ得タリ、其ノ他ハ未ダ發見セラレズ。

是ヲ以テ全部十二篇ノ中、今ハ唯々四篇ヲ存スルノミナリト雖、大寶令ノ集解及其ノ餘ノ古書中ニ律ノ原文ヲ引用シタルモノ間、アリテ文政年中ニ石原正明ト云フ人之ヲ拾集シ、唐律ヲ參照シ、關文ヲ補ヒテ一書

トナシ、律逸ト題シテ世ニ公ニシタリ、此ノ書ニ依ルトキハ以上四篇ノ外ナル諸篇ノ一斑ヲモ伺フコトヲ得ヘシ。

○二法曹至要抄、金玉掌中抄、裁判至要抄 法曹至要抄ハ大

寶律ヲ解説シタル後人ノ著書ニシテ今ニ存スル中ノ最モ重要ナルモノナリ、群書類從ニ之ヲ收メ上中下三卷アリ、著者ハ明法博士坂上明兼ニシテ崇徳天皇時代ノ人ナリ、即チ院中ノ政盛ニ行ハレシ時代ニシテ形勢稍變シ、律令モ漸ク古ノ儘ニテハ行ハレ難クナリ、且檢非違使タル武人ヲシテ刑政ヲ行ハシムルニ至リタルヨリ、其ノ用ニ供ヘシ爲大寶律ノ條文中最モ多ク適用スヘキモノヲ抄出シ時勢ニ應ジテ解釋ヲ付シタルモノナリ。

金玉掌中抄ハ北條執權ノ時代ニ中原章任ノ撰ム所ナリ、律條ノ重要ナルモノヲ簡明ニ摘出シ、之ニ今按テ加ヘテ初學ニ便ニシタリ、一卷ニシ

ヲ群書類從律令部ニ收メタリ。

裁判至要抄ハ土御門天皇ノ建永二年ニ明法博士坂上明基後鳥羽上皇ノ院宣ヲ奉シテ撰ム所ナリ、蓋令ノ諸編中尙ホ當時ニ於テ有効ナリシモノ、田島賣買、舉錢利子、遺産處分、奴婢牛馬、鬮遺鬮蓄等三十二目ヲ拔出シテ今按ヲ加ヘタルモノナリ、一卷ニシテ群書類從律令部ニ收メタリ。

○三 大寶律ノ組織 大寶律ハ卷首ニ其ノ前加篇トシテ五刑、八虐、六議ノ表ヲ掲ケタリ、五刑ハ刑ノ種類ニシテ八虐六議ノ事ハ下文ニ注シタリ。第一篇以下左ノ如シ

第一、名例律 (廿五條存シ後闕ク) 是レ刑ノ適用法及治罪ノ特例ヲ掲ケタルモノナリ。

第二、禁衛律 (前闕ク十四條存ス) 是レ宮闕并關塞ノ靜肅及警備ニ關スル刑律ナリ。

第三、職制律 (凡ソ五十六條皆完シ) 是レ官吏ノ職務ニ關スル罪及汚職ノ刑律ナリ。

第四、戶婚律 (律逸ニ廿七條ヲ存ス) 是レ戶籍、婚姻ニ關スル刑律ナリ。

第五、賊盜律 (凡ソ五十三條皆存ス) 是レ亂倫兇姦ノ犯罪ヲ總稱シ唯々盜偷ノミヲ云フニ非ス。

第六、厩庫律 (律逸ニ廿一條ヲ存ス) 是レ牛馬ノ牧養獸蓄ノ飼養ニ關スル刑律ナリ。

第七、擅興律 (律逸ニ六條ヲ存ス) 是レ兵力武器ノ私用ニ關スル刑律ナリ。

第八、鬪訟律 (律逸ニ三十七條ヲ存ス) 是レ歐打殺傷及誣告ニ關スル刑律ナリ。

第九、詐僞律 (律逸ニ十四條ヲ存ス) 是レ官物僞造及詐稱ニ關スル刑

律ナリ。

第十、雜律 (律逸ニ二十七條ヲ存ス) 是レ醫藥錯誤、負債不償、姦姪、失火、物品毀損等ノ諸犯ニ對スル刑律ナリ。

第十一、捕亡律 (律逸ニ十條ヲ存ス)

第十二、斷獄律 (律逸ニ二十二條ヲ存ス)

以上二篇ハ治罪ノ手續ニ係ル罰例ナリ、惟フニ治罪ノ規律ニ違フヲ以テ一種ノ犯罪ト認メタルナリ。

○四節 大寶律ノ法理 大寶律ノ基本タル法理ハ、大寶令ニ於ケルト異ナルコトナシ、即チ表ニ公平ナル道德國家ノ主義ヲ取リテ、暗ニ門閥主義ヲ插ミタルモノナリ。著シク人倫ニ違背スル八虐ヲ殊サテ重罰スルハ尙ホ道德主義ヲ以テ推スヘシ、然レトモ六議ニ至リテハ門地アル者ノ爲ニ特別ノ利益ヲ生スルコト顯著ナリ。又大寶令ノ制ニシテ

既ニ官位ニ門閥主義ヲ混シタル上ハ官位ニ據ル刑事上ノ特免ハ皆同主義ヲ取ルモノト謂ハサルコトヲ得ス、例ヘハ八位勳十二等以上ノ者ノ父母妻子流罪以下ヲ犯シタルトキハ贖ヲ聽シ本人ハ其ノ官ヲ以テ徒ニ代フルコトヲ聽ス制ノ如シ。此等ノ特權ニモ官位ノ高下ニ依リ段階アリテ三位以上ニ於テ最モ寬大ニシテ、五位以上之ニ次キ、八位以上又之ニ次ク。父ハ其ノ子孫ニ對シ懲罰ノ權ヲ有スルコトヲ公認シ衆人奴婢ハ未タ全ク裁判ヲ受クルノ權アラズ。

第十一章 五刑八虐六議及名例律

○節一刑名 大寶律ハ刑罰ヲ五トシ、各數等アリ、左ノ如シ

〔二等〕 〔三等〕 〔三等〕 〔四等〕 〔五等〕

| | | | | | |
|----|----|-----|----|-----|----|
| 死罪 | 絞罪 | 斬罪 | | | |
| 流罪 | 近流 | 中流 | 遠流 | | |
| 徒罪 | 一年 | 一年半 | 二年 | 二年半 | 三年 |
| 杖 | 六十 | 七十 | 八十 | 九十 | 百 |
| 笞 | 十 | 二十 | 三十 | 四十 | 五十 |

(二) 死刑 法曹至要抄ヲ按スルニ絞ヲ以テ輕ト爲シ斬ヲ以テ重ト爲ス所以ノ者ハ絞罪ハ時ヲ待テ而シテ殺シ、若時ヲ待ツノ間ニ恩詔ニ會ヘハ則チ徒流ニ配ス、故ニ輕シト爲ス、斬罪ハ時ヲ待タスシテ之ヲ殺ス、

故ニ重トナスナリト。

死刑ハ又之ヲ大辟ト云ヒテ三タヒ覆奏シタル後ニ非サレハ之ヲ行ハズ惡逆見ユニ以上ハ一タヒ覆奏シ家人奴婢主ヲ殺スハ一タヒモ復奏セサルナリ。罪人ニハ枷ヲ着ケ一囚ニ五人ノ防援ヲ添ヘ刑處ニ送ル五位以上及皇親ハ馬ニ乗ルヲ聽シ親族故舊ノ辭訣スルヲ聽セリ。刑ノ執行ハ皆市ニ於テシ五位以上及婦ノ絞ハ隱處ニ於テス。在京五位以上ノ死刑執行ニハ刑部小輔以上及彈正衛士府之ヲ臨監シ其ノ彈正ハ冤枉灼然タルモノアラハ執行ヲ停メテ奏問スルノ權アリタリ地方ニ在ル五位以上ノ執行ニハ次官以上臨監ス。

立春ヨリ秋分ニ至ルノ間ハ死刑ヲ覆奏シ執行スルコトヲ得ス惡逆以上及家人奴婢ノ主ヲ殺シタルハ此ノ限ニ非ズ。大祀齋日朔望晦上下弦等ノ日ニモ死刑ヲ決季セズ之ヲ決奏スルトキ雅樂寮ハ音樂ヲ止ムルヲ例トシタリ。

ルヲ例トシタリ。

(二)流罪 近流ハ京ヨリ三百里中流ハ五百六十里遠流ハ一千五百里ナリ太政官罪ノ輕重ニ依テ之ヲ量配シ符ヲ京ハ刑部省地方ハ國司ニ下シテ一季ノ末毎ニ行ハシム。流罪ニ處セラレタル者ハ妻妾ヲ棄放シテ配所ニ至ルヲ得ス必ス同行スルヲ要ス故ニ太政官ノ符ニハ必ス隨行スヘキ家口及發遣ノ日月ヲ記セリ。之ヲ配所ニ送達スルニハ防援ヲ遞差シ專使部領シ了レハ速ニ元ト送リシ處ニ報シ並ニ太政官ニ申ス。路ニ在テハ通過スル固ヨリ程糧ヲ給シ一處ニ停留スルコト二日ヲ過ルヲ得ス。行程ノ日子ハ之ヲ刑期ニ算入セス領送スル使人ノ路ニ在テ故無ク警留シタルハ狀ヲ以テ太政官ニ上申ス。反逆縁坐ノ者及反逆ニ因リ死ヲ免シテ配流セル者ノ外ハ六歲以後ハ仕官スルコトヲ得。

常流ハ遠近ニ拘ラズ配處ニ於テ一年役セラレ特ニ重キハ加役流ト稱シ、遠處ニ配シテ三年役セシム、期滿チ又ハ中途ニシテ赦ニ逢フモノハ其ノ配處ニ於テ民籍ニ就キ一般人民ノ庸役ヲ課セラル、當官、收贖、老疾ノ場合ハ始ヨリ役セス。

(三)徒罪 徒罪ノ取扱ハ刑部式ニ讓リテ律逸ニハ唯々左ノ諸項ヲ見ルノミ曰、凡ソ徒ヲ犯シ居役ニ配ス應キ者、畿内ハ京師ニ送ル、在外ハ當處官ニ供役セヨ、略婦人ハ縫作及舂ツクニ配スト、但シ在外トハ地方ヲ謂フ、凡ソ流徒ノ罪居作スル者ハ鈇若クハ盤枷ヲ着ケヨ、病アレハ脱スルコトヲ聽ス、巾ヲ着スルヲ得ス、毎旬ニ一日ヲ給暇ス、所役ノ院ヲ出ツルヲ得ズ、患ノ暇ハ日ヲ倍ス、役滿テハ本屬ニ遞送セヨト。「凡ソ徒流ノ囚役ニ在テハ、囚一人ヲ兩人防援セヨ、在京ノ者ハ物部及衛士ヲ取テ充テ在外ノ者ハ當處ノ兵士ヲ取リ分番防守セヨトアル註ニ平生囹圄ニ

在ル者ハ既ニ其ノ身ヲ禁ス、在役ノ法ト同フス可カラストアリ。

(四)杖及笞 杖ハ皆節目ヲ削去リ、長三尺五寸、因テ訊ヒ及常ニ行フノ杖ハ大頭經四分小頭ナル三分ト是レ杖刑及拷訊ニ用キル所ナリ、其ノ笞刑ニ用キル所ハ大頭ナルハ三分小頭ナルハ二分トアリ。杖笞刑ヲ執行スルニハ臀ニ受ケシメ、拷訊ハ背又ハ臀ニ受ケシム。

○節二 八虐 國家朝廷親族ハ當時ノ社會組織中ノ特ニ重キモノナレバ此等ニ對スル犯罪ヲ枚擧シテ常例ノ外ニ設キタルモノヲ八虐ト云フ、八虐ノ中ヲ犯シタル者ハ常赦ニ會フモ赦サレズ、又次ニ謂フ所ノ六議ノ特典ヲ受クルヲ得ズ。

(一)謀反 八虐ノ第一ヲ謀反トス、是レ國家ニ對スル罪ノ最モ重キモノニシテ帝室ニ對スルモノト區別シタルハ注意ス可キ一點ナリ。律ニ曰「國家ヲ危クセント謀ルヲ謂フト國家ノ字ノ見エタルハ大化二年ノ

大詔及此ノ文ヲ始トス。

(二)謀大逆 是レ帝室ニ對スル罪ノ第一ナリ律ニ「山陵及宮闕ヲ毀ダシト謀ルヲ謂フ」トアリ。

(三)謀叛 是レ國家ニ對スル罪ノ第二ニシテ「國ニ背キ僞ニ從フヲ謂フ」トアルニテ國家全體ヲ覆ヘサントスルニ非ス唯タ「本朝ニ背テ蕃國ニ投シ或ハ城ヲ翻シ從ヘ或ハ地ヲ以テ外奔セントスル」ヲ謂フ。

(四)惡逆 是レ親族ニ對スル犯罪ノ第一ナリ即チ祖父母父母ヲ歐テ及殺サント謀リ伯父叔父姑兄弟外祖父母夫夫ノ父母ヲ殺セル者ハ此ノ罪ニ當ルナリ。

(五)不道 是レ特ニ慘忍ナル處爲并親屬ニ對スル罪ノ第二等ナリ即チ一家ニシテ死罪ニ非サル者三人ヲ殺スハ其ノ一ナリ一家トハ盜賊律ノ註ニ同籍及二等ノ親外祖父母チ一家ト爲ス奴婢家人ハ非トアリ是

レ皆斬罪ナリ但シ二家ニ於テ合數三人ヲ殺スモノハ虐ニ入ラズ。「人ヲ支解ス」トテ管ニ殺スノミナラス其ノ肢脚ヲ解散スルモ此ノ中ナリ。次ニ「伯叔父母母夫夫ノ父母ヲ歐テ告ケ及殺サント謀ル」モノハ虐ニ入ル其ノ「告」ハ罪惡ヲ告發スルヲ謂フナリ。次ニ「四等以上ノ尊長ヲ殺シ及妻ヲ殺ス」モ此ノ内ナリ。

(六)大不敬 是レ帝室ニ對スル罪ノ第二等ニシテ特ニ祖宗及天皇ノ一身ニ關スルモノナリ。「大社ヲ毀ツ」コト其ノ一ニ居ル大社ハ伊勢ト賀毛トチ云フ。次ニ「大祀ヲ盜ミ神御ノ物乘輿服櫛ノ物ヲ盜ミ神璽内印ヲ盜ミ及僞造シタル者」モ此ノ部ニ屬シ其ノ他左ノ諸事アリ曰「御藥ヲ合和スルニ誤テ本方ノ如クセサル者曰其ノ封題ヲ誤ル者例ヘハ丸藥ヲ以テ散藥ト爲シ風藥ヲ疝藥ト爲シタル類曰御膳ヲ造ルニ誤テ食禁ヲ犯シタル者天皇ニ奉ル可カラサル食物ヲ奉ル者曰御幸ノ舟船

ヲ誤テ堅固ニセサル者、曰、乘輿(天皇)ヲ指斥シ情理切害アル者、曰、詔使ニ對捍シテ人臣ノ禮ナキ者是レナリ。

(七)不孝 是レ家族ニ對スル罪ノ第三ニシ數項ヲ包含セリ、曰、祖父母父母ヲ告言シ詛晉シタル者、曰、祖父母、父母ノ在スニ籍ヲ別ケ財ヲ異ニシタル者、曰、父母ノ喪ニ居テ自身ヲ嫁娶シ若クハ樂ヲ作シ、服ヲ釋キ、吉ニ從ヒタル者服ハ喪服ヲ云フ曰、祖父母父母ノ喪ヲ聞キナカラ匿シテ喪ヲ舉ケサル者、曰、詐テ祖父母父母死シタリト稱セシ者、曰、父祖ノ妾ヲ奸セシ者。

(八)不義 是レ社會ノ尊長ニ對シ及妻ノ夫ニ對スル罪ニシテ左ノ諸項ヲ包含ス、曰、本主主トシテ事ヲ奉ル所ノ人ナリヲ殺シ、身ニ業ヲ受クルノ師ヲ殺シ、若クハ吏卒ニシテ本部自身ノ奉職ノ所ナリノ五位以上ノ官長ヲ殺シタル者、曰、夫ノ喪ヲ聞キナカラ匿シテ喪ヲ舉ケズ、若クハ樂ヲ作シ、服ヲ釋キ、吉ニ從ヒ

及改嫁シタル者

○節三六議 六議ハ又之ヲ議減ト稱シ、左ニ掲クル六種ノ資格ノ一アルモノニ於テ死罪ヲ犯シタルトキハ先ツ天皇ニ奏上シテ太政官ニ於テ請議シ、議定マリテ奏裁スルノ後始メテ決スルヲ云フ、又流罪以下ヲ

犯シタル者ハ各一等ヲ減ス、唯タ八虐ハ此ノ特典ニ配ルヲ得ス。

(一)親ヲ議ス 親トハ皇族及皇帝ノ五等以上ノ親及太后、皇太后ノ四等以上ノ親ヲ謂フ。

(二)故ヲ議ス 故ハ舊故ヲ謂フトアリテ註ニ「宿ニ天皇ニ侍見シ、特ニ恩遇ヲ蒙ムリ、久キヲ經タル者ヲ謂フトアリ」。

(三)賢ヲ議ス 賢ハ大德行ヲ謂フトアリテ註ニ「賢人君子言行法則ト爲スヘキモノヲ謂フト見エタリ」。

(四)能ヲ議ス 能ハ大才藝アルヲ謂フトアリテ註ニ「能ク軍旅ヲ整ヘ、政

事ニ莅ミ、帝道ヲ鹽梅シ、人倫ニ師範タルモノヲ謂フトアリ。
(五)貴ヲ議ス。三位以上ヲ貴ト云フコト前述ノ如シ。

○請減 六議ニ次テ門閥主義ノ著シク顯ハレタルモノヲ請トス、即チ左ノ資格アル者罪ヲ犯シタルハ情ヲ具ヘテ奏請シ勅許ヲ以テ流罪以下ハ一等ヲ減セラル、ナリ、但シ八虐ヲ犯シタル者、人ヲ殺シタル者、監守ノ内他ノ妻妾ヲ姦シタル者、盜ミタル者、人ヲ略シタル者、財ヲ受ケ法ヲ枉ケタル者ハ此ノ特典ニ配ルチ得ス。

(一)六議ノ一ニ相當スル者ノ祖父母、父母、伯叔、姑、兄、弟、姊、妹、妻、子、姪、孫
(二)五位以上及勳四等以上

凡ソ七位以上、勳六等以上及上文謂フ所ノ請ニ當ル者ノ祖父母、父母、妻、子孫(但シ曾孫、玄孫ニ及ハス)流罪以下ヲ犯シタルハ各一等ヲ減スルノ例ニ從フ、蓋例ニ從フト云フハ其ノ請ニ當ル人ノ減ス可キ場合ニ於

チ減スルニテ必スシモ減スルニ非サルカ故ナリ。

○節聽贖 凡テ議又ハ請ニ依リテ減ス應キ者及八位勳十二等以上

若クハ官位君位議請ニ相當スル者ノ父母、妻子、流罪以下ヲ犯シタルトキハ贖ヲ聽ス、官當ヲ以テスヘキモノハ自ラ官等ノ法ニ從フ。其ノ加役流、反逆緣坐流、子孫犯過失流(過失ニ因リ祖父母、父母ヲ殺シ流罪ニ處セラル、者ヲ云フ)及赦ニ會フト雖猶ホ流ス者(蠱毒ヲ造蓄シテ流罪ニ處セラル、者四等尊屬從父兄姊異父兄姊ヲ殺シ流罪ニ處セラル、者等ハ赦ニ會フモ猶ホ流ス)ハ各減贖スルコトヲ得ス、除名配流スルコト法ノ如シト、但シ除名ノコトハ下文ニ見エタリ。其ノ二等以上ノ尊長及外祖父母、夫、夫ノ父母ニ對シ過失殺傷ヲ犯シテ徒ニ相當スル者若クハ人ヲ毆テ癱疾ニ至ラシメ流ニ相當スル者、男夫盜ヲ犯シ及妻妾姦ヲ犯ス者モ亦減贖スルコトヲ得ス。

「凡ソ婦人官位アリテ罪ヲ犯ス者ハ各其ノ位ニ依リ、議請、贖、當免ノ律ニ從ル。」凡ソ五位以上ノ妾八虐ニ非サル罪ヲ犯シタル者ハ流罪以下贖ヲ以テ論スルコトヲ聽ス。

「凡ソ一人ニシテ議、請ノ減罪ニ當ルヘキ資格ヲ兼有スルトキハ一ノ高キモノヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得ルモ累減スルコトヲ得ス。」

○五 官當

官當トハ勳位ヲ下スニ代ヘテ罪ヲ減スルナリ。名例律

ニ曰、凡ソ私罪(私曲ノ罪ヲ云フ)ヲ犯シ官ヲ以テ徒ニ當ツル法ハ一品以下三位以上ノ一官ヲ以テ徒三年ニ當テ、五位以上ハ一官ヲ以テ徒二年ニ當テ、八位以上ハ一官ヲ以テ徒一年ニ當ツ、其ノ公罪(公事ニ緣リ罪ヲ犯シテ私曲ナキモノ)ヲ犯シタルトキハ各一年ヲ加ヘ當ツト。

以上ハ門閥ニ因ル治罪ノ特例ニシテ一方ヨリ見レハ血族ノ特權ナリ、次ニ同シ名例律ニ見エタル治罪ノ規例ヲ擧ケン。

○六 附加刑

當時ノ刑法ニ於テ職位アル者重科ヲ犯ストキハ罪法

ノ指ス所ニ隨ヒ其ノ職位ヲ辭退セシメタリ、即チ辭退ノ差ニアリテ最モ重キヲ除名トシ、免官及免所居官之ニ次ク。

除名ト云フハ分限削奪ナリ、名例律ニ曰、凡ソ除名ハ官位勳位悉ク除キ、

課役本色ニ從フ、六載ノ後叙スルコトヲ聽スト、即チ犯罪ノ第七年ニ至リ更ニ官位ニ敘セラル、コトヲ得ルニテ、其ノ位階ハ大寶令ノ部ニ述ヘタル蔭位ノ例ニ依ルナリ、若シ蔭位ナケレハ永ク庶人トナルナリ。

免官ハ現ニ居ル所ノ官位君位ヲ辭退スルニテ、除名ニ次ク處罰ナリ。

名例律ニ曰、免官ハ三載ノ後先位ニ二等ヲ降シテ敘スト。

免所居官ハ現ニ居ル所ノ一官ヲ解退スルニテ、期年ノ後先位ニ一等ヲ降シテ敘ストアリ。

凡ソ除名ハ徒三年ニ比シ、免官ハ徒二年ニ比シ、免所居官ハ徒一年ニ比

ス、初位ハ此ノ律ヲ用弗ス。

○七 老疾應特

名例律ニ曰「凡ソ死罪ヲ犯シ、八虐ニ非スシテ祖父母父母老疾侍ス應ク、家ニ二等親ノ成丁無キモノハ上請セヨ」ト即チ勅許アレハ家ニ留リテ親ヲ侍養スルコトヲ許スモノトス、但シ其ノ間ニ於テ赦ニ會フモ免サル、ナリ、侍ノ事ハ戶令ノ部ニ見エタリ。又曰「流テ犯ス者ハ權ニ留マリテ親ヲ養フ、赦例ニ在ラス、課調舊ニ依ルト即チ流罪ノ場合ニ於テ親ニ二等親ノ成丁無キ者ハ八虐ダリト雖留養ヲ許シ、且上請ニ及ハス官ニ於テ直ニ處分スルナリ、赦例ニ在ラストハ行程遲延ノ例ニ依ラス、未ダ道ニ上ラサル内ニ赦ニ會ヒタルモノト看做シテ赦免スルナリ。

○八 無兼丁者

治罪ノ爲ニ家ニ兼丁ナキニ至ルトキハ糧餉乏絶シ家内困窮スルノ恐アリ、故ニ徒ヲ免シ杖ヲ加フ。名例律ニ曰「凡ソ徒

ヲ犯シ役ス應キモ兼丁無キ者ハ徒一年ニ杖ヲ加フル一百廿、居作セシメス、一等ニ廿ヲ加フ、若徒年限ノ内ニシテ(一年ニ及ハスシテ)兼丁無キ者ハ役ス應キ日ヲ總計シ、及杖ノ數ニ應シ准シテ放ス、盜及人ヲ傷クル者ハ此ノ律ヲ用弗ス。

○九 再犯加重

名例律ニ曰「凡ソ罪ヲ犯シ已ニ發シ及已ニ犯シテ更ニ罪ヲ爲ス者ハ各其ノ事ヲ重ヌ」ト即チ告發ノ後又ハ刑ノ執行中ニ更ニ罪ヲ犯シタルトキハ各、其ノ後犯ノ事ヲ重ネテ之ヲ累科スルナリ。又曰「即チ重ネテ流ヲ犯ス其ハ留住ノ法ニ依リ決杖シ、配所ニ於テ役スル三年、若已ニ配所ニ至リテ犯スモ亦此ニ准ス」ト但シ「留住ノ法ハ決杖近流一百、中流一百三十、遠流一百六十ナリ、仍ホ各配所ニ於テ役三年、前ノ犯流應役一年ニ通シテ總四年間苦役セシムルナリ。又曰「即チ流徒ヲ累ネ役ニ應スル者ハ四年ヲ過ルコトヲ得ス、若更ニ流徒ノ罪ヲ犯

者スハ加重ノ例ニ准ス、其ノ杖罪以下各數ニ依リ之ヲ決ス、笞杖ヲ累決スル者二百ヲ過クルコトヲ得ス、其ノ加杖ス應キ亦同シト。

○十節老幼收贖 名例律ニ曰、凡ソ年七十以上十六歲以下及癘疾流以下ヲ犯サハ收贖ス。八十以上十歲以下及篤疾反逆殺人ヲ犯シ死ス應キハ上請ストハ即チ官ニ於テ斷セス上請ノ式ニ依リ上奏シテ勅裁ヲ仰クナリ。盜及人ヲ傷クルモ亦收贖ス、餘ハ皆論スル勿レトハ八十以上十歲以下ニテ反逆殺人死罪ニ當ル者及傷人罪ノ外ハ論罪セサルチ云フナリ。九十以上七十歲以下ハ死罪アリト雖刑ヲ加ヘス、即チ人アリ教令セハ其ノ教令セシ者ヲ坐ス、若賊備フ應キアレハ贓ヲ受クル者之ヲ備フト、即チ老少ノ智力少ナキニ乘シ教令シテ罪ヲ犯サシメタル者アラハ其ノ人ヲ罪シ贓物ノ備償スヘキアラハ受贓者ヲシテ備償セシムルナリ。

凡ソ罪ヲ犯ス時未ダ老疾ナラスシテ事發スル時老疾ナル者ハ老疾ニ依リ論ス、若徒限内ニ在リテ老疾スル者亦此ノ如シ。罪ヲ犯ス時幼少ニシテ事發スル時長大ナレハ幼少ニ依リ論スト。

○十一節財物沒官 名例律ニ曰、凡ソ彼此俱罪ノ贓及犯禁ノ物則チ沒官スト、彼此俱罪ハ贓トハ受財枉法ノ贓、不枉法ノ贓、監臨スル處ノ財物ヲ受クルノ贓等ヲ總シテ云フナリ、犯禁ノ物トハ鼓吹、幡幟、禁書、印璽ノ類私家ノ有ス可カラサル物ヲ云フナリ。

○十二節自首代首 法曹至要抄ニ名例律ヲ引テ曰、罪ヲ犯シ未ダ發セスシテ自首スル者ハ其ノ罪ヲ原ス。又曰、輕キ罪發スト雖重キ罪ヲ首スルトキハ其ノ重キ罪ヲ免ス。又曰、效スル所ノ事ヲ問フニ因リテ別ニ餘罪ヲ言フ者亦此ノ如シ。又曰、人ヲ遣リ代首シ若クハ法ニ於テ相容隱スルコトヲ得ル者爲ニ首シ及相告言セハ各聽スコト罪人自ラ自

首メル法ノ如シ、以下要抄ノ註解ナリ之ヲ按ヌルニ假令ハ甲罪ヲ犯シ乙ヲ遣リ代首ヒシムレハ親疎ニ限ラス之ヲ原スナリ同律ニ曰同居若クハ三等以上ノ親等ヲ相隱ハ親ト爲ス家人奴婢主ノ爲ニ隱ス(缺字)此等ノ親爲ニ首シ并告言スルモ又原スヘシ云云ト蓋原トハ情狀ヲ酌量シテ罪ヲ免スナリ。

又云自首實ナラス及盡サ、ル者ハ不實不盡ノ罪ヲ以テ之ヲ論ス死ニ至ル者ハ一等ヲ減ス。

又云財ヲ受ケ法ヲ枉ケ及法ヲ枉ケス監臨スル所ヲ受ケ及贓ニ坐スルノ類過テ悔ヒ主ニ還ス者本罪三等ヲ減シ之ヲ坐スト。

官吏職務上ノ過失ヲ自首スルヲ覺擧ト云フ法曹至要抄ニ名例律ヲ引テ曰公事ニ失錯シ自ラ覺擧スル者ハ其ノ罪ヲ原ス連坐スヘキ者一人自ラ覺擧セハ餘人亦之ヲ原ス。又曰斷罪ニ失錯シ已ニ決行スル者ハ

此ノ律ヲ用井スト即チ公事ノ失錯ト云フ中ニモ刑事ヲ決行シタル後ハ回復ノ道ナキカ故ニ自ラ覺擧ストモ爲ニ原ササルナリ。又公文書類ノ警程ニ關シテハ連坐スル者一人覺擧セハ餘ハ並ニ之ヲ原ス主典ハ免サス若主典自擧セハ並ニ二等ヲ減スト蓋主典ハ特ニ公文書類ノ認錯ナキ責ニ任スヘキモノナレハ免例ヲ嚴重ニスルナリ。

○十三節 囚禁特例 又治罪ノ特例ニシテ老幼婦女ノ禁獄ニ關スルモ

ノハ令ノ獄令ニモ見エタリ即チ前述ノ如ク囚ヲ禁スル死罪ハ枷ト紐トヲ施シ婦女及流罪以下ハ紐ヲ去リ其ノ杖罪ハ散禁スルカ例ナレド年八十歳及癡疾懷孕侏儒ノ類ハ死罪ヲ犯スト雖亦散禁ス本索ニ關セズ唯々其ノ出入ヲ禁ス。婦人禁ニ在レハ男夫ト所ヲ別ニス。婦人禁ニ在リ産月ニ臨ム者ハ保ヲ責メ出ツルヲ聽ス(即チ保釋ヲ免スナリ)死罪ハ産後滿廿日流罪以下ハ産後滿三十日並ニ即チ追禁ス。又職位ア

ル者ハ禁獄ノ法隨テ緩ナリ、即チ曰、議請減ニ應スヘキ者流以上若クハ除免官當ヲ犯ス者ハ並ニ肱、禁ス、公坐ノ流、私罪ノ徒ハ保ヲ責メ參對ス(番人ヲ附ケオクヲ云フカ)其ノ初位以上及無位ノ贖ス應キ者徒以上及除免官當ヲ犯ス者ハ桎禁シ、公罪徒ハ並ニ散禁シ、脱巾セシメスト。

金玉掌中抄ニ曰、一、拷訊セサル人ノ事、僧尼見刑部式有官位見律名五位已上ノ子孫律同癡疾令年七十以上十六以下、懷孕、侏儒、已上ハ拷訊セス、證人ヲ以テ事ヲ決ス、然レトモ近代僧侶、五位以上ノ子孫ニモ其ノ例アリ、自餘ハ然ラズ云云。

○十四節 赦免 當時ノ赦ニ常赦、大赦、非常赦ノ三種アルコト金玉掌中抄ニ見エタリ、左ノ如シ。

常赦ハ、大辟死罪以下皆赦除ス、但シ八虐、故殺人、常赦ニ免サル、所ノ者ハ赦限ニ非スト、即チ八虐及故殺人ヲ赦セス、又自餘ノ罪ニシテ律ニ於テ

特ニ常赦ニ免セスト規定シタルモノハ皆免セサルナリ。

大赦ハ、大辟以下八虐、故殺人等咸赦除ス、但シ常赦ニ免セサル所ハ赦限ニ在ラズ。

非常赦ハ、大辟以下八虐、故殺人、私鑄錢、常赦ニ免セサル所ノ者皆除ス。

第十二章 衛禁律

○闕入山陵兆域 「凡ソ山陵兆域ニ闕入スル者ハ笞五十、垣ヲ越ル者ハ杖一百、陵戸覺ラサル者ハ二等ヲ減ス、公即チ又一等ヲ減ス、故サラ縦ツ者ハ同罪ヲ與フ。」

是レ政事要略ヨリ律逸ニ引ク所ナリ、陵戸ハ山陵ヲ監守スル戸民ニシテ公ト云フハ主任者ナリ。

○闕入宮門 「宮門ニ闕入セハ徒一年、殿門ハ徒一年半、閤門ハ徒三年、杖ヲ持ツ者ハ各二等ヲ加フ、御在所ニ至ル者ハ絞、杖ヲ持ツ者ハ斬、即チ御膳所ニ闕入スル者ハ徒二年。」

是レ法曹至要抄ノ載スル所ナリ、杖ヲ持ツハ今云フ持兇器ナリ、

○闕入者 「凡ソ闕入スル者ハ闕ヲ踰ユルヲ以テ限ト爲ス、闕ニ至リ未

マ踰エサル者、宮門ハ杖六十、殿門以內ハ一等ヲ加フ、其ノ閤垣ヲ越ル者ハ絞、殿垣ハ遠流、宮衛ハ近流、宮城ノ垣ハ徒三年、京城ノ垣ハ徒一年。」

是レ法曹至要抄ニ載スル所、在京諸司皆籍ヲ以テ宮闔ニ入ルナリ。

○登高臨禁中 「凡ソ高キニ登リテ禁中ヲ臨ム者ハ杖一百」律逸

○應出宮内門籍已除 「宮内ヲ出ツヘシテ門籍已ニ除カレハ輒チ止マリテ出テス、及告劾セラレ既ニ禁止アレハ籍未タ除カレスト雖輒チ宮内ニ入ルヲ得ス、犯ス者ハ各、闕入ヲ以テ論ス」律逸

○向宮殿射 「凡ソ宮殿ニ向テ射ル、宮垣ハ徒一年、殿垣ハ一等ヲ加フ、箭入ル者ハ各、一等ヲ加フ。」

箭力ノ宮垣ニ達スヘキ距離内ニ於テセハ徒一年、殿門ニ達スヘキ距離内ニ於テセハ一等ヲ加ヘ、箭果シテ垣ニ入レハ各、一等ヲ加フルナリ。

「即チ箭開門ニ入ル者ハ徒三年、御在所ハ絞、彈ヲ放チ及瓦石ヲ投スル者ハ各、二等ヲ加フ、亦人ヲ殺ス者ハ故殺ヲ以テ論ス、即チ箭隊仗若ハ關仗内ニ至ル者ハ絞法曹至要抄」

○車駕行衛隊 「凡ソ車駕天子行列ノ行シ、隊ヲ衝ク者ハ杖一百、若兵衛及舍人ノ仗ヲ衝ク者ハ徒一年、誤ル者ハ各、二等ヲ減ス、若畜産唐突シ守衛備ヘスシテ宮門ニ入ラハ杖七十、衛ヲ衝ク者ハ笞五十」。

衝クトハ、仗隊ノ間ニ入ルヲ謂フト注セリ、誤ル者トハ故意ニ非サルヲ云フナリ。

○宿衛上番不判 「凡ソ宿衛上番ニ應シテ到ラス及假ニ因リ而シテ違フ者休暇ノ後出仕ハ一日ニシテ笞廿三日ニ一等ヲ加フ、杖一百ヲ過クレハ五日ニ一等ヲ加フ、罪徒二年ニ止マル」。

○宿衛兵仗遠身 「凡ソ宿衛スル者ハ兵仗身ヲ遠サクルヲ得ス、違フ者ハ笞五十、若輒チ職掌ヲ離ルレハ一等ヲ加フ、別所ニ宿スル者又一等ヲ加フ、主司ハ各、二等ヲ加フ」。

○行宮衛門 「凡ソ行宮ノ外營門、次營門ハ宮門ト同シ、牙帳門ハ殿門ト同シ、御幕門ハ閣門ト同シ、御在所ニ至リテハ上條ニ依ル」。

疏ニ依ルニ上條ト云ヘルハ宮殿闌入ノ罪ヲ指スニテ絞罪ナリ。

○宮城内外行夜 「凡ソ宮城内外ノ行夜ニ法ヲ犯スモノアリテ行夜主司覺ラサレハ守衛者ノ罪ニ二等ヲ減ス」。

行夜ハ夜中探行巡ノ役ヲ云フ。

○宮門外宮城門冒名守衛 「凡ソ宮門外若ハ宮城門ニ於テ守衛シ、守衛タルヘキニ非サル人ヲ以テ名ヲ冒シ自ラ代ラシメ若クハ之ニ代ル者ハ徒一年、京城門ハ二等ヲ減ス、其ノ諸處守當ニ在リテハ又一等ヲ減ス、餘犯坐スヘキ者ハ各、守衛ノ罪ニ三等ヲ減ス、主帥以上ハ守衛ノ罪

ニ二等ヲ加フ。

守衛マハ兵衛ナリ、諸所守當ハ宮門外及宮城門ノ外ノ番守ナリ、餘犯坐スヘキ者トハ、前ニ見スマル兵仗身ヲ遠クル罪等ナリ、主帥トハ番兵ノ主長タルヘキ者ヲ云ナリ。

○越兵庫垣 「凡ソ兵庫ノ垣及筑紫城ヲ越ユル者ハ徒一年(陸奥、越後、出羽等ノ柵ヲ越ユル者亦同シ)、曹司ノ垣ハ杖一百(太宰府ノ垣亦同シ)、國ノ垣ハ杖九十、郡ノ垣ハ杖七十、坊市ノ垣ハ笞五十。」

註ニ、皆門禁アル者ヲ云フ、溝瀆ノ内ヨリ入出スル者モ、越罪ト同シ、越エテ而シテ未タ過キサレ者ハ一等ヲ減ス、ト見エタリ。

即チ兵庫及城柵等ノ門閉ツヘクシテ忘レ誤テ鍵ヲ下サス、苦ハ開クヘクシテ管鍵ヲ毀リ開ク者ハ各、杖六十、錯リテ鍵ヲ下シ及鑰ニ由ラスシテ開ク者ハ笞四十、餘門ハ各、二等ヲ減ス、苦壇ニ開閉セハ各、越罪ニ一等

ヲ加フ、即チ城主故ナク開閉スル者ハ越罪ト同シ。

○私度關 「凡ソ私ニ關ヲ度ル者ハ徒一年、攝津、長門ハ一等ヲ減ス、餘關ハ又二等ヲ減ス、越度スル者ハ各一等ヲ加フ、已ニ越所ニ至リ未タ度ヲサル者ハ五等ヲ減ス。」

關トハ三關ヲ云ヒ度トハ公許ナクシテ關門ヲ過クルヲ云ヒ、越ハ正門ヨリセサルヲ云フナリ、公ノ使人ハ鈴符アリ、軍防丁夫ハ惣歴アリ、他ハ關所ニ請テ而シテ度ルナリ、然ラサル者ハ皆私度トス。

○不應度關 「凡ソ關ヲ度スヘカラスシテ過所ヲ給シ、若クハ名ヲ冒シ過所ヲ請フテ而シテ度ル者ハ各、徒一年、攝津、長門ハ一等ヲ減シ、餘關ハ二等ヲ減ス、即チ過所ヲ以テ人ニ與ヘ、及受テ度ル者亦此ニ準ス。」

「若家奴ノ人相冒サハ杖八十、主司及關司情ヲ知ル者ハ與ニ同罪、情ヲ知ラサレハ坐セス。」

過所トハ度關ノ免狀ナリ。

○關律留難 「凡ソ關律人ヲ度シ、故ナク留難スル者ハ一日ニ主司答二十、一日ニ一等ヲ加フ、罪杖一百ニ止マル。」

○緣邊城戍 「凡ソ緣邊ノ城戍、外姦内ニ入り、内姦外ニ出ツルアリテ候望スル者覺ラサレハ徒一年半、主司ハ徒一年、其ノ姦人アリテ入出シ、力敵セサル所ノ者ハ比近ノ城戍國郡ニ傳告スヘシ、若速ニ告ケス及告ケテ稽留シ、即ニ共捕セヌシテ姦寇ヲ失フニ至ル者罪亦之ノ如シ。」

註ニ衆百人ニ至ラサルヲ姦ト云フトアリ、警留ハ遲滯ナリ。

○烽候不警 「凡ソ烽候警メス、竊賊ヲシテ邊ヲ犯サシメ、及烽燧ヲ舉ケヘクシテ舉ケズ、多烽ヲ放ツヘクシテ少烽ヲ放ツ者各、徒二年、若烽ヲ放チ已ニ訖テ而シテ前烽舉ケス、即ニ往告セサル者亦之ノ如シ、故チ

以テ戸口軍人城戍ヲ敗陷セシメタル者ハ絞、

前烽舉ケサレハ、脚夫ヲ差シテ即告セシムヘキコト、令ニ規定マダリ。

第十三章 職制律

○官有員數 凡ソ官ニ員數アリテ署置限ヲ過キ、及置ク應カラスシテ置ケハ一人ニ杖一百、三人ニ一等ヲ加フ、十人ハ徒二年、後人知テ聽セハ前人署置ニ一等ヲ減ズ、規求ハ從者ト爲ス、徵須セラル、者ハ論スル勿レ、即チ軍人要速事ヲ量リ權置スル者ハ此ノ律ヲ用井ス。

凡ソ官聽ニハ令ニ依リテ定員アリ、然ルニ定員以上ノ人ヲ判任シ又置ク應キニ非サル職員ヲ置クトキハ長官罪ニ坐スルナリ、奏任以上ハ上書シテ任置スルナレハ上書詐テ實ナラサルノ罪ニ從ルヘシ、本條ヲ適用スル限ニ在ラス、規求ハ自ラ請求シテ任ヲ求メタル者ナリ、徵須ハ官命ヲ以テ徵召セラレタル者ナリ、唯々武官ハ要速ノ場合ニ專決任用ノ權アリ。

○貢舉非其人 凡ソ貢舉其ノ人ニ非ス、及應ニ貢舉スヘキヲ貢舉セサル者ハ一人ニ杖六十、二人ニ一等ヲ加フ、罪徒一年ニ止マル、若考校課誠實ヲ以テセス、及官ニ選シテ舉狀ニ乖リ、故ヲ以テ職ニ稱ハサル者ハ一等ヲ減ス、失ハ各、三等ヲ減ス、承告シテ覺ラサル者又一等ヲ減ス、知テ行ヲ聽ス者ハ與ニ同罪。

官吏任用ニ於テ誤錯アルヲ罰スルノ條ナリ、其ノ人ニ非スハ德行ニ關クル所アリ、舉狀ノ如クナラス、若ハ名實乖違シ、又ハ及第ノ後罪ヲ得タル等ヲ云フ、失トハ眞ノ過失ニシテ私意アルニ非サルヲ云フ、承告覺ラスハ校試ヲ行フニ際シ答辯ニ誤アルヲ聽キナカラ覺ラサルヲ云フ。

○在官應直不直 凡ソ官ニ在リ、直スヘクシテ直セス、宿スヘクシテ宿セサルハ各、答廿、晝夜ヲ通スル者ハ答三十、若黜シテ到ラサル者ハ一

點ニ答十。

「點」トハ官司ニ於テ時々職員ヲ點檢スルヲ云フ、一日ニ二點ヲ限リトシ三點以上ニ及フモ到ラサルトキハ全日到ラストシテ罰スルナリ。注ニ、一日ノ點限二點ヲ取リ坐ト爲ス「トアル是レナリ」。

○官人無故不上 「凡ソ官人故無ク上ラス、及番ニ當テ到ラス、若ハ假ニ因リ違フ者ハ一日ニ答廿、三日ニ一等ヲ加フ、杖一百ヲ過クレハ十日ニ一等ヲ加フ、罪徒一年半ニ止マル、邊要ノ官ハ一等ヲ加フ」。

「假ニ因リ違フ」ハ休假ノ後官ニ歸ルノ期ニ違フナリ。

○之官限滿 「凡ソ官ニ之キ限滿チテ赴カサル者ハ一日ニ答十、十日ニ一等ヲ加フ、罪徒一年ニ止マル」。

令ニ依ルニ新ニ官ニ任セラレタル者ハ支度ノ爲ニ一定ノ日子アリ之ヲ裝束程限ト云フ、其ノ日限ヲ過クレハ罪セラル、ナリ。

○大祀、不預申期 「凡ソ大祀預メ期ヲ申サス、及所司ニ預告セサル者ハ答五十、故ヲ以テ事ヲ廢スル者ハ徒一年、幣帛ノ屬法ノ如クナラサルハ杖六十、數ヲ闕クハ杖八十、全闕ハ杖一百、中小祀ハ遞ニ二等ヲ減ス」。

○祭祀朝會行事失錯 「凡ソ祭祀朝會ニ侍衛行事失錯シ乃儀式ニ違失スル者ハ答三十、集ムヘクシテ主司告ケヌ及告ケテ至ラサル者各、答五十」。

○合御藥 「凡ソ御藥ヲ合和シテ誤テ本方ノ如クセス、及封題誤レハ醫ハ徒三年、料理簡擇精ナラサル者ハ杖六十、未タ進御セサル者ハ各、一等ヲ減ス、臨當ノ官司ハ各、醫ノ一等ヲ減ス」。

「封題」ハ藥封ノ題書ナリ。

○造御膳犯食禁 「凡ソ御膳ヲ造リ誤テ食禁ヲ犯セハ典膳ハ徒三年、若穢惡ノ物食飲中ニアレハ杖一百、簡擇精ナラサルハ二等ヲ減ス、品嘗

セサルハ杖六十。

食禁トハ天子ニ奉ル可カラサル食類ナリ。

○御幸舟船「凡ソ御幸ノ舟船誤テ牢固ナラサレハ匠ハ徒二年、若整飭セス及闕少スレハ徒一年」。

「闕少」ハ撻掉等ノ船具闕少セルヲ云フ。

右ノ外天子ノ身安ニ對スル刑名尙ホ數條アリ略ス。

○漏泄大事「凡ソ大事ヲ漏泄ス、密ニスヘキ者ハ絞、大事ニ非ス、密ニスヘキハ徒一年、蕃國ノ使ニ漏泄スル者ハ一等ヲ加フ、仍テ初傳者ヲ以テ首ト爲シ、傳至者ヲ以テ徒ト爲ス、即チ大事ヲ轉傳スル者ハ杖六十、大事ニ非サル者ハ論スル勿レ」。

疏ニ「大事」トハ潜ニ討襲ヲ謀リ及謀反ヲ捕收スルノ類ヲ云フト見エタリ、密ニスヘキトハ秘スヘキヲ云フ大事ニ非ラスシテ密ニス

ヘキ者トハ、注ニ例ヘハ、風雲景色異アリ、密封シテ奏問スヘキモノ、類ナリト云ヘリ、又國家ノ事蕃國ニ聞知スルヲ欲セス、故ニ外人ニ漏泄スルノ罪ヲ重クシタリ、初傳者ハ初メ漏ス者ナリ、傳至者ハ聽カシム可カラサル人ニ傳ヘタル者ナリ、轉傳ハ其ノ中間ノ傳達者ナリ。

○玄象器物「凡ソ玄象ノ器物、天文ノ圖書、讖書、兵書、七曜曆、太一雷公式ハ私家ニ有スルヲ得ス違フ者ハ徒一年、其ノ緯候及論語讖ハ禁ノ限ニ在ラス」。

註ニ玄ハ天ナリトアリ、即チ天ヲ象リ時變ヲ觀ルノ器具ヲ云フ、天文ノ圖書ハ河圖洛書ノ類ナリト見エ、讖トハ先代聖賢記スル所ノ未來徵祥ノ言ナリト見エ、兵書トハ大公六韜、黄石公三略ノ類ト見エ、七曜曆太一雷公式ハ并ニ吉凶ヲ占フ者ナリト見エ、緯候及織ハ

五經ノ緯尙書中候、論語織ナリト見エタレト今其ノ何書タルヲ詳ニセス。

○被詔書施行違者 「凡ソ詔書ヲ被リ、施行スル所アリテ、違フ者ハ徒二年、失錯スル者ハ杖八十。」

是レヨリ以下數條ハ大寶律ニ於ケル官吏責任ノ法ナリ、失錯トハ其ノ旨ヲ失スルヲ謂フト見エタリ。

○受詔忘誤 「凡ソ詔ヲ受ケテ忘誤シ及詔書ヲ寫シテ誤マル者事若未ダ失セサレハ答卅已ニ失スレハ答五十、轉受スル者ハ一等ヲ減ス。」

○詔書誤輒改正 「凡ソ詔書誤有リテ即ニ奏聞セス、輒チ改定スル者ハ答五十、官文書誤アリ官司ニ請ハスシテ改定スル者ハ答卅、誤チ知リ奏請セスシテ行フ者亦之ノ如シ。」

○上書奏事誤 「凡ソ書ヲ上ツリ若ハ事ヲ奏シテ誤レハ答十五、口誤レ

ハ二等ヲ減ス、太政官ニ上ツリテ誤レハ答卅、餘ノ文書誤レハ答廿、即チ誤テ害アレハ各、二等ヲ加フ、若誤ツモ行フヘクシハ上書奏事ニ非サレハ論スル勿レ。」

疏ニ依ルニ例ヘハ甲申チ申甲ト書キタル如キハ誤テリトイヘトモ施行ニ妨ケナシ故ニ罰セサルナリ。

○事應奏而不奏 「凡ソ事奏スヘクシテ奏セス、奏スヘカラスシテ奏スル者ハ杖七十、言上スヘクシテ言上セス、言上スヘカラスシテ言上セ及所管ニ由ラスシテ越エテ言上シ、行下スヘクシテ行下セス、及行下スヘカラスシテ行下スル者ハ各、答五十。」

事ノ奏スヘク言上スヘキハ皆律令及格式ニ依リ定マレリ、下行トハ下級ノ官司ニ對シテ事ヲ行フヲ云フ。

○事直代判書 「凡ソ公文ハ本案有リテ事直ナリ、而シテ官司ニ代リ署

スル者杖七十、代判スル者杖一百、案ヲ亡失シテ代スル者各、一等ヲ加フ。

事直チ直ニシテ唯々依行ス須シト註シタリ即チ正當ノ職權アル者ノ判署ヲ經テ始メテ施行スヘキ類ノ公文ナルニ其ノ司ニ非スシテ之ニ代リ判署シタルヲ云フ。

○受詔出使不返 一凡ソ詔ヲ受ケ出使シ詔命ヲ返サスシテ轍チ他事ニ干ル者ハ徒一年、故チ以テ廢闕スル所アレハ徒二年、餘使妄ニ他事ニ干ル者杖七十、故チ以テ廢闕スル所アレハ杖一百、司チ越エ職ヲ侵ス者ハ答五十。

○匿父母若夫之喪 凡ソ父母若ハ夫ノ喪ヲ聞キ、哀ヲ舉ケサル者ハ徒二年、喪制未タ終ラス服ヲ釋キ吉ニ從ヒ、若ハ喪ヲ忘レ樂ヲ作ス者ハ徒一年半、雜戲ハ杖八十、即チ樂ニ遇テ聞キ及吉席ニ參預スル者各、杖

六十、祖父母外祖父母ノ喪ヲ聞キ匿シテ哀ヲ舉ケサル者ハ徒一年、喪制未タ終ラス服ヲ釋キ吉ニ從ヘハ答一百、二等以下ノ尊長ハ各、遞テ二等ヲ減ス、卑幼各、一等ヲ減ス。

服ヲ釋キ吉ニ從フトハ喪服ヲ脱シテ平時ノ服制ニ從フヲ云フ、蓋本條及次條ハ獨リ官人ノミニ適用スルニ非サルニ似タレトモ、之ヲ職制律ニ載セタルヨリ考フレハ或ハ官人ノミニ限ルノ義カ、未タ詳ナラス、或ハ治部省ノ掌司スル所タル喪儀ニ關係アルニ因リ此ニ掲ケタルモノカ。

○老疾無侍委親之官 凡ソ祖父母父母老疾侍無ク、親ニ委シテ官ニ之ク、即チ妄ニ年狀ヲ増シ以テ入侍ヲ求ムル者ハ杖一百、若祖父母、父母及夫死罪ヲ犯シ、囚禁セラレテ樂ヲ爲ス者ハ徒一年。

癡疾ニ至ラサル者ヲ癡疾ナリト云フハ尊長ニ對スル不敬ナリ、又

假令死罪ヲ犯シタリトイヘモ親子夫婦ノ關係ハ尙ホ變テス、故ニ樂ヲ爲スハ不遵不義ノ所爲ナルニ因リ罰ス。

○指斥乘輿 「凡ソ乘輿ヲ指斥シテ情理切害ナル者ハ斬切害ニ非サル者ハ徒二年、詔使ニ對押シ、人臣ノ禮ナキ者ハ絞」。

乘輿ヲ指斥ストハ至尊ヲ非毀スルコトナリ、情モ理モ俱ニ害毒アル者ハ斬罪、有害ナラサルモ徒二年ナリ、是レ今ノ皇室ニ對スル不敬ノ罪ナリ、但シ律疏ニ「政事ハ乖失ヲ言議シテ乘輿ニ涉ル者ハ上請セヨ」トアルニ注目スヘシ、即チ國家ノ法式ヲ論シ、政事ノ是非ヲ言議シテ因テ乘輿ニ涉ル者ハ乘輿ヲ指斥スルト情理稍異ナリ、故ニ律ニ刑名ヲ定メス、臨時上請シテ處分スルナリ、即チ今日ノ刑法ニ於テ國事犯ヲ不敬罪ト區別スルハ大賚律ノ時既ニ定マレル原則ナリ。私事ニ因リ詔使ト鬪競スルハ詔使對押ニ非スト疏ニ見

エタリ。

○驛使警程 「凡ソ驛使警程滯スル者ハ一日ニ答四十、二日ニ一等ヲ加ヘ、罪徒一年ニ止マル、若軍機要速ナル者ハ三等ヲ加フ、廢闕スル所アル者ハ一日ヲ違ヘハ徒三年、一日ニ一等ヲ加フ、故チ以テ戶口軍人城戍ヲ陷敗セシメタル者ハ加役流」。

廢闕スル所アリトハ遲滯ノ爲ニ經略ヲ施ス能ハサルニ至リタルノ類ヲ云フ、以下數條ハ驛遞ニ關スル刑律ナリ。

○驛使無故以書寄人 「凡ソ驛使和無ク書ヲ以テ人ニ寄セ之ヲ行ヒ、及寄ヲ受クル者杖一百、若警程ヲ致サハ行者ヲ以テ首ト爲シ、驛使從ト爲ス、即チ軍事警急ナリト爲シ而シテ警留スル者ハ驛使ヲ以テ首ト爲シ、行者ヲ以テ從ト爲ス、其ノ專使ノ書ニ非スシテ便寄スル者ハ論スル勿レ」。

緊急ノ官文ハ專使ヲ以テ送達スヘク其ノ使ニ當ル者ハ身患及父母ノ喪ニ非サレハ他人ニ寄托スルコトヲ得ス、犯ス者ハ罪スルナリ。

○文書應遣驛 「凡ソ文書驛ニ遣スヘクシテ驛ニ遣ハサス、驛ニ遣スヘカラスシテ驛ニ遣ハス者ハ杖八十。」

驛ニ遣ハスヘキハ京ニ在リテハ機速ノ事、諸國ニ在リテハ要速ノ大事ニ限レリ、即チ公式令ノ規程ニ依ルナリ。

○驛使不依題署 「凡ソ驛使書ヲ受ケ題署ニ依テス誤テ他所ニ致サハ警留スル所ニ隨ヒ行書警程ヲ以テ論シ、二等ヲ減ス、若題書者ノ誤レルニ由ルトキハ其ノ題書者ヲ坐ス。」

題署トハ表面ノ名宛書ヲ云フ。

○増乗驛馬 「凡ソ驛馬ニ増乗スル者ハ一匹杖八十、一匹ニ一等ヲ加フ

主司情ヲ知レハ共ニ同罪、知ラサル者ハ罪スル勿レ。

公式令ニ一日ニ一馬ニ乗スルノ里程ヲ限定シタリ、其ノ制限ヲ越エテ馳スルヲ増乗ト云フ。

○乘驛馬枉道 「凡ソ驛馬ニ乗シテ道ヲ枉クル者ハ五里ニ答五十、五里ニ一等ヲ加フ、罪徒一年ニ此マル、越エテ他所ニ至ル者ハ各、一等ヲ加フ、馬ヲ換ヘタル者ハ答四十。」

道ヲ枉クルハ驛路ノ外ニ入ルヲ云フ。

○乘驛馬齎私物 「凡ソ驛馬ニ乗シテ私物ヲ齎ルモノ十斤ニ答二十、十斤ニ一等ヲ加フ、罪杖一百ニ止マル。」

○長官使人有犯 「凡ソ在外長官及使人、使處ニ於テ犯スコト有レハ所部屬官等即チ推スコトヲ得ス、皆上申シテ裁ヲ聽クヘシ、若犯死罪ニ當レハ身ヲ留テ報ヲ待チ、違フ者ハ各、犯ス所ノ罪四等ヲ減ス。」

地方ノ上官及中央官廳ノ使人ノ出テ、地方ニ在ル者其ノ地方ニ於テ犯罪アルトキハ部下ノ官吏又ハ使人所詣ノ地ノ屬官ニ於テ直ニ其ノ上官又ハ使人ヲ推鞠スルコトヲ得ス、先ツ本省ニ上申スヘシ、唯々死罪ノ場合ニ於テハ本省ノ指令下ルマデ本人ヲ散留セヨトノ義ナリ。

○用關契、替留 「凡ソ關契ヲ用井事訖リテ輸納スヘク而シテ替留スル者ハ一日ニ杖一百、一日ニ一等ヲ加フ、十日ハ遠流、其ノ節刀驛鈴ハ一日ニ答五十、二日ニ一等ヲ加フ、十日ハ徒一年、傳符ハ三等ヲ減ス」。

○公事應行而替留 「凡ソ公事行フ應クシテ替留シ、及事期會アリテ違フ者ハ一日ニ答三十、五日ニ一等ヲ加ヘ、罪徒一年ニ止マル、即チ公事限有リテ主司符ヲ下マスコト期ニ乖フ者罪亦之ノ如シ、若誤テ題署ニ依ラス及題署ヲ誤リ以テ替程ヲ致ス者各、罪二等ヲ減ス」。

○内外諸司無政跡稱己善 「凡ソ内外ノ諸司實ニ政迹無ク、人ヲ遣シテ妄ニ己カ善ヲ稱シ上ニ申請セシメスル者ハ杖一百、贓アリ重キ者ハ贓ニ坐シ論ス、遣チ受クル者各、一等ヲ減ス」。

贓物ヲ遣リテ此ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ贓ヲ計リ本罪ヨリ重キトキハ贓罪ニ從ニ論スルヲ云フ。

○有所請求、凡ソ請求スル所アル者ハ答五十、主司許ス者ハ與ニ同罪已ニ施行セシ者ハ各、杖一百。

請求トハ法ヲ枉ケンコトヲ主司ノ官人ニ請願スルヲ云フ、枉ル所ノ罪重キ者主司人ノ罪ヲ出入スルヲ以テ論シ、他人及親族爲ニ請求スル者ハ主司ノ罪三等ヲ減ス、自ラ請求スル者ハ本罪ニ一等ヲ加フ、即チ臨監勢要ナル者人ノ爲ニ屬請スル者ハ杖一百、枉クル所重キ者ハ罪主司ト同シ、死ニ至リ一等ヲ減ス。

枉クル所重キ者トハ杖百ヨリ重キ罪ニ當ル者ヲ云フ。

○受人財而爲請求「凡ソ人ノ財ヲ受ケテ請求ヲ爲ス者ハ贓ニ坐シテ論シ、二等ヲ加フ、監臨勢要ハ枉法ニ准シテ論ス、財ヲ與フル者ハ贓ニ坐シテ論シ三等ヲ減ス若官人受クル所ノ財ヲ以テ分ケテ餘官ニ求ム允受ル者ハ贓ニ併セ論シ、餘ハ各、己カ分ノ法ニ依ル。」
勢要トハ高位高官ノ勢ニ乘シテ官吏ヲシテ己カ爲ニ法ヲ枉ケシムルヲ云フ。

○有事以財行求「凡ソ事アリ財ヲ以テ求ヲ行ヒ法ヲ枉クルコトヲ得タル者ハ贓ニ坐シテ論シ、法ヲ枉ケサル者ハ二等ヲ減ス、即チ同事共與ニスル者ハ首ハ則チ贓ニ併セ論シ、從ハ己カ分ノ法ニ依ル。」

○監主受財枉法「凡ソ監臨ノ官財ヲ受ケテ法ヲ枉クル者ハ一尺ニ杖八十、二端ニ一等ヲ加フ、三十端ハ絞、法ヲ枉ケサル者ハ一尺ニ杖七十、

三十、端ニ一等ヲ加フ、三十端ハ加役流。」

是レ有名ナル受所監臨ノ法ニシテ官吏其ノ職務ニ於テ賄賂ヲ受ケテ法ヲ枉ケタルノ罪ナリ、贓物ヲ端尺ニテ算スルハ當時貨幣ノ用未ダ普通ナラス布ヲ以テ交易ノ標準トシタルニ因ル。

○有事先不許財「凡ソ事有リ、先ツ財ヲ許サズ、事過クルノ後ニシテ而シテ財ヲ受クル者事若枉クレハ枉法ニ准シテ論シ、事枉ケザル者ハ監臨スル所ノ財物ヲ受クルヲ以テ論ス。」

○受所監臨財物「凡ソ監臨ノ官、監臨スル所ノ財物ヲ受クル者ハ一尺ニ答二十、一端ニ一等ヲ加フ、十端ハ徒一年、十端ニ一等ヲ加フ、七十端ハ近流、與ル者ハ五等ヲ減シ、罪杖一百ニ止マル、乞ヒ取ル者ハ一等ヲ加フ、強ヒテ乞取スル者ハ枉法ニ准シテ論ス。」

是レ直ニ監臨スル所ノ物件ヲ賄賂トシテ受ケタル場合ノ罰ナリ、

○因使受送遺「凡ソ官人使ニ因リ使スル所ニ於テ送遺ヲ受ケ及乞取
スル者監臨ト同シ、經過ノ處ニテ取ル者ハ一等ヲ減ス」。

經過ノ處トハ使シテ到ル所ニ非スシテ其ノ途中ヲ云フ。

○貸所監臨財物「凡ソ監臨スル所ノ財物ヲ貸ル者ハ贓ニ坐シテ論ス、
若百日還サ、レハ監臨スル所ノ財物ヲ受クルヲ以テ論ス、強ル者ハ
各二等ヲ加フ、若賣買乘利アル者ハ利ヲ計リ監臨財物ヲ乞取ルヲ以
テ論ス、強テ市フ者ハ答五十、乘利アル者ハ利ヲ計リ枉法ニ准シテ論
ス即チ斷契數アリ、違負還ヘサス、五十日ヲ過グレハ監臨スル所ノ財
物ヲ受クルヲ以テ論ス、即チ衣服器翫ノ屬ヲ借り、卅日ヲ經テ還ヘサ
ザル者ハ贓ニ坐シテ論ス、罪徒一年ニ止マル」。

賣買シテ乘利アル者トハ官吏其ノ管轄部内ニ於テ物ヲ賣買シテ
時估ニ比シテ餘分ノ利益ヲ收メタルモノヲ云フ、即チ此ノ利分ニ

准シ監臨財物乞取ヲ以テ論スルナリ。「強テ市フ」トハ官吏其ノ管
轄部内ニテ威力ヲ以テ強テ財物ヲ買フヲ云フニテ後ニ價ヲ與フ
ルモ猶ホ答五十ナリ、其ノ爲ニ利益ヲ得タルモノハ枉法ニ准ス。
「斷契數アリ違負還ヘサス」トハ管轄部内ニ於テ賣買交換ノ契約ヲ
爲シ、己レノ與フヘキ所不足スルモ辨濟セスシテ五十日ヲ經過シ
タルヲ云フ。

○役所監臨「凡ソ監臨ノ官私ニ監臨スル所ヲ役使シ、及奴婢、牛馬、車船、
碾磑、邸店ノ類ヲ借ル者ハ各、庸賃ヲ計リ、監臨スル所ノ財物ヲ受クル
ヲ以テ論ス、即チ己レニ供スルニ非サル者ヲ役使セハ庸ヲ計リ贓ニ
坐シテ論ス、罪杖一百ニ止マル、其ノ己レニ供シ役使スヘキ者ニシテ
庸直ヲ收ムル者ハ罪亦之ノ如シ」。

「己レニ供スルニ非サル者」トハ官ノ爲ニ使役スヘク自己ノ用ニ供

スヘカラサル人員ヲ云フ「使役スヘキ者ニシテ庸直ヲ收シトハ自
己ノ爲ニ使役スヘキ人員ナルモ庸直ヲ出ヌサシムヘキニ非サル
者ヲ云フ。

「若吉凶アリ、監臨スル所ヲ借使セハ四十人ヲ過クルヲ得ス、人毎ニ五
日ヲ過クルヲ得ス、其ノ親族ニ於テハ限ヲ過キ及饋ヲ受ケ乞貸ルト
モ皆論スル勿レ。」

吉凶ハ祭祀葬喪ノ類ヲ云フ、此ノ時ハ官人四十人以下ヲ私ニ使役
スルコトヲ許スナリ。

○監臨官強取猪鹿之類「凡ソ監臨ノ官、強テ猪鹿ノ類ヲ取ル者ハ強テ
監臨ノ財物ヲ取ルノ法ヲ以テ論ス、乞ヒ取ル者ハ贓ニ坐シテ論ス、供
饋ヲ受クル者ハ論スル勿レ。」

○率斂所監臨財物「凡ソ監臨スル所ノ財物ヲ率斂シテ人ニ饋遺スル

者ハ己レニ入レスト雖監臨スル所ノ財物ヲ受クルヲ以テ論ス。」

○監臨官家口乞借「凡ソ監臨ノ官ノ家口所部ニ於テ受乞ヒ、借貸シ、役
使シ、賣買シ、乘利アルノ屬アラハ各、官人ノ罪ニ二等ヲ減ス、官人情ヲ
知レハ與ニ同罪、情ヲ知ラサル者ハ各、家口ノ罪ニ五等ヲ減ス。」

家口ハ家族ヲ云フ即チ監臨スル本人ノミナラス、其ノ家族ニシテ
所管部内ニ於テ私利ヲ營ム者アリテモ之ヲ處罰シタルナリ。

「其ノ官ニ在ルモ監臨ニ非ス、及家口犯スアル者ハ監臨及監臨ノ家口
ニ一等ヲ減ス。」

註ニ里長防長防令ハ有掌ノ屬ナリ、此レ在官非監臨ト爲スト見エ
タリ

○去官受舊官屬饋與「凡ソ官ヲ去テ而シテ舊ノ官屬士庶ノ饋與ヲ受
ケ若ハ乞取リ借貸スルノ屬ハ各、在官ノ時ニ三等ヲ減ス。」